資料－３①
第19回平取ダム地域
文化保全対策検討会
平成30年3月22日

アイヌ文化環境保全対策事業

【沙流川流域地域文化調査業務】

2017（平成29）年度

各作業分野における取組・成果の概況

＜Ver. 2018-03-22:平取ダム地域文化保全対策検討会＞

北海道平取町

アイヌ施策推進課アイヌ文化保全対策室

■ アイヌ文化環境保全対策事業の体制概念図　　2017（平成29）年度

◆アイヌの人たちを
はじめとする地域住民の
主体的参画

地域住民
北海道民
日本国民
世界の人たち

◆ウコウク（=リンク）
人と人、人と情報、情報と情報の
有機的なつながりを重視

国土交通省北海道開発局
室蘭開発建設部
沙流川ダム建設事業所
苫小牧河川事務所／二風谷ダム管理所

◆専門家との協働
専門家としての育成・修練

平取ダム地域文化保全対策検討会

平　取　町

平取アイヌ協会
北海道アイヌ協会／
平取アイヌ文化保存会／アイヌ語教室／
二風谷民芸組合等の関連団体

協議・調整・連携・協働

アイヌ施策推進課
アイヌ施策推進係／イオル整備推進係／
アイヌ文化保全対策係

調査事務局

調査協力者・機関
（町教育委員会、博物館・歴史館等）

作業管理スタッフ
文化環境保全調査担当学芸員

アイヌ文化保全対策室
各作業分野担当チーム（8チーム）
企画総括グループ／情報管理グループ／環境整備グループ
計13名

◆学習・公開の重視
双方向での創造的な協働

◆シミュレーション=
多角的・実証的データを
ふまえた予測と対策案提示

※ 対策室作業モットー ＝【 深める、高める、広める、そしてカタチにする 】

- ●深める　◇アイヌ文化への理解を深める。　◇地域とのつながりを深める。
- ●高める　◇調査員としての資質を高める。　◇調査・研究の専門性を高める。
- ●広める　◇視野とネットワークを広める。　◇成果を地域、社会に広める。
- ●カタチにする ◇蓄えた知見と技術を地域のためにカタチにする。◇地域・民族の願いと思いにそってカタチにする。

アイヌ文化環境保全対策事業

2017(平成29)年度
アイヌ文化保全対策室の作業体制・計画

＜沙流川流域地域文化調査業務＞1～8分野

作業分野		作業分野名称
1		精神文化保全対策に関する調査
2	1	生物の生存環境に関する調査 植物の保全対策に関する調査
	2	魚類の保全対策に関する調査
	3	動物の保全対策に関する調査
3		生活文化の保全対策に関する調査
4		文化景観の保全対策に関する調査
5		アイヌ文化の普及方策に関する調査
6		栽培実験の継続に関する調査
7		沙流川河道掘削における事前調査 （1）地域文化保全に関する調査 （2）河道掘削予定箇所現地調査
8		アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理

■ 作業分野別担当チームの編成

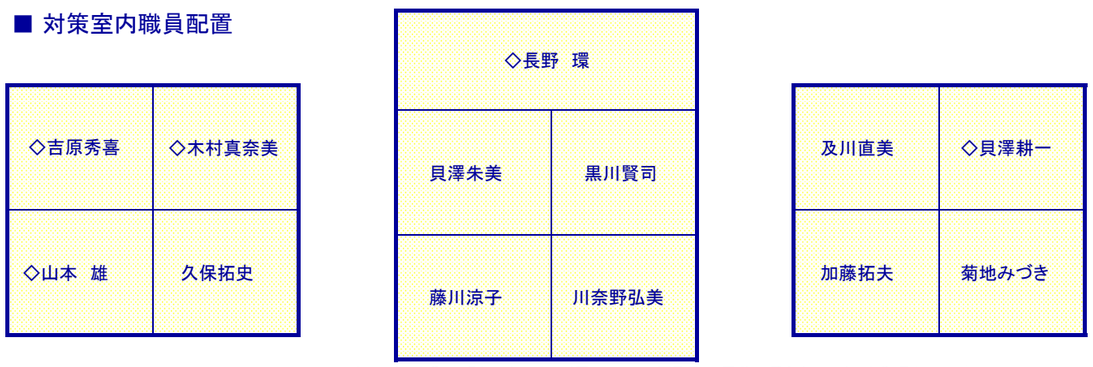
1	精神文化保全対策に関する調査	主担当 副担当	◎菊地みづき ○貝澤朱美 黒川賢司	◇長野　環 山本　雄
2-1	生物の生存環境に関する調査 植物の保全対策に関する調査	2-1主担当 副担当	◎黒川賢司 ○加藤拓夫　及川直美　久保拓史　▼	◇貝澤耕一 山本　雄
2-2	魚類の保全対策に関する調査	2-2主担当 副担当	◎加藤拓夫 ○黒川賢司　久保拓史　▼	
2-3	動物の保全対策に関する調査	2-3主担当 副担当	◎貝澤朱美 ○久保拓史　藤川涼子　▼	
3	生活文化の保全対策に関する調査	主担当 副担当	◎木村真奈美 ○ 黒川賢司　菊地みづき　▼ ［食文化］ ◇及川直美　藤川涼子	◇山本　雄 貝澤耕一
4	文化景観の保全対策に関する調査	主担当 副担当	◎木村真奈美 ○菊地みづき 藤川涼子	◇長野　環 吉原秀喜
5	アイヌ文化の普及方策に関する調査	主担当 副担当	◎山本　雄 ○菊地みづき 加藤拓夫　藤川涼子	◇長野　環 木村真奈美
6	栽培実験の継続に関する調査	主担当 副担当	◎及川直美 ○黒川賢司 加藤拓夫　久保拓史	◇貝澤耕一 木村真奈美
7	沙流川河道掘削における事前調査 -(1)地域文化保全に関する調査 -(2)河道掘削予定箇所現地調査	主担当 副担当	◎長野　環 久保拓史 ○貝澤朱美 黒川賢司　（川奈野弘美）	◇木村真奈美 山本　雄
8	アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理	主担当 副担当	◎山本　雄 ○長野　環　木村真奈美 ＊ 貝澤朱美／久保拓史／川奈野弘美	◇吉原秀喜 貝澤耕一

＊＝とりまとめの作業などの補助　▼＝臨時職員　（ ）＝臨時的なサポート

■ 運営課題別グループの編成

グループ名	グループ編成／担当事項			
企画総括G	◇長野 環　☆黒川賢司 ／ 加藤拓夫 企画総括 ＋ 保全対策具現化促進 ＋ 渉外		◇貝澤耕一 ＜相談員＞ 現地作業指導・安全対策	◇吉原秀喜 ＜学芸員／室長＞ 全体総括・調整
情報管理G	◇木村真奈美　☆貝澤朱美 ／ 川奈野弘美 ／ 久保拓史 情報管理 ＋ 報告書・コンテンツ編集 ＋ データベース管理			
環境整備G	◇山本　雄　☆及川直美 ／ 菊地みづき ／ 藤川涼子 環境整備 ＋ 文献・資材管理 ＋ 経理・庶務	藤川涼子 ＜経理＋庶務＞	◆佐藤和三 ＜アイヌ施策推進課課長＞	◇山本　雄 ＜学芸員／主事＞

■ 対策室内職員配置



◆ アイヌ文化情報センター内　（〒055-0101平取町二風谷61番地） アイヌ文化保全対策室

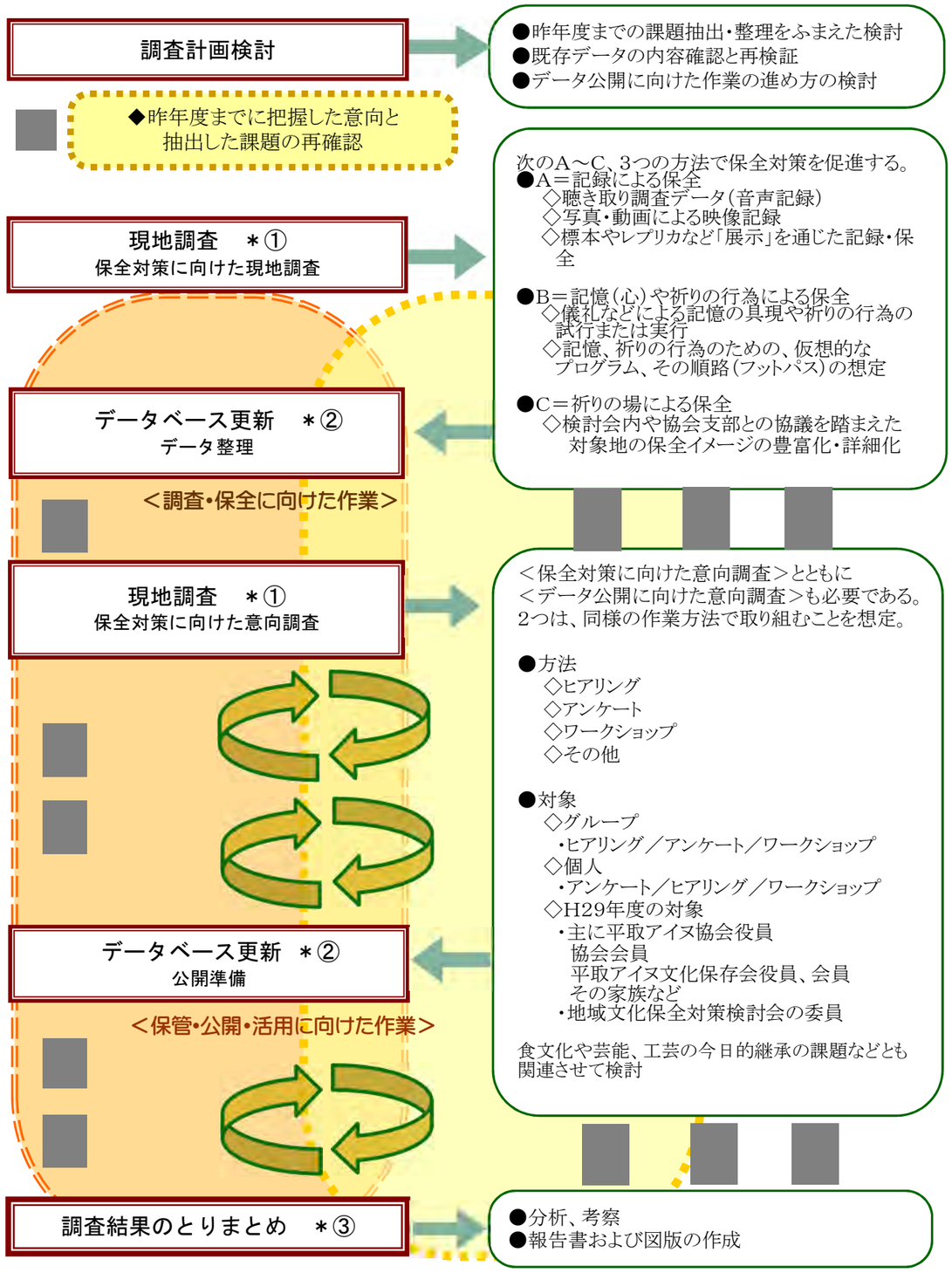
■ 対策室作業モットー（室訓） ＝ 深める、高める、広める、そしてカタチにする

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**1 - 精神文化保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆精神文化に係る保全対象の現地調査を実施し、保全対策の具体化に向け調査内容を整理する。また、調査結果についてデータベースの更新を行う。 伝統的漁法や川洲畑の実証試験において、アイヌ文化の担い手の参画を得てカムイノミを実施し、精神文化の継承を行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【現地調査】 各保全対策の検討のために必要な精神文化に係る現地調査を実施する。特に昨年度業務で抽出された課題について調査を実施する。 ②【データベース更新】 各既存の調査結果について、公開に向けたデータ整理を行う。 ③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめ、課題の抽出を行い、次年度以降の調査計画（案）を作成する。
想定する成果 （状況/物品）	＊〇内の数字，記号は上の欄に対応 ①⇒Ａ：対象の現況と抽出した課題を関連づけた説明文書／図版 Ｂ：保全対策の提案、設計概念・方針・工程等を明示した文書／図版 ②⇒Ａ：既往データの公開に向けた整理(電子化等)と上記システム・ルールに則した準備作業 Ｂ：データの取り扱い方（保管・公開・活用）を検討するシステムとルールについての案 ③⇒①・②の成果をまとめた報告書：次年度以降の調査計画(案)を含む
年間作業工程 （行程）概要	業務項目 ／ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ①【現地調査】 保全対象の現状把握(モニタリング・整備も含む) 保全対策に向けた調査(儀礼の実施・保全対策の提案・意向調査も含む) 町内と北海道内各地における儀礼等の事例調査を含む ②【データベース更新】 既往データの整理作業 公開準備(システムとルールの検討) ③【調査結果とりまとめ】 検討会などにおける報告 報告書作成 検討会または勉強会 ○ ○ ○ ○ ○
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎菊地みづき　〇貝澤朱美 ／ 黒川賢司
補佐	◇長野　環 ／ 山本　雄　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★今日的環境のもとで、地域特性や社会情勢をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、次世代に継承する基盤を拡充する。

■ 1 -精神文化保全対策に関する調査の計画基本フロー

＊〇内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★今日的環境のもとで、地域特性や社会情勢をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、次世代に継承する基盤を築く。



1 －精神文化保全対策に関する調査－この分野の作業成果概況

０１◆豊糠試験畑播種前のカムイノミの実施

０２◆チセコッエイノンノイタㇰ(施設建設前の地神祭)

０３◆儀式に関する調査：ウトㇺヌカㇲ（結婚式）

０４◆事例調査：上貫気別(旭)のシンヌラッパ

０５◆儀式に向けた実施者の意向調査と準備協議

０６◆伝統漁法による特別採捕を前にした儀礼

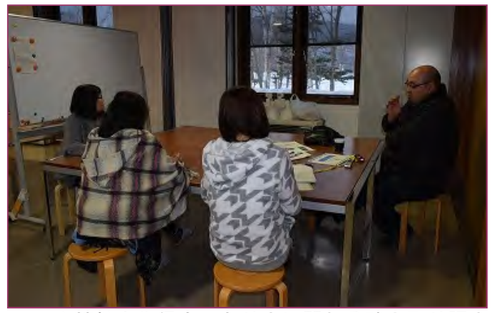
０７◆儀礼に関する調査：チノミシリへのカムイノミ

０８◆紫雲古津試験畑収穫後のカムイノミの実施

０９◆湧水量等状況のモニタリング（カムイワッカ）

１０◆保全対象地（通称ペロ：昔からの湧水）整備

１１◆保全対象である岩山・山地の状況を調査・記録


１２◆精神文化保全のあり方に関わる聴き取り調査

H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝精神文化に係る保全対象の現地調査を実施し、保全対策の具体化に向け調査内容を整理する。また、調査結果についてデータベースの更新を行う。
伝統的漁法や川洲畑の実証試験において、アイヌ文化の担い手の参画を得てカムイノミを実施し、精神文化の継承を行う。
B◆＝①【現地調査】 各保全対策の検討のために必要な精神文化に係る現地調査を実施する。特に昨年度業務で抽出された課題について調査を実施する。
②【データベース更新】 各既存の調査結果について、公開に向けたデータ整理を行う。
③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめ、課題の抽出を行い、次年度以降の調査計画(案)を作成する。

C◆＝★今日的環境のもとで、地域特性や社会情勢をふまえつつ、関係者の意向にそった精神文化保全のあり方をさぐり、方向性を見いだし、次世代に継承する基盤を拡充する。

⇒ 上記の目的・課題等を基本的に達成し、重点事項についても着実に進展させた。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**２－生物の生存環境に関する調査 １植物の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆貯水池内における有用植物調査計画を作成し、計画に基づき実施する。有用植物保全モデル地区Ｓ－０５の整備計画案に基づき移植等を実施し、活着等の生育状況を確認するとともに、必要に応じて配置の再検討を行う。また、有用植物保全地区に係る全体整備計画として、Ｓ－０５地区を中心とした展示や材料採取地を勘案し作成する。 調査箇所から採取した有用植物を利用し、民具等の製作を実施する。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【有用植物調査計画作成（移植試験含む）】 植生保全区域35区域について、モデル地区Ｓ－０５の整備計画案に基づき移植を実施し、活着等の生育状況を確認するとともに、必要に応じて配置の再検討を行い、整備計画案の見直しを行う。また、工事箇所から採取された有用植物を利用し、民具等の製作を実施する。 ②【移植試験基盤整備】 植生保全区域Ｎ－０３において、水生・湿生植物の展示を目的としたガマの植栽増殖計画の実施に向けた基盤整備を実施する。 ③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字，記号は上の欄に対応 ①⇒　H22年度に作成、H23年度に着手、その後の状況をふまえて更新した計画をもとに、中心となるＳ－０５をはじめ植物保全３５区域で移植等の整備作業 ②⇒　Ａ：業務分野６との連携でモニタリングを実施し生育状況を管理、整備計画を更新 Ｂ：各区域の保全計画と３５区域のネットワークのあり方についての企画提案書（フットパス整備や「民族植物園」としての活用方策を含む） ③⇒　①・②の成果をまとめた報告書：整備計画の発展的更新を含む
年間作業工程 （行程）概要	業務項目：4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ①【有用植物調査計画作成】：工事に伴う事前協議・現地調査と保全措置／選定／移植／草刈などの手入れ／種採取／根切りなど次年度準備 ②【移植試験基盤整備】：経過観察／配置の再検討→　秋期以降の移植 配置再検討・計画更新：配置の再検討→　次年度以降の移植→計画の更新 移植計画検討 ③【調査結果とりまとめ】 検討会などにおける報告 報告書作成
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎黒川賢司　　○加藤拓夫 ／ 及川直美 ／ 久保拓史 ／ ▼
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本　雄　　［吉原秀喜］　　▼＝臨時職員
今年度重点事項	★整備計画を発展的に更新し、設計を先行しながら「民族植物園」を漸次具現化し、S-05区域をはじめとする生物保全ネットワークを拡充、工事後の全面的な展開を期す。

■２-１　植物の保全対策に関する調査の計画基本フロー

＊○内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★整備計画を発展的に更新しながらS-05区域の整備を重点的に進め、「民族植物園」の内実を準備しつつ生物保全ネットワークを漸次拡充し、工事後の全面的な展開を期す。

2-1 生物の生存環境に関する調査：植物の保全対策に関する調査 - この分野の作業概況

０１◆張りつけた防草シートの経過確認（混播混植法）

０２◆自然播種されて芽生えた実生群の移植作業

０３◆植樹した苗木の生育状況モニタリング調査

０４◆シキナ（ガマ）のポット苗移植

０５◆コアゾーンであるS-05区域での現地ワーキング

０６◆ダム関連工事箇所での伝統的利用植物調査

０７◆間伐作業（フットパス整備）

０８◆植物の保全対策を推進するためのワーキング

０９◆工事実施個所からのアッニ（オヒョウ）移植

１０◆工事前に回収した素材を使って生活用具製作

１１◆馬を使ったヤマを傷めない森林整備作業の試み

１２◆ドローンで保全地区（S-05）の状況を空撮

H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝貯水池内における有用植物調査計画を作成し、計画に基づき実施する。有用植物保全モデル地区Ｓ－０５の整備計画案に基づき移植等を実施し、活着等の生育状況を確認するとともに、必要に応じて配置の再検討を行う。また、有用植物保全地区に係る全体整備計画として、Ｓ－０５地区を中心とした展示や材料採取地を勘案し作成する。
B◆＝①【有用植物調査計画作成（移植試験含む）】 植生保全区域35区域について、モデル地区Ｓ－０５の整備計画案に基づき移植を実施し、活着等の生育状況を確認するとともに、必要に応じて配置の再検討を行い、整備計画案の見直しを行う。また、工事箇所から採取された有用植物を利用し、民具等の製作を実施する。
②【移植試験基盤整備】 植生保全区域Ｎ－０３において、水生・湿生植物の展示を目的としたガマの植栽増殖計画の実施に向けた基盤整備を実施する。
③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。
C◆＝★整備計画を発展的に更新し、設計を先行しながら「民族植物園」を漸次具現化し、S-05区域をはじめとする生物保全ネットワークを拡充、工事後の全面的な展開を期す。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**2 - 生物の生存環境に関する調査** **2魚類の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆伝統的漁法に関するマニュアルに基づき、伝統的漁法の再現に必要な漁具を製作するとともに伝承者育成のための伝統漁法の再現を行う。尚、再現にあたっては体験学習プログラムを作成するとともに、町内に広く参画を求め、採捕した魚類についてはアイヌ文化期の食文化等の再現を行う。** **自然工法（木流し）により魚類の生息環境を創出し、そのモニタリングを行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【事前準備】 体験学習の場としての適地を選定し、漁具の作成、周辺整備を実施する。 ②【実証試験（プログラム作成）】 伝統的漁法に関する伝承者の育成を目的とした伝統的漁法の再現を行う。 ③【食文化再現調査】 調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の道具・食事についての再現（調理）を行う。 ④【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめ、これまでの調査結果を基にマニュアル（案）を更新する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　試験地絞り込みと周辺環境の整備、諸手続書類と手引き（マニュアル） ②⇒　漁具作製、その素材・作製技法・使用法・伴う儀礼等の調査 モニタリングによる記録の保存・分析／マニュアル化 「親自然工法」による水生生物生息環境整備の試行を促進、これに伴う調査・情報収集 ③⇒　食文化の再現（レシピ集の作成と公開／試食会開催／評価） ④⇒　①・②・③の成果をまとめた報告書：マニュアルの更新 マニュアルの構成　Ａ：「伝統的漁法」それ自体に関するもの Ｂ：「伝統的漁法」の調査・研究・活用方法に関するもの（親自然環境整備を含む）

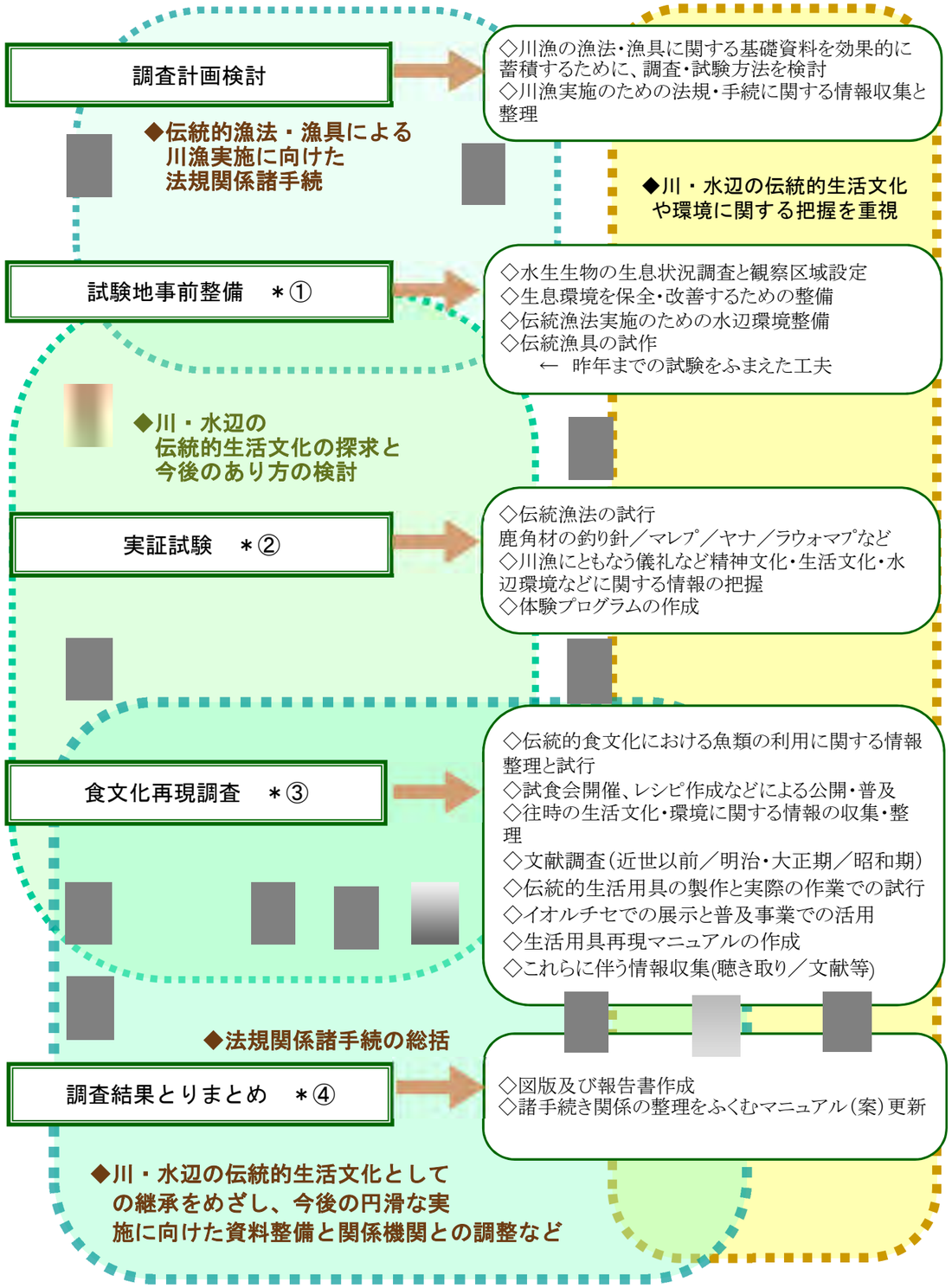
年間作業工程（行程）概要

作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎加藤拓夫　　○黒川賢司 ／ 久保拓史 ／ ▼
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本　雄　　［吉原秀喜］　　▼＝臨時職員
今年度重点事項	★地域に根ざし育まれてきた生活文化の重要要素である伝統漁法を継承・活用し、自然・社会両面の環境整備も促しつつ、今日的文化として定着させる活動を強める。

2-2 魚類の保全対策に関する調査の計画基本フロー

＊○内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★日々の暮らしに根ざして育まれてきた生活文化の重要な要素であった伝統漁法を継承・活用し、自然と社会両面で環境整備も促しつつ、今日的文化として定着する基礎をつくる。



2-2 生物の生存環境に関する調査：魚類の保全対策に関する調査 - この分野の作業概況

０１◆特伝統漁法による別採捕申請の打ち合わせ

０２◆宿主別川現況調査（親自然工法のモニタリング

０３◆伝統漁法など生活文化の聴き取り調査

０４◆クトゥ／ど、と呼ばれる漁具での試行調査

０５◆シロザケ食文化試行（開発局職員も毎年実習）

０６◆魚種確認記録（サケ以外の魚種は平年並み）

０７◆水生生物生息環境整備箇所のモニタリング

０８◆沙流川を自然遡上したサケ・マス類の調査

０９◆鹿角製釣り針とレクッタラ（茎の釣り竿）の試行

１０◆伝統的漁具の一つ、ラウォマプの製作

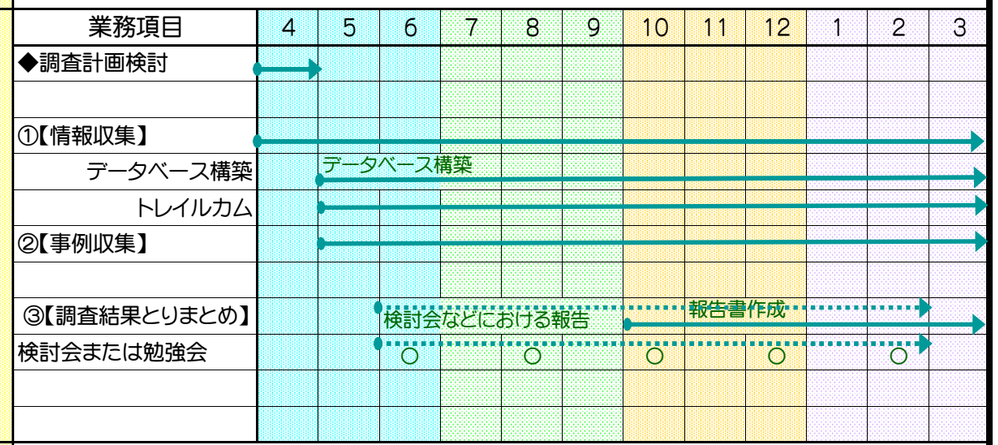
１１◆さけ特別採捕の事前準備（アペッ下流）

１２◆サケ特別採捕（さけは増殖事業協会のご提供）

H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝伝統的漁法に関するマニュアルに基づき、伝統的漁法の再現に必要な漁具を製作するとともに伝承者育成のための伝統漁法の再現を行う。尚、再現にあたっては体験学習プログラムを作成するとともに、町内に広く参画を求め、採捕した魚類についてはアイヌ文化期の食文化等の再現を行う。
自然工法（木流し）により魚類の生息環境を創出し、そのモニタリングを行う。
B◆＝①【事前準備】 体験学習の場としての適地を選定し、漁具の作成、周辺整備を実施する。
②【実証試験（プログラム作成）】 伝統的漁法に関する伝承者の育成を目的とした伝統的漁法の再現を行う。
③【食文化再現調査】 調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の道具・食事についての再現（調理）を行う。
④【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめ、これまでの調査結果を基にマニュアル（案）を更新する。

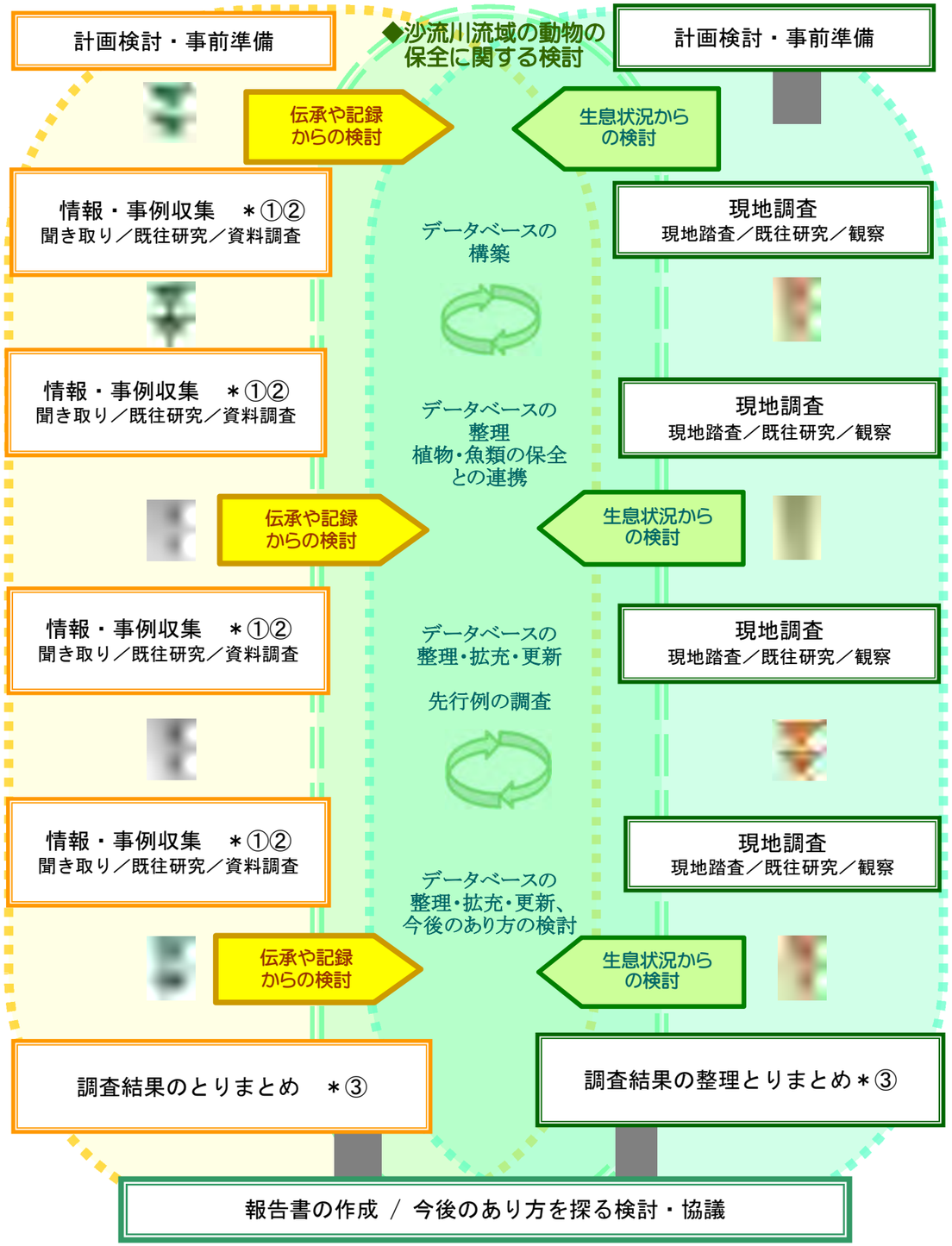
C◆＝★地域に根ざし育まれてきた生活文化の重要要素である伝統漁法を継承・活用し、自然・社会両面の環境整備も促しつつ、今日的文化として定着させる活動を強める。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**２－生物の生存環境に関する調査 ３動物の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	◆沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、既往調査結果及び、絵本・冊子（案）による伝承者による体験学習を実施する。また、第15回平取ダム地域文化保全対策検討会で審議された「平成25年度までの検討状況報告（中間とりまとめ）」の保全対策内容を踏まえた先行事例の収集を行う。
業務項目と内容・方法 ※2	①【情報収集】 沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出する。 ②【事例収集】 沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出する。 ③【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめる。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　情報収集（資料調査、現地調査） ②⇒　先行事例の収集 ③⇒　成果をまとめた報告書：整備計画の発展的更新を含む
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎貝澤朱美　　○久保拓史 ／ 藤川涼子 ／ ▼
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本　雄　　［吉原秀喜］　　▼＝臨時職員
今年度重点事項	★アイヌ伝統文化における動物関連情報を集積・整理・分析し、イメージを豊かにしていく。保全対策の先行例などの調査も進め、今後のあり方を検討・協議するための案を提示する。

■２-３　動物の保全対策に関する調査の計画基本フロー

＊○内の数字と記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★アイヌ伝統文化における動物関連情報を集積・整理・分析し、イメージを豊かにしていく。保全地策の先行例などの調査も進め、今後のあり方を探る検討・協議を進める。



2-3 生物の生存環境に関する調査：動物の保全対策に関する調査 - この分野の作業概況

０１◆分野担当チームで協議しながらの報告書作成

０２◆動物の伝統的知見に関するデータベースの画面

０３◆データベースを更新し情報の質・量を拡充

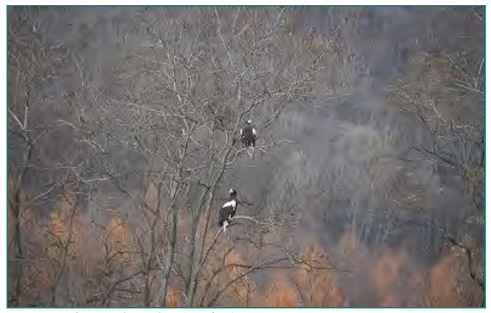
０４◆町内芽生に姿を見せたサロルンチカプ（ツル）

０５◆動物の動きを確認するための夏季も現地踏査

０６◆夜間も機能する自動撮影カメラの設置

０７◆自動撮影カメラが撮ったキムンカムイ（ヒグマ）

０８◆冬期現地踏査（雪上の足跡の確認など）


０９◆視認する機会が増えたシチカプ（オオワシ）

１０◆平取ダム建設現場付近のユク（エゾシカ）たち

１１◆キムンカムイ（ヒグマ）足跡－S-05地区付近

１２◆アイヌ語地名と動物伝承の体験ツアー試行

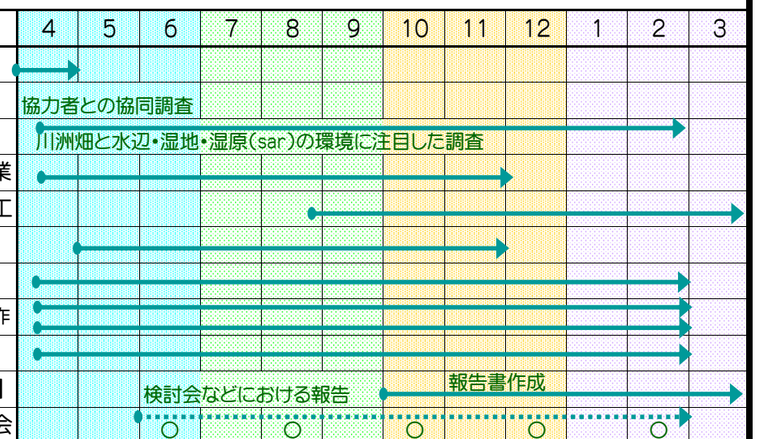
H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、既往調査結果及び、絵本・冊子（案）による伝承者による体験学習を実施する。また、第15回平取ダム地域文化保全対策検討会で審議された「平成25年度までの検討状況報告（中間とりまとめ）」の保全対策内容を踏まえた先行事例の収集を行う。

B◆＝①【情報収集】 沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出する。
②【事例収集】 沙流川流域で継承されている口承文芸や踊りの中で、動物の保全に係る内容を抽出する。
③【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめる。

C◆＝★アイヌ伝統文化における動物関連情報を集積・整理・分析し、イメージを豊かにしていく。保全対策の先行例などの調査も進め、今後のあり方を検討・協議するための案を提示する。

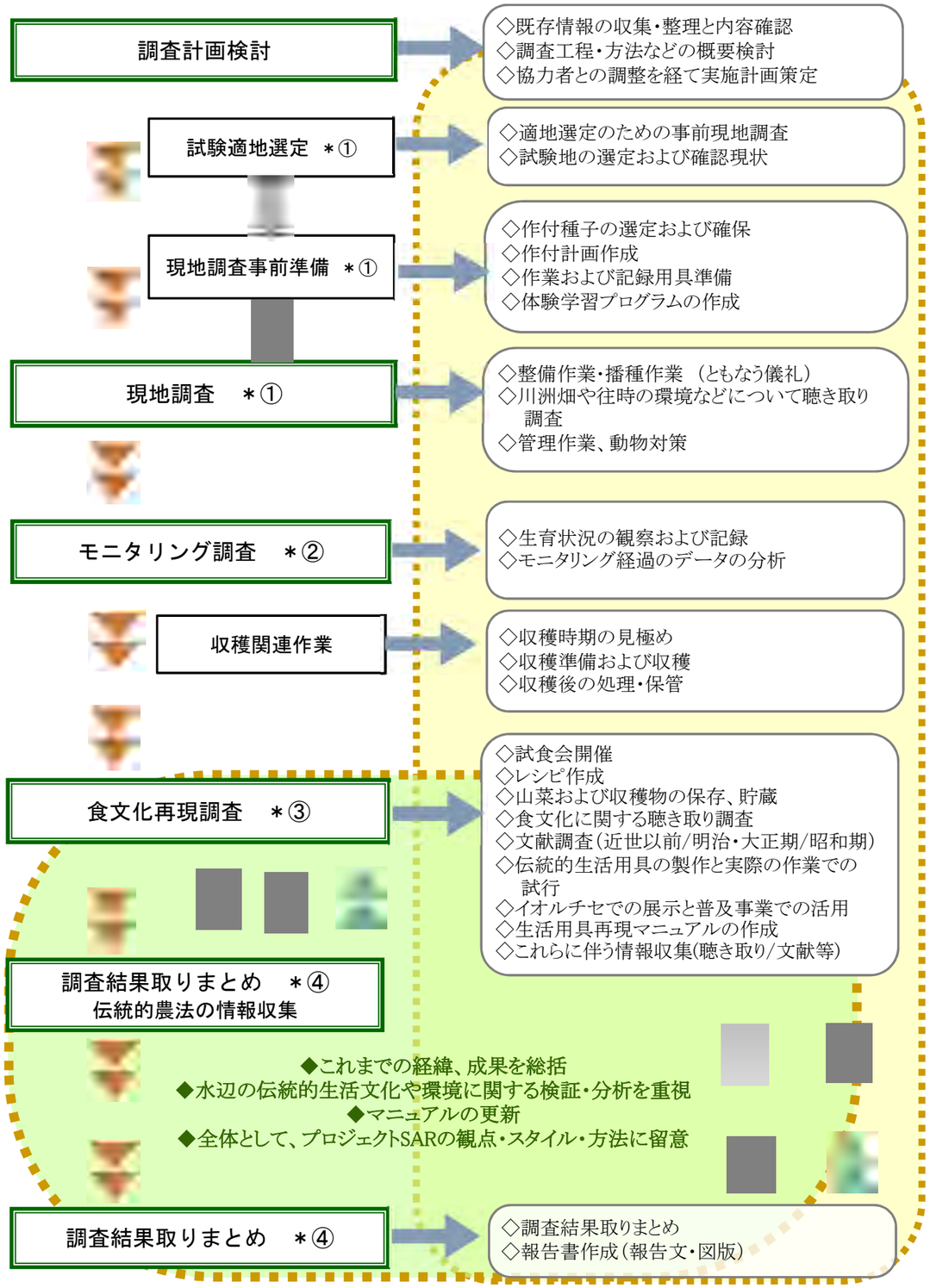
⇒ 上記の目的・課題等を基本的に達成し、重点事項についても着実に進展させた。

事業名	2017(平成29)年度　アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**3 - 生活文化の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	◆川洲畑栽培マニュアル（案）に基づき、川洲畑実証試験を行い、川洲畑を利用した体験学習の実施を行う。体験学習の実施にあたっては体験学習プログラムの作成を行う。また、収穫物を利用したアイヌ文化期の食事等、当時の生活様式の再現を行う。
業務項目と内容・方法 ※2	①【現地調査（プログラム作成）】 既存の調査結果を踏まえて、現地調査選定箇所の事前準備及び栽培試験を行う。 ②【モニタリング】 川洲畑現地調査状況把握のためのモニタリングを行う。 ③【食文化再現調査】 調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の食事についての再現（調理）を行う。 ④【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめる。これまでの調査結果を基に川洲畑調査マニュアル(案)を更新する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字、記号は上欄に対応 ①⇒　これまでの調査を踏まえた実施計画／現地作業等とそのプロセスの記録 ②⇒　モニタリング（種別・条件別）のデータと分析 ③⇒　食文化の再現（レシピ集の作成と公開／試食会開催／評価／レシピ集更新） 関連生活用具製作とその活用(製作マニュアルの作成を含む) ④⇒　①・②・③の成果をまとめた報告書 マニュアルの構成　Ａ：「川洲畑」という農法に関するマニュアル Ｂ：「川洲畑」の調査・研究・活用方法に関するマニュアル
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎木村真奈美　　○黒川賢司／菊地みづき／▼　〔食文化〕◇及川直美／藤川涼子
補佐	◇貝澤耕一 ／ 山本　雄　　［吉原秀喜］　　▼＝臨時職員
今年度 重点事項	★伝統的生活文化とその環境について探求するための民族(民俗)学的実験として雑穀栽培をはじめとする食文化に関する取組を進め、その成果を多角的に検証・分析しつつ、今日的な活用を促進する。

■３-生活文化の保全対策に関する調査の計画基本フロー

＊○内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★伝統的生活文化とその環境について探求するための民族(民俗)学的実験として主に植物栽培に取り組み、その成果を多角的に検証・分析しつつ、食文化もふくめて今日的な活用を促進する。



3 -生活文化の保全対策に関する調査 - この分野の作業概況

０１◆調理・保存の方法等を継承するための山菜採取

０２◆食文化試行で使用する山菜類の保存処理

０３◆川洲畑体験者の指導による播種作業の体験

０４◆川洲畑体験者による実地指導と聴き取り調査

０５◆川洲畑試験地の管理作業

０６◆川洲畑試験地のモニタリング（経過観察）

０７◆食文化試行で使用する雑穀類の栽培（二風谷）

０８◆雑穀畑の獣害対策（主にアライグマとシカ）

０９◆川洲畑試験地での収穫作業の体験

１０◆試験畑収穫物の保存処理（乾燥作業）

１１◆唐棹（からさお=農具）による脱穀の体験

１２◆各種山菜を利用した春季～初夏の食文化試行

H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝川洲畑栽培マニュアル(案)に基づき、川洲畑実証試験を行い、川洲畑を利用した体験学習の実施を行う。体験学習の実施にあたっては体験学習プログラムの作成を行う。また、収穫物を利用したアイヌ文化期の食事等、当時の生活様式の再現を行う。

B◆＝①【現地調査(プログラム作成)】 既存の調査結果を踏まえて、現地調査選定箇所の事前準備及び栽培試験を行う。
②【モニタリング】 川洲畑現地調査状況把握のためのモニタリングを行う。
③【食文化再現調査】 調査結果を基に、実際にアイヌ文化期の食事についての再現(調理)を行う。
④【調査結果取りまとめ】 調査結果をとりまとめる。これまでの調査結果を基に川洲畑調査マニュアル(案)を更新する。

C◆＝★伝統的生活文化とその環境について探求するための民族(民俗)学的実験として雑穀栽培をはじめとする食文化に関する取組を進め、その成果を多角的に検証・分析しつつ、今日的な活用を促進する。

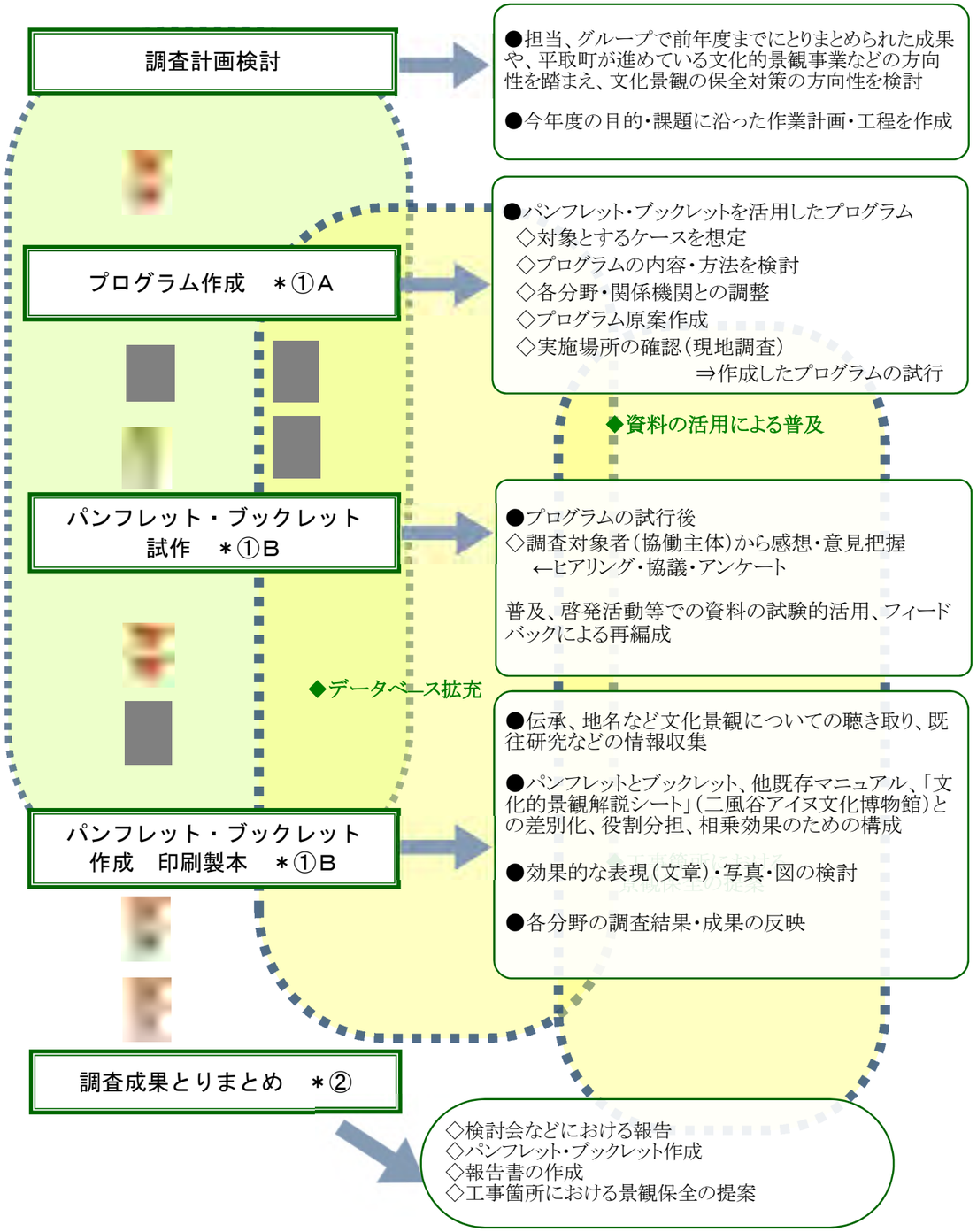
⇒ 上記の目的・課題等を基本的に達成し、重点事項についても着実に進展させた。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**4 - 文化景観の保全対策に関する調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレット及びブックレットを活用した体験学習を実施する。また、アイヌ語地名を巡る体験学習プログラムの作成を行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【プログラム作成】 既往調査結果に基づき、額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレットの試作を行う。 ②【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめる。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字、記号は上欄に対応 ①⇒　A：パンフレット・ブックレットを活用したプログラム 　　B：パンフレット・ブックレットの試作 ②⇒　成果をまとめた報告書
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎木村真奈美　　○菊地みづき　／　藤川涼子
補佐	◇長野　環　／　吉原　秀喜
今年度 重点事項	★アイヌ語地名に関するデータベースを拡充しながら、解説パンフレットなどによる普及を促進する。工事に伴う景観保全を、関連施策・事業と連携を強めながら推進する。

■4-文化景観の保全対策調査の計画基本フロー

【想定する成果の重点】
★アイヌ語地名に関するデータベースを拡充しながら、解説パンフレットなどによる普及を促進する。工事に伴う景観保全を、関連施策・事業と連携しながら推進する。

＊○ないの数字、記号はページ左の業務項目の番号に対応

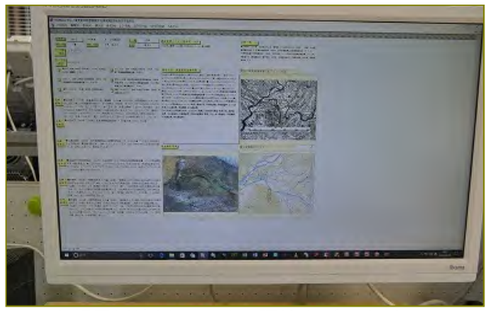


4 - 文化景観の保全対策に関する調査 - この分野の作業概況

０１◆文化景観保全対策担当の４分野のチーム協議

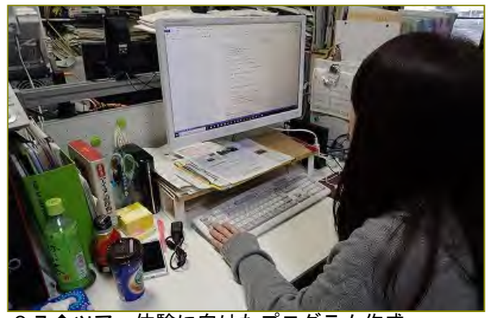
０２◆新たに作成した地名の解説パンフレット

０３◆アイヌ語地名解説ブックレット（小冊子）


０４◆額平川流域のアイヌ語地名データベース

０５◆解説冊子の配布（アイヌ文化情報センター）

０６◆ツアー体験に向けた事前の現地調査・調整


０７◆ツアー体験に向けたプログラム作成

０８◆重要文化的景観追加選定の調査に協力

０９◆現地踏査－オキクルミチャシとムイノカなど

１０◆アイヌ語地名と動物伝承の体験ツアー試行

１１◆体験ツアー試行でのバス車中からの解説

１２◆冬の景観－荷負本村からのポロシリ遠望

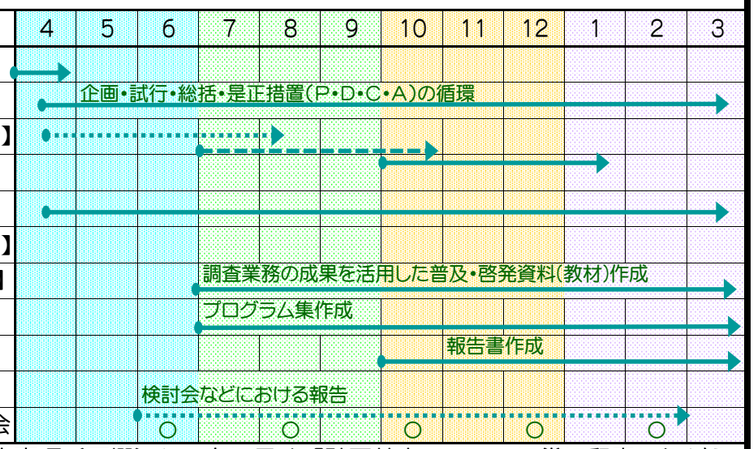
H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレット及びブックレットを活用した体験学習を実施する。また、アイヌ語地名を巡る体験学習プログラムの作成を行う。

B◆＝①【プログラム作成】
　既往調査結果に基づき、額平川流域のアイヌ語地名などを紹介するパンフレットの試作を行う。
②【調査結果とりまとめ】
　調査結果をとりまとめる。

C◆＝★アイヌ語地名に関するデータベースを拡充しながら、解説パンフレットなどによる普及を促進する。工事に伴う景観保全を、関連施策・事業と連携を強めながら推進する。

⇒ 上記の目的・課題等を基本的に達成し、重点事項についても着実に進展させた。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**5 - アイヌ文化の普及方策に関する調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆作成した体験学習プログラムや既存のアイヌ文化学習プログラム（案）に基づき体験学習を実施する。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【アイヌ文化体験プログラム作成】 体験学習を実施するために、関係機関から意見・感想等を収集し試行プログラムの作成を行う。 ②【アイヌ文化体験プログラム試行】 伝統的漁法や川洲畑再現調査と連携し体験学習の実施、各関係機関・施設を対象とした講習会を実施する。 ③【調査結果とりまとめ】 調査結果をとりまとめ、アイヌ文化の普及方策のための基礎資料を整理する。
想定する成果 （状況/物品）	＊○内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒ 各分野既往調査の成果を活かした試行プログラム集 ②⇒ 各分野既往調査の成果を活かしたアイヌ文化体験プログラムの試行 重点＝学校教育分野：貫気別小学校 社会教育分野：アイヌ協会青年部、イオルチセ ③ａ⇒ コンテンツ等作成と活用例提示 ｂ⇒ ①・②の成果をまとめた報告書：プログラム集（事例集）・資料集を含む ｃ⇒ 用具類のイオルチセにおける展示・貸出
年間作業工程 （行程）概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。 また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。 アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎山本 雄　　○菊地みづき ／ 加藤拓夫 ／ 藤川涼子
補佐	◇長野 環 ／ 木村真奈美　　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★事業各分野における既往の成果を文化・教育資源として活用する方策を学社両分野で検討、プログラム化・コンテンツ化を図りつつ試行・具現・普及を促進し、深化させる。

■5－地域文化保全対策調査の計画基本フロー

＊○内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★事業各分野における既往の成果を文化資源として活用する方策を学・社両分野で検討、プログラム化・コンテンツ化を図り、その試行・具現・普及を促進し、深化させる。

調査計画検討 →
- ●担当、グループで前年度までにとりまとめられた成果や検討会で確認された事項や方向性をふまえ、保全対策の取り組みイメージを把握
- ●今年度の目的・課題に沿った作業計画・工程を作成
- ●進捗状況に応じて随時見直しを行いながら作業

アイヌ文化体験プログラム案の作成、試行 ＊①② →

＜3つの方向での作業＞

★1＝学校教育分野
プログラムの深化

★2＝コミュニティ(地域・民族)の
中での広がり

★3＝各分野における成果を
活用した多様な協働

- ●試行調査準備作業
- ◇対象とするケースを想定
- ◇試行内容・方法を検討
- ◇各分野の成果の確認
- ◇各分野・関係機関との調整
- ◇プログラム原案作成
- ◇活用素材の確保、教材・補助資料の作成
- ◇実施場所の確認、整備等
- ⇒ 試行調査実施

アイヌ文化体験プログラム作成 ＊①意向調査 →

企画・試行・総括・是正措置
(P・D・C・A)の循環に留意

- ●試行実施前
- ◇調査対象者(協働主体)から意向を把握
- ←ヒアリング・協議・アンケート
- ●試行実施後
- ◇調査対象者(協働主体)から感想・意見把握
- ←ヒアリング・協議・アンケート

アイヌ文化体験プログラム作成 ＊①プログラム化 →
- ●プログラム・資料作成
- ◇試行調査・意向調査の結果をもとにプログラムを作成
- ＋ プログラムに伴う資料(補助教材等)作成

調査結果取りまとめ ＊③
コンテンツ作成・活用例提示 →

◆事業成果全般を見わたし、
各分野の成果を活かした
取組を促進・調整・協働

- ●各分野における成果の活用
  - ◇各分野における成果・既存資料(プログラム等)活用事例の検討・選択等の調整
  - ◇プログラム事例集の作成・配布⇒ 活用
- ●アイヌ文化保全対策事業と保全対策室の活動についての広報(地位的な認知、理解の促進)
  - ◇普及・啓発資料の作成
  - ◇HP開設など発信ツールの開発・整備
  - ◇「協働」を通じての理解の促進

調査結果とりまとめ ＊③ →
- ◇検討会・勉強会などにおける報告

5 - アイヌ文化の普及方策に関する調査 - この分野の作業概況

０１◆貫気別小学校での授業協力

０２◆子どもの遊び道具（カリﾌﾟペカﾌﾟ）の製作

０３◆アイヌ協会青年部との協働（シノッポンク）

０４◆貫気別小学校での先生方への意向調査

０５◆チセを利用した一般への普及活動（展示解説）

０６◆チセを開放した一般への普及活動（伝統遊具）

０７◆貫気別小学校授業協力（二風谷での学習）

０８◆貫気別小学校授業協力（二風谷での学習）

０９◆貫気別小学校での授業協力

１０◆普及方策を担当する５分野のチーム協議

１１◆シシリムカアイヌ文化祭での展示

１２◆文化活動の状況について聴き取り調査

H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝作成した体験学習プログラムや既存のアイヌ文化学習プログラム(案)に基づき体験学習を実施する。
B◆＝①【アイヌ文化体験プログラム作成】
　体験学習を実施するために、関係機関から意見・感想等を収集し試行プログラムの作成を行う。
②【アイヌ文化体験プログラム試行】
　伝統的漁法や川洲畑再現調査と連携し体験学習の実施、各関係機関・施設を対象とした講習会を実施する。
③【調査結果とりまとめ】
　調査結果をとりまとめ、アイヌ文化の普及方策のための基礎資料を整理する。

C◆＝★事業各分野における既往の成果を文化・教育資源として活用する方策を学社両分野で検討、プログラム化・コンテンツ化を図りつつ試行・具現・普及を促進し、深化させる。

⇒ 上記の目的・課題等を基本的に達成し、重点事項についても着実に進展させた。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**6－栽培実験の継続に関する調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆植物栽培マニュアル（案）に基づき、二風谷地区で実施中の育苗について育成管理を行う。また、適宜植物保全モデル地区への移植を行い、モニタリングを行うとともに育成及び移植に係る体験プログラムの作成を行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①【移植試験事前準備】 有用植物移植試験実施に必要となる事前準備（現地確認）を実施する。 ②【移植試験地整備作業】 移植試験の活着率を上げるため、移植箇所付近の除草、食害防止を実施する。 ③④【有用植物移植試験（木本③／草本④）（プログラム作成）】 有用植物（木本／草本）を対象として、植物保全モデル地区へ移植試験を行う。実施する種については、調査職員と協議の上決定する。 ⑤【播種栽培試験事前準備】 播種栽培試験に必要な事前準備を行う。 ⑥【播種栽培試験（プログラム作成】 有用植物についての播種栽培試験を行う。 ⑦【播種栽培マニュアル（案）の更新】 播種栽培試験を実施した植物について、植物栽培マニュアル（案）の更新を行う。 ⑧【調査結果取りまとめ】 各種毎に、現地での活着状況の確認や除草、食害対策等モニタリングを実施するとともにモニタリング項目や頻度等を示したモニタリング計画(案)をとりまとめる。
想定する成果 （状況/物品）	＊〇内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　移植試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ②⇒　移植試験地の点検・整備 ③④⇒　移植試験（未実施種中心）過程記録 ⑤⇒　播種試験地絞り込み周辺環境の点検・整備 ⑥⇒　播種試験（未実施種中心）過程記録 ⑦⇒　播種試験結果分析、マニュアルの更新(version up／2017年版) ⑧⇒　①～⑦の成果をまとめた報告書：マニュアル最新版(食害対策を含む)
年間作業工程 （行程）概要	業務項目 ／ 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 ◆調査計画検討 ①【移植試験事前準備】 育苗畑整備／施肥／草刈りなど ②【移植試験地整備作業】 ③④【移植試験(木本／草本)】 ⑤【播種試験事前準備】 育苗畑整備／施肥／草刈りなど ⑥【播種試験(木本／草本)】 ⑦【播種試験モニタリング】 播種栽培マニュアル(案)の更新 ⑧【調査結果とりまとめ】 検討会などにおける報告 報告書作成 検討会または勉強会 ○ ○ ○ ○ ○
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎及川直美　〇黒川賢司　／　加藤拓夫　／　久保拓史
補佐	◇貝澤耕一　／　木村真奈美　　［吉原秀喜］
今年度 重点事項	★植物の育成・保全に関するノウハウやスキルの研鑽・集積・普及に努め、関連諸事業との協力や連携を進めつつ当事業発展の基盤拡充を促進し、地域の文化振興に寄与する。

■6－有用植物移植試験及びモニタリング調査の計画基本フロー

＊〇内の数字と記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★植物の育成・保全に関するノウハウやスキルの集積・研鑽に努め、当事業発展の基盤拡充を図りつつ、関連諸事業と技術協力や連携を進め、地域・文化の振興に寄与する。

調査計画検討 →
昨年度までに取りまとめられた成果や検討会で確認された事項、方向性をふまえ、今年度の調査項目を整理し、作業工程を作成

移植試験事前準備　＊① →
◇移植試験箇所の現地確認
◇移植対象種の状況確認
◇移植に必要な資材、機材の確認

◆マニュアルの継続的バージョンアップ

移植試験地整備作業　＊② →
◇移植試験箇所と周辺の除草
◇動物等の食害対策（主としてシカ）
◇融雪期に落ちた枝や、ゴミ拾い

◆植物保全のバックヤード兼
展示・学習の場として整備

有用植物移植試験　＊③・④ →
●計画・目的に基づき必要な移植試験を行う
◇主としてこれまで未実施の種及び未実施の方法を中心に行う
◇既存の種については、前年度に取りまとめたマニュアル(案)に基づき行う
◇移植後必要な保護（食害ガード。苗木については遮光ネットを取り付け、散水）を行う
◇プログラム作成

植物の育成・保全とモニタリングの長期的なあり方を検討

移植マニュアル（案）の整備・更新　＊⑦ →
◇移植試験実施植物を対象に、前年度取りまとめたモニタリング計画に基づき調査を行う
◇月1回程度の試験地の巡回も行う

播種栽培試験事前準備　＊⑤ →
◇播種種の絞り込み
◇種子の採取
◇播種試験に必要な資材の確認

◆マニュアルの継続的バージョンアップ

播種栽培試験　＊⑥ →
◇主として、これまで未実施の種を中心に行う
◇播種後必要な保護（遮光ネット）や散水を行う
◇プログラム作成

◆植物保全のバックヤード兼
展示・学習の場として整備

植物の育成・保全とモニタリングの長期的なあり方を検討

播種栽培マニュアル（案）の整備・更新　＊⑦ →
◇播種試験実施植物を対象に、前年度取りまとめたモニタリング計画に基づき調査を行う
◇発芽状況の確認
◇次年度以降の中・長期計画を作成

調査結果とりまとめ　＊⑧ →
◇進捗状況については、検討会等で報告
◇今年度の試験終了後に、マニュアル（案）を更新
◇報告書作成

6 - 栽培実験の継続に関する調査 - この分野の作業概況

０１◆育苗畑２（二風谷）での苗木の剪定

０２◆育苗畑１（ピパウシ沢沿い）プクサ周辺草取り

０３◆S-05圃場における定例のモニタリング調査

０４◆播種用の種子採取に向けた事前の確認

０５◆育苗畑２での苗木の畝間草取り作業

０６◆育苗畑１整備作業（整備工事に向けた対応）

０７◆岡村俊邦先生による混播混植法の指導

０８◆かや育成試験場の整備作業（沙流川左岸）

０９◆S-05圃場区域の整備作業（草刈）

１０◆混播混植法にもとづく播種作業

１１◆シキナ（ガマ）育成に向けたポット苗移植

１２◆沙流川ダム建設事業所との現地協議

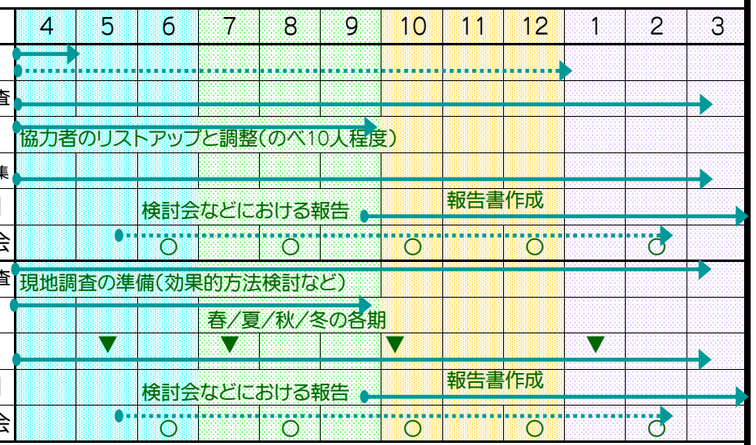
H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と目的・内容
C◆＝重点事項
⇒ 成果の概括

A◆＝植物栽培マニュアル(案)に基づき、二風谷地区で実施中の育苗について育成管理を行う。また、適宜植物保全モデル地区への移植を行い、モニタリングを行うとともに育成及び移植に係る体験プログラムの作成を行う。

B◆＝①【移植試験事前準備】有用植物移植試験実施に必要となる事前準備(現地確認)を実施する。 ②【移植試験地整備作業】移植試験の活着率を上げるため、移植箇所付近の除草、食害防止を実施する。 ③④【有用植物移植試験(木本③／草本④)(プログラム作成)】有用植物(木本／草本)を対象として、植物保全モデル地区へ移植試験を行う。実施する種については、調査職員と協議の上決定する。 ⑤【播種栽培試験事前準備】播種栽培試験に必要な事前準備を行う。 ⑥【播種栽培試験(プログラム作成】有用植物についての播種栽培試験を行う。 ⑦【播種栽培マニュアル(案)の更新】播種栽培試験を実施した植物について、植物栽培マニュアル(案)の更新を行う。 ⑧【調査結果取りまとめ】各種毎に、現地での活着状況の確認や除草、食害対策等モニタリングを実施するとともにモニタリング項目や頻度等を示したモニタリング計画(案)をとりまとめる。

C◆＝★植物の育成･保全に関するノウハウやスキルの研鑽･集積･普及に努め、関連諸事業との協力や連携を進めつつ当事業発展の基盤拡充を促進し、地域の文化振興に寄与する。

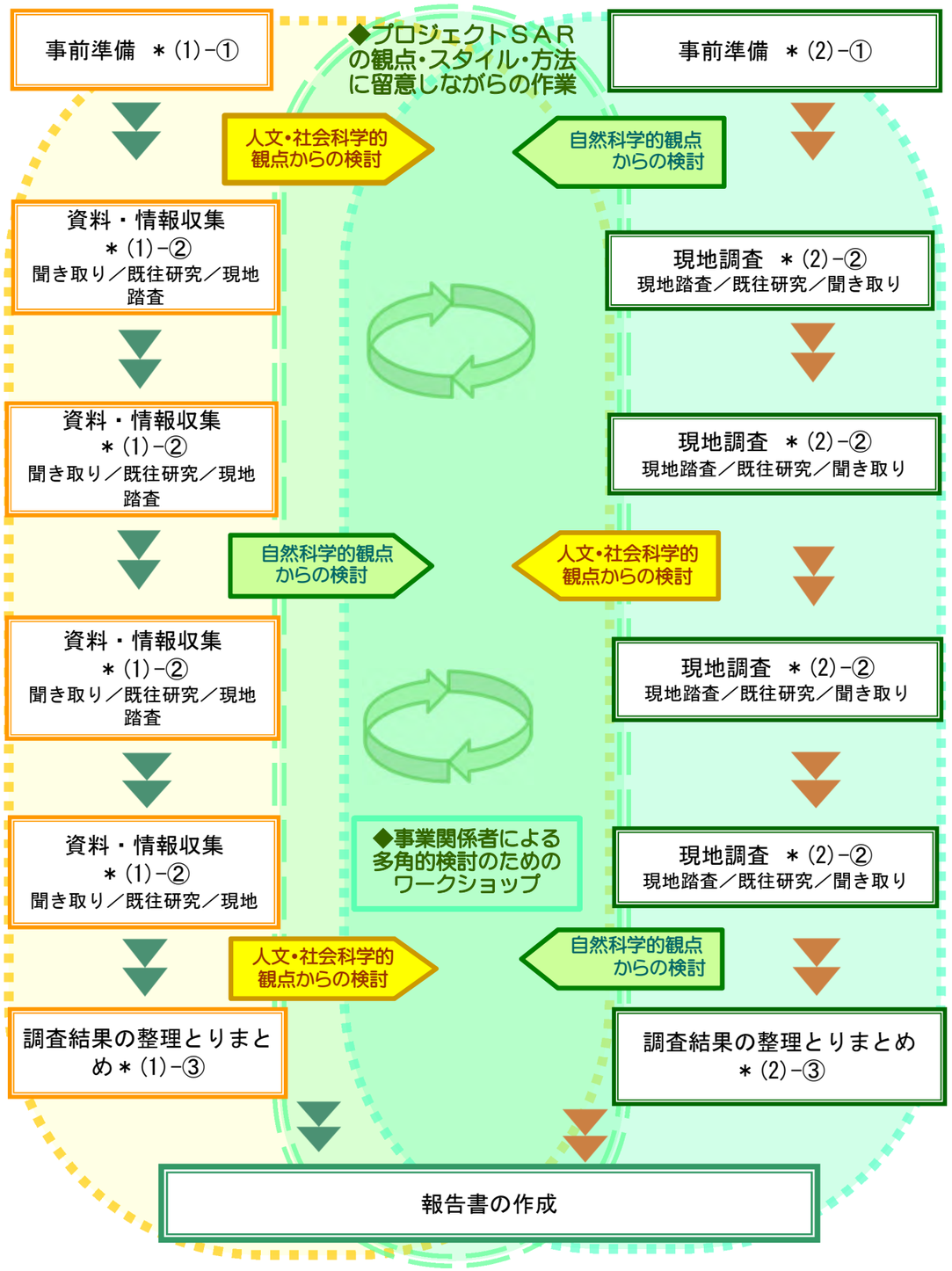
⇒ 上記の目的･課題等を基本的に達成し、重点事項についても着実に進展させた。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**7 - 沙流川河道掘削における事前調査**
目的／課題 ※1 <注>※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆(1)地域文化保全に関する調査** **地域文化の保全対策に必要な現地調査として、沙流川右岸kp15.2～15.5、及び左岸kp15.4～16.0区間に予定している河道掘削箇所周辺における川や沢などのアイヌ語地名及びチノミシリ等の聞き取り調査を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。** **◆(2)河道掘削予定箇所現地調査** **沙流川右岸kp15.2～15.5、及び左岸15.4～16.0区間に予定している河道掘削箇所周辺について、既存資料に基づく植生状況の現地確認を行い、アイヌ文化の伝承、振興に欠かせない素材や資源(ガマ、ヨシ等)を供給する上で必要な河川環境の有無の確認を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	(1)地域文化保全に関する調査 -①事前準備＝河道掘削箇所周辺における地域文化保全対策に関する調査の事前準備 -②対象区域聞き取り調査＝地域文化保全対策に関する聞き取り調査 -③調査結果とりまとめ＝調査結果をとりまとめ地域文化保全対策のための基礎資料を整理 (2)河道掘削予定箇所現地調査 -①事前準備＝河道掘削箇所周辺の既存資料に基づく植生状況についての事前準備 -②現地調査＝河道掘削箇所周辺の既存資料に基づく植生状況についての現地調査 -③調査結果とりまとめ＝工事実施に向けた植生調査結果をとりまとめ整理
想定する成果 (状況/物品)	＊○内の数字、記号は上の欄に対応 (1)-①事前準備＝協力者のリストアップと調整／マニュアル再検討(私権に対するポリシー等) -②対象区域聞き取り調査等の資料・情報収集＝のべ10人程度ほか -③調査結果とりまとめ＝アイヌ語地名とチノミシリ、伝説・伝承地、遺跡等の一覧とデータベース、文化環境概念図 (2)-①事前準備＝調査手法・項目の検討／作業手順の確認 -②現地調査＝春／夏／秋／冬の各期にのべ10回程度 ＋ 定点での観測(写真撮影)等 -③調査結果とりまとめ＝植物リスト・分布図、生物相(鳥類等を含む)・生態系の概念図
年間作業工程 (行程)概要	
作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・○副担当	◎長野　環　　○貝澤朱美　　黒川賢司 ／ 久保拓史 ／ （川奈野弘美）
補佐	◇木村真奈美 ／ 山本　雄　［吉原秀喜］　（　）＝臨時的なサポート
今年度 重点事項	★(1)聴き取りなどによる新規・独自資料と、既存資料との統合等により、文化環境・景観の多面的な把握に努める。(2)文化保全と河川環境のあり方について検討するための基礎資料を集積し、活用を図る。調査の成果をふまえ「かわまちづくり」等の関連事業との連携を強めつつ保全対策を提案、設計に反映させ、具現化を促進する。

■7 -沙流川河道掘削における事前調査の計画基本フロー

＊○内の数字と記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★(1)聴き取りなどによる新規・独自資料と、既存資料との照合・統合等により、多面的な把握に努める。
(2)文化保全と河川環境のあり方について検討するための基礎資料を集積し、活かす。調査の成果をふまえ「かわまちづくり」等の関連事業と連携して保全対策を提案し、推進する。



7 - 沙流川河道掘削における事前調査 - この分野の作業概況

０１◆河道掘削予定箇所（調査区域）の現地確認

０２◆現地調査ポイントの杭打ち・マーキング

０３◆春季の現地植生等の調査

０４◆自然播種による生育状況の経過観察

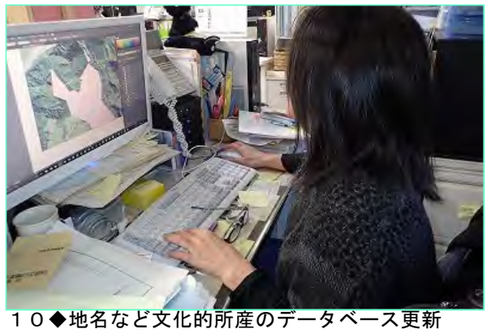
０５◆工事の影響への保全対策に向けた協議

０６◆植生断面図作成のための現地調査（夏季）

０７◆ハルニレの天然更新のモニタリング調査

０８◆秋季の植生等現地調査（鳥類も確認）

０９◆調査の進め方に関する７分野チーム協議


１０◆地名など文化的所産のデータベース更新

１１◆冬季の植生等現地調査（本町沙流川右岸）

１２◆細かな観察から水辺環境の変遷が推察できる

H29年度
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝今年度重点課題

A◆(1)地域文化保全に関する調査
　地域文化の保全対策に必要な現地調査として、沙流川右岸kp15.2～15.5、及び左岸kp15.4～16.0区間に予定している河道掘削箇所周辺における川や沢などのアイヌ語地名及びチノミシリ等の聞き取り調査を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。
◆(2)河道掘削予定箇所現地調査
　沙流川右岸kp15.2～15.5、及び左岸15.4～16.0区間に予定している河道掘削箇所周辺について、既存資料に基づく植生状況の現地確認を行い、アイヌ文化の伝承、振興に欠かせない素材や資源（ガマ、ヨシ等）を供給する上で必要な河川環境の有無の確認を実施し、調査結果について整理とりまとめを行う。
B◆＝省略
C◆＝★(1)聴き取りなどによる新規・独自資料と、既存資料との統合等により、文化環境・景観の多面的な把握に努める。
(2)文化保全と河川環境のあり方について検討するための基礎資料を集積し、活用を図る。調査の成果をふまえ「かわまちづくり」等の関連事業との連携を強めつつ保全対策を提案、設計に反映させ、具現化を促進する。

事業名	2017(平成29)年度 アイヌ文化環境保全対策事業
業務分野	**8 - アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理**
目的／課題 ※1 〈注〉※1、※2の欄には、委託契約文書の記載事項を引用	**◆地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、１～７の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。**
業務項目と内容・方法 ※2	①　地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、１～７の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。
想定する成果 （状況/物品）	＊〇内の数字、記号は上の欄に対応 ①⇒　A:ワーキンググループの運営と資料作成 B:展示についての資料作成 C:A／Bの作業その他、保全対策の具現化のための調整・整理作業

年間作業工程（行程）概要

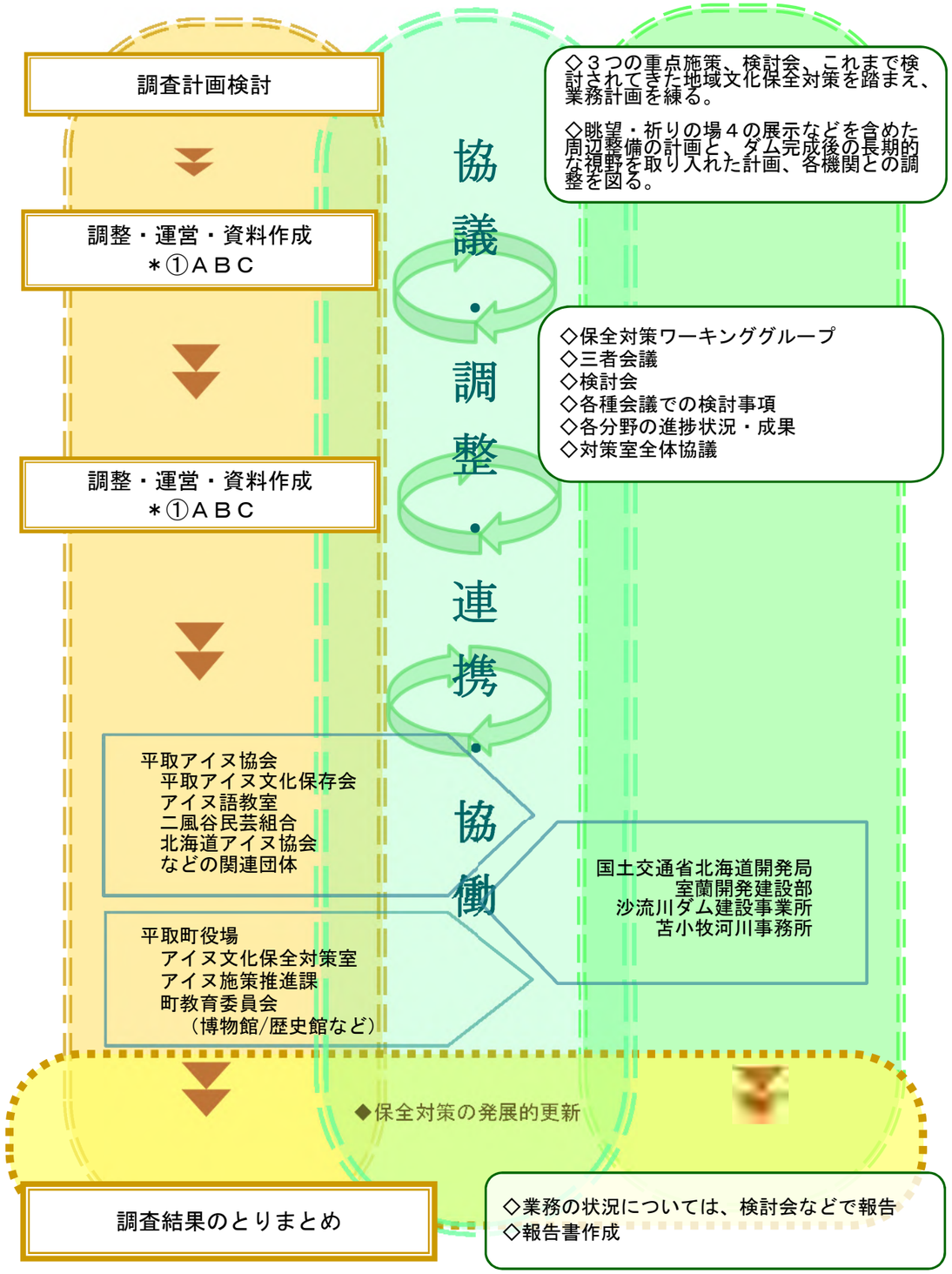
業務項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
◆調査計画検討	→											
①												
A:WG関係	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B:展示関係	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
C:調整・整理	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
◆【調査結果とりまとめ】			検討会などにおける報告				報告書作成					
ワーキング／検討会／勉強会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

作業・工程上の留意事項	◆各分野の今年度重点事項（下欄）と、右に示す「計画基本フロー」に常に留意しながら作業を進めるようにする。 各担当チームごとに、年間基本計画に基づきより詳細な作業計画・工程案を作成し、進捗状況に応じて随時見直しを行いながら業務課題を遂行する。また、各分野担当チーム間の、あるいは各グループ相互の連携・協力に努める。アイヌ文化情報センターを基盤とした情報の受・発信と、各種の文化振興事業・活動及び町立博物館・歴史館等関係機関との連携・協力の拡充を図る。
◎主・〇副担当	◎山本　雄　　〇長野　環　／　木村真奈美　＊2貝澤朱美／久保拓史／川奈野弘美
補佐	◇吉原秀喜　／　貝澤耕一　　＊2は資料作成・とりまとめ作業の補助
今年度重点事項	★3つの重点施策をはじめ、これまで検討されてきた地域文化保全対策の具現化を推進する。アイヌ協会をはじめとする関係者の協働を深めながら、着実にカタチにしていく。

■8-アイヌ文化保全対策の実施に向けた計画基本フロー

＊〇内の数字，記号はページ左の業務項目の番号に対応

【想定する成果の重点】
★3つの重点施策をはじめ、これまで検討されてきた地域文化保全対策の具現化を推進する。アイヌ協会をはじめとする関係者の協働を深めながらカタチにしていく。



8 - アイヌ文化保全対策の実施に向けた整理・調整 - この分野の作業概況

０１◆毎月行う保全対策ワーキング・グループ

０２◆三者（アイヌ協会／開発局／平取町）会議

０３◆対策推進チーム=ミッションpipausi（ピパウシ）

０４◆馬によるトレイル（探訪路）の試行

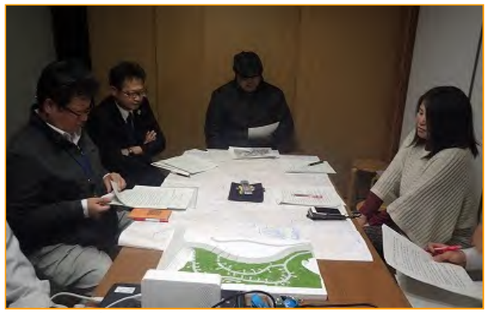
０５◆対策推進チームのミッション植物保全

０６◆石狩川自然再生地区でのシキナ（ガマ）試験採取

０７◆保全対策ワーキング・グループの現地協議

０８◆シンポジウムでこれからの保全対策を協議

０９◆展示についてのミッションmuse（ミューズ）


１０◆石資源についてのミッションsuma（スマ）

１１◆国営吉野ヶ里歴史公園の整備状況等を視察

１２◆馬搬によるダメージの少ない作業を試行

H29年度概況
A◆＝目的・課題
B◆＝業務項目と内容・方法
C◆＝重点課題
⇒ 成果の概括

A◆＝地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、1～7の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。

B◆＝①地域文化保全対策検討会で示された保全対策の実施にあたり、関係機関との協議に向けた必要な調整を行うとともに、1～7の項目に係る展示等に向けて必要な資料作成を行う。

C◆＝★3つの重点施策をはじめ、これまで検討されてきた地域文化保全対策の具現化を推進する。アイヌ協会をはじめとする関係者の協働を深めながら、着実に力タチにしていく。

⇒ 上記の目的・課題等を基本的に達成し、重点事項についても着実に進展させた。

1
精神文化保全対策に関する調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

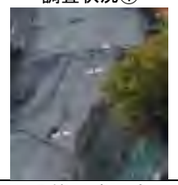
■調査の成果
Ａ．保全対策に向けた現地調査 【１】
ア）精神文化に係る平取ダム建設予定地及び周辺の保全対象地 【１】
①精神文化保全対策の基本的な考え方 【２】
イ）記録による保全 【３】
①精神文化に関わる保全対象地に関する情報一覧 【３】
②保全対象地における工事中のモニタリング 【５】
③今年度（H29 年度）行った儀礼に関する調査 【９】
〈ａ〉平取アイヌ協会青年部主催のウトﾑヌｶﾗ（結婚する）に関する調査 【10】
〈ｂ〉平取アイヌ協会主催の上貫気別シンヌラッパ（先祖供養）に関する調査 【13】
〈ｃ〉チセコッエイノンノイタｸ（地神祭）について 【16】
ウ）先祖を思う記憶（心）と祈りの行為による保全 【20】
①豊糠試験畑播種前、収穫後のカムイノミ（神への祈り） 【20】
②紫雲古津試験畑播種前、収穫後のカムイノミ（神への祈り） 【22】
③魚類の保全対策に関する調査における儀礼 【24】
④宿主別チノミシリ（我ら祭る所）へのカムイノミ（神への祈り） 【25】
エ）場による保全 【29】
①眺望・祈りの場の保全対策案について 【29】
〈ａ〉これまで検討された保全対策案 【30】
〈ｂ〉今年度検討された保全対策案 【31】
②カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水の保全対策案について 【32】
〈ａ〉これまで検討された保全対策案 【32】
〈ｂ〉カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水、ペロ（コナラ）の枯れ木近付の湧き水の水量調査について 【34】
〈ｃ〉カムイワッカ・ペロの整備 【38】
Ｂ．データベースの構築 【39】
ア）保全対象地ごとのデータベースの構築 【39】
①データベースの内容と見方 【39】
②今年度行った作業と今後の作業内容 【40】
Ｃ．保全対策に向けた聴き取り調査 【41】
ア）調査協力者・関係者を対象に行った意向の把握 【41】
Ｄ．今後の課題 【42】
ア）精神文化保全対策に関する調査における課題の整理表 【42】

■関連資料（電子データ版のみに所収）
○精神文化保全対象地別整理表 【関連資料－①】
○平取ダム定礎式 【関連資料－②】
○北海道アイヌ協会：北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ 【関連資料－③】
○第 48 回チﾌﾟサンケ（舟おろしの儀式） 【関連資料－④】
○札幌医科大学イチャルパ 【関連資料－⑤】
○平取地域イオル再生事業：アシﾘチェﾌﾟノミ配布資料 【関連資料－⑥】
○平取アイヌ協会青年部主催のウトﾑヌｶﾗ（結婚する） 【関連資料－⑦】
○平取アイヌ協会主催：上貫気別におけるシンヌラッパ配布資料 【関連資料－⑧】
○チセコッエイノンノイタｸ（地神祭）配布資料 【関連資料－⑨】
○kamuynomi（カムイノミ所作パンフレット）・カムイノミ資料①～④ 【関連資料－⑩】

②保全対象地における工事中のモニタリング

今年度も記録による保全として、精神文化に関わる保全対象地 15 か所の現状を確認するための現地調査を行いました。表中には調査時撮影した写真とともに目視での状況、特記事項等を保全対象地ごとに整理しました。今年度及びこれまでの保全対象地の記録の詳細については、精神文化保全対象地別整理表にてデータベースとして構築していますので【関連資料－①】を参照してください。

◎保全対象地の現地調査の概要

地図番号	調査個所	4 月 11 日	7 月 30 日		10 月 06 日		12 月 26 日
★1	チノミシリー１ （我ら祭る所） パセオンカミ （位の高い神への祈り）	保全対象地の現状 			保全対象地の現状 	調査状況① 	保全対象地の現状
		３月上旬～６月下旬まで猛禽類の繁殖期に伴い立ち入り禁止のため、宿主別橋から撮影。調査時には工事は行われていなかった。	北海道開発局室蘭開発建設部沙流川ダム建設事業所による平取ダム定礎式が執り行われた。 平取ダム定礎式におきましては【関連資料－②】を参照してください。		宿主別チノミシリカムイノミ（P.21 参照）の箇所確認時に記録撮影。事前連絡が必要。当日は沙流川ダム建設事業所職員同行。ダムの貯水量を現わすプレートが取り付けられていた（調査状況①）。		変化は見られない。ダム本体の工事がはじまるまで変化はみられないと考えられる。

＜記録写真で見るチノミシリー１改変の様子＞

2007 年 1 月撮影	2007 年 12 月撮影	2014 年 12 月撮影	2015 年 11 月撮影	2015 年 12 月撮影
2016 年 1 月撮影	**2016 年２月撮影**	**2016 年５月撮影**	**2016 年７月撮影**	**2016 年 10 月撮影**
2016 年 10 月撮影	**2016 年 11 月撮影**	**2016 年 12 月撮影**	**2017 年 10 月撮影**	**2017 年 12 月撮影**

〈ａ〉平取アイヌ協会青年部主催のウトㇺヌカㇲ（結婚する）に関する調査

８月 20 日に行われたチプ サンケ（舟下ろし祭り）の前夜祭（19 日）の中で平取アイヌ協会青年部（以下、青年部）が主体となって取り組んでいる伝統的なアイヌの結婚式について、例年同様、サポート役として対応するとともに、調査として取り組みました。当日の式の様子及び前日からの準備作業等の記録は、次年度以降の参考となるよう整理しました。当日、一般の方々へ配布したウトㇺヌカㇲ式次第、事前に参列者に配布し使用した進行表につきましては【関連資料－⑦】を参照してください。儀式の際のカムイノミ（神への祈り）の祝詞については、今年度関根健司さんにアイヌ語の見直しをしていただきました。見直し修正した祝詞、借り入れ・使用した祭具につきましても【関連資料－⑦】を参照してください。

●ウトㇺヌカㇲの様子

１. 開式

２. 新婦入場

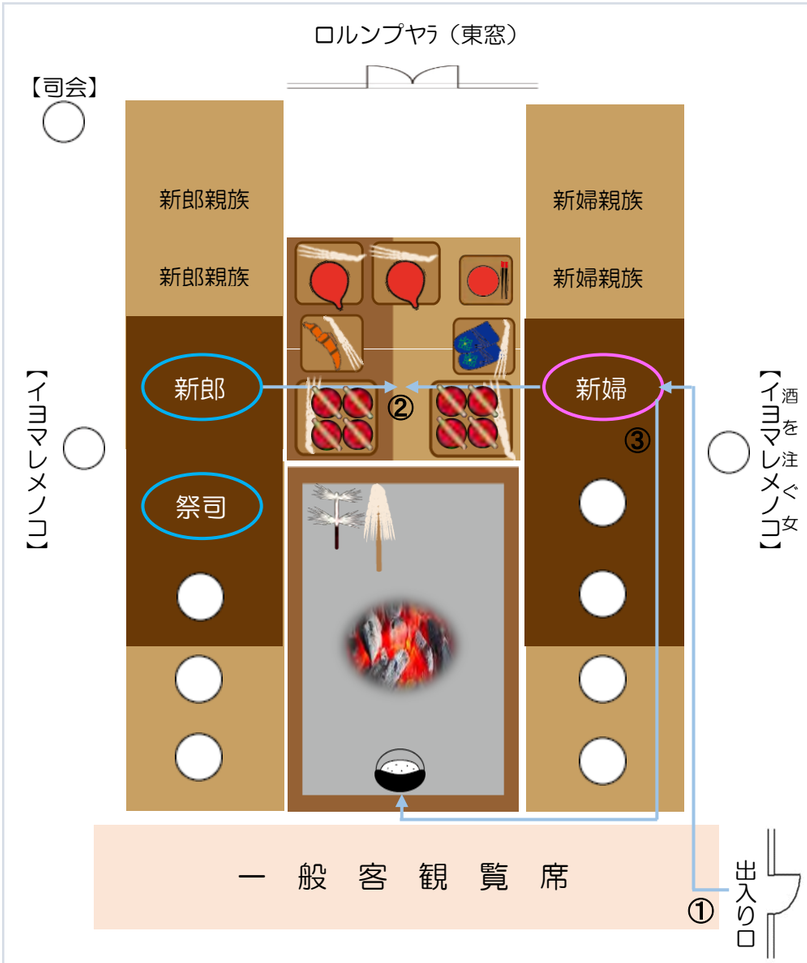
３. 贈り物交換

４. 飯食いの儀

５. カムイノミ（神への祈り）

６. イナウエタイェ
（イナウを送る儀式）

●座席表及び祭具配置



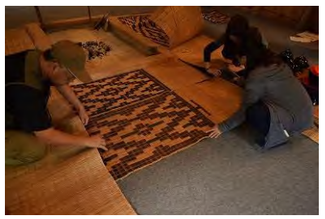
新郎から新婦への贈り物
メノコマキリ（女用小刀）

新婦から新郎へのお返し物
テクンペ（手甲）

●ウトㇺヌカㇲに関わる準備　前日・当日の作業スケジュール

時間	内容	備考
８月 18 日（金）		
13:00～	祭具準備	二風谷生活館（協会・保存会） イオルポロチセ（イオル） 情報センター（イオル）
14:30～	祭具の運搬・設置	博物館ポロチセ（対策室）
８月 19 日（土）		
13:00～16:00	リハーサル （所作や流れの確認）	新郎・新婦、青年部 対策室（補佐、記録）
	祭具の点検・準備	青年部、対策室（記録）
	ヌサ（祭壇）の準備	青年部、対策室（記録）
17:00～18:00	ウトㇺヌカㇲ	青年部（儀礼中心） 対策室（司会、記録、補佐）
18:00～19:00	祭具片付け	青年部、対策室

※リハーサルの際、前年度の対策室の記録映像で動きを確認しました。

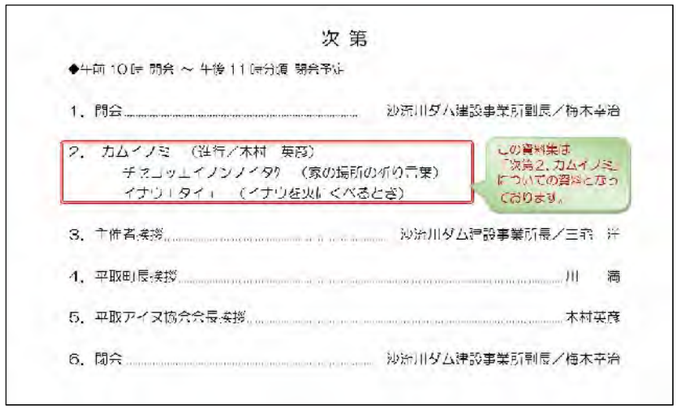


8/18（前日）／祭具準備（個数確認・点検・運搬・設置）

8/19（当日）／青年部とのリハーサル
祭具準備（点検・設置）・ヌサ（祭壇）の準備

◎式の中での動き◎

①新婦入場→着座
②贈り物交換（新郎から新婦へ、新婦から新郎へ）
③飯食いの儀→新婦移動（同じルートで戻る）
②飯食いの儀→アサマリイタンキ（糸底の高いお椀）受け渡し



次 第

◆午前 10時 開会 ～ 午後 11時分頃 閉会予定

1．開会……沙流川ダム建設事業所副長／梅木幸治

2．カムイノミ　（進行／木村　英彦）
　チヌ」ッエイノンノイタク　（家の掘所の祈り言葉）
　イナウ！タイ！　（イナウを火にくべるとき）

この資料集は「次第2．カムイノミ」についての資料となっております。

3．主催者挨拶……沙流川ダム建設事業所長／三宅　洋

4．平取町長挨拶……川　満

5．平取アイヌ協会会長挨拶……木村英彦

6．閉会……沙流川ダム建設事業所副長／梅木幸治

チセコッエイノンノイタク地神祭＜カムイノミ関係資料集＞より抜粋

1　開式

司会　沙流川ダム建設事業所　熊谷　彰浩

2　カムイノミ

祭司：平取アイヌ協会会長　木村　英彦　　副祭司：平取アイヌ協会副会長　木村　二三夫

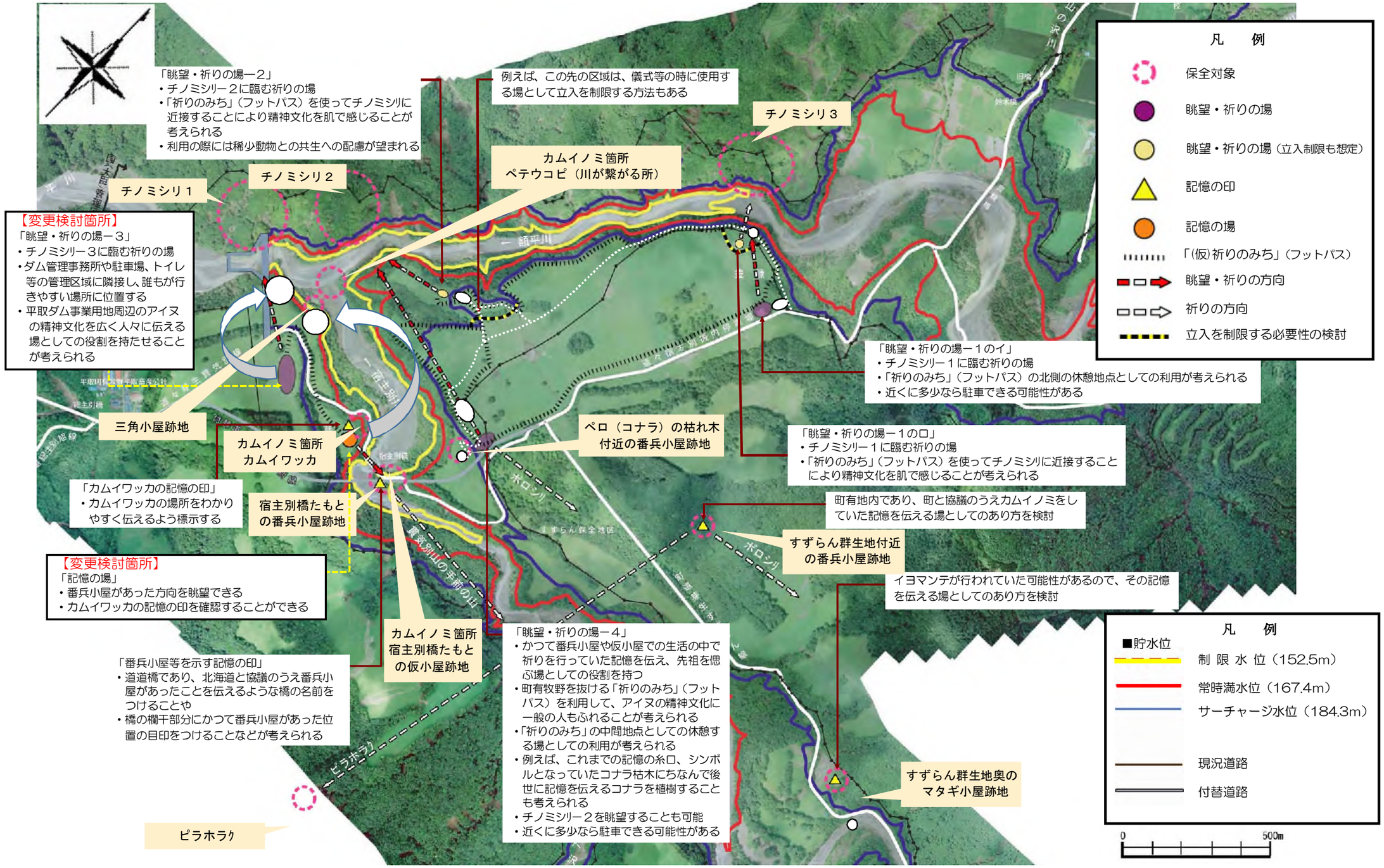
① 祭司はキケパラセイナウ（１本）、ポンストゥイナウ（４本）、チェホロカケプ（１本）をヌサに立てる
② 若者（〇〇）はチセノカ（ポンケトゥンニ）を囲炉裏に設置する
③ 祭司はチェホロカケプを囲炉裏に刺す
④ 参列者は祭司の指示のもと着座する（主催者は祭司の上座へ、来賓は副祭司の上座へ）
⑤ 祭司はチセノカの下で火を焚く

1	祭司		チェホロカケプにシラリをのせる
2	祭司	オンカミ	それでは、まず私が『オンカミアンナー』と言いますので、火の神→トノト→ヌサの順でオンカミ（礼拝）を行いますので、私に合わせて全員でオンカミをお願いします。 ↓ 『オンカミアンナー』 ＊女性はライミク／エトゥフカラ
3	祭司・副祭司 東隣りの男性	トゥキを渡す	祭司（副祭司）にトゥキを渡す。次いで自分（祭司・副祭司の東隣りの男性）のトゥキを手元に置き、東へ順に渡し、祭司（副祭司）より西の順で渡す
4	祭司・イヨマレメノコ	イヨマレ	男性全員にトゥキが行き届いたのを確認 祭司が『イヨマレヤン』と言うと、イヨマレメノコの２人は、男性全員にトノトを注ぐ 『イヨマレヤン』 ↓ ＊祭司（副祭司）から東へ順に注ぎ、次に祭司（副祭司）より西へ注ぐ（イヨマレメノコは、左側よりトノトを２回に分けて注ぎ入れる）
5	祭司	チッカ ↓ カムイノミ	イヨマレメノコの着座を確認 これよりチッカを行います。 火の神→チェホロカケプ→ナウケプ（鉤）→トノト→ヌサの順でお願いします。 ↓ 祭司はカムイノミを行う【祝詞１】 ＊チッカ（＊同上）を行い、トノトを頂く
7	祭司・副祭司	フチへ	トゥキを後ろのフチに渡す
8	祭司		それでは皆さん、外のヌサにチッカをお願いします。ヌサでは、係が付いておりますので、指示に従ってチッカを行ってください。 ＊順番は、祭司が支持する（家主→施設業者→町長→〇〇→〇〇（順番は決まり次第記載）
9	祭司、副祭司 以外の男性	チッカ終了	トゥキをオッチケに戻し着座する
10	祭司東隣り男性	祭司へ	祭司の東隣りの男性は、チャラパ用に準備したオッチケを祭司に渡す
11	祭司	チャラパ （火の神） ↓ チャラパ （敷地全体）	オッチケに入っているピリケプ等を火の神へチャラパする。次いで、敷地全体へチャラパする ＊イヨイキリ（北東）→北西→南西→南東の順に周りながら敷地全体（＊８カ所）にチャラパする ↓ チャラパを終えたら、自分の席へ戻り東隣りの男性へオッチケを渡す
12	祭司東隣り男性	祭司へ	祭司東隣りの男性は、祭司へトゥキを渡す
13	祭司・イヨマレメノコ	イヨマレ	『イヨマレ　ヤン』と言い、イヨマレメノコは、祭司にトノトを注ぐ
14	祭司	チッカ ↓ カムイノミ	祭司はイヨマレメノコが着座したのを確認 ↓ チッカ（順番は５番と同様）を行う ↓ カムイノミを行う【祝詞２】 ＊カムイノミが終わったら、チッカ（順番は５番と同様）を行い、トノトを頂き、残ったトノトは囲炉裏へ流す
15	祭司	トゥキを戻す	東隣りの男性へトゥキを戻す ＊東隣の男性は、トゥキをオッチケへ戻す
16	祭司	イナウエタイェ	それでは、私がイナウを火に返しますので、燃え上がりましたら、全員でオンカミをお願いします。 ↓ チェホロカケプを抜き（穴を埋める）、イナウに火をつける イナウに火が点いたら、イナウの足を西へ向けて火に返す（＊チェホロカケプに火が点いたら、全員でオンカミする）
17	若者	祭具片付け	若者２人は、祭具を下げる ＊若者が祭具を持ちオンカミしたら、全員でオンカミする
18	祭司	オンカミ ↓ 火を消す	祭具がすべて片付け終えたら ↓ 私が「オンカミアンナー」と言いますので、ヌサ→火の神様→向かいの人の順でオンカミして下さい 『オンカミアンナー』 ＊女性は、ライミク／エトゥフカラ ↓ 祭司は火を消す
19	若者	チセノカ移動	若者は、チセノカをヌサへ移動する

エ）場による保全

これまで平取ダム地域文化保全対策検討会で示されてきた精神文化に関わる保全対象地の「場による保全（眺望・祈りの場、記憶の場、記憶の印）」の検討状況を踏まえ、今年度実施した整備ならびに確認された事項について場所ごとに内容を整理しました。ここではこれまで検討されてきた状況と今年度検討された箇所について示します。

【第９回検討会　資料－３の２】図を一部サイズ縮小して、吹き出しで 15 か所の保全対象地と今年度検討された箇所については白丸と矢印で示しました。変更検討箇所についてはＰ27 を参照してください。

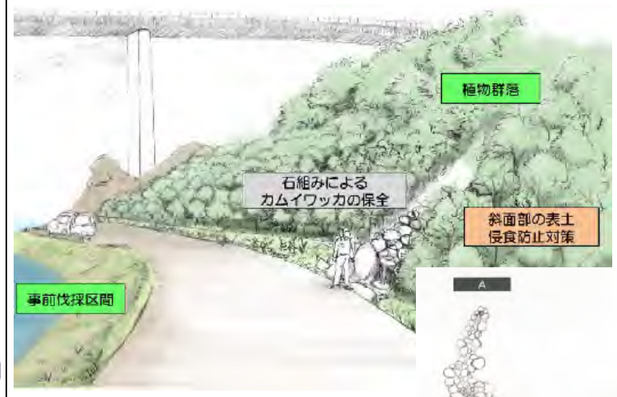
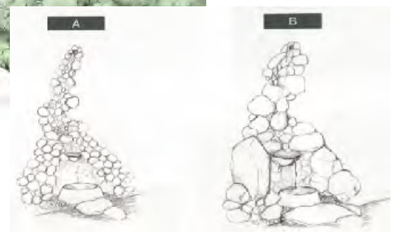


②カムイワッカ（神の水）と呼ばれる湧き水の保全対策案について

〈ａ〉これまで検討された保全対策案

昨年度までの保全対策案を踏まえ、状況を整理するとともに今後も引き続き、保全に向けた検討が必要になります。現在は、にぶたに湖が面するオサツ沢にて沙流川ダム建設事業所が実施している緑化試験を試行しながら協議を進めています。

これまで検討された保全対策の整備イメージ

H20（2008）年度『調査報告書』P1-25	H20（2009）年度　第９回検討会 3-2 補足資料	H24（2012）年度　三者会議資料（12 月４日）	H26（2014）年度　第 16 回地域文化保全対策検討会（９月 25 日）：上 H26 年度　地域文化勉強会説明資料（３月６日）：下
		ダム完成までのイメージ（現況+石組） 緑化対策を実施した場合のダム完成後のイメージ （石組+緑化対策（挿し木） 	 石組みの形状案 

カムイワッカの検討状況

カムイワッカの保全対策の基本方針	①カムイワッカの形状保全と周辺の緑化⇒カムイワッカに対してはダム湖の水位変動や結氷等に伴う土壌侵食による影響が懸念される。このため、周辺の自然石などを利用した石組みなどによる補強や、侵食に強い植生基盤や耐水性に優れる樹種の導入による湖岸緑化を検討し、周辺の自然環境との調和に努める。 ②カムイワッカの利用⇒運用水位の低い時期（４月～11 月）における地域の利用を想定し、採水などの利便性に配慮した検討をする。記憶の場等へのカムイワッカの案内板設置による文化継承を図る。【第 14 回平取ダム地域文化保全対策検討会資料-２より】
保全対策の課題	・約４か月間（12 月～３月）冠水することから、斜面部の植生を現状維持していくことは難しい。斜面部が急斜面であることから表土が水位変動により侵食を受ける可能性がある。カムイワッカの上部の平場も冠水する可能性がある（数十 cm～１ｍ程度）。【H24.12.４三者会議資料より】 ・ダム完成後は、ダム湖の水位変動や結氷等の土壌侵食の形状、景観、存在が変貌することが懸念される。【H25.10.４平取ダム地域文化調査に関する現地視察資料より】

検討を進める上でカムイワッカに関する情報

カムイワッカと貯水位の関係

２-生物の生存環境現地調査

１　植物の保全対策に関する調査

■目次　【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題　【ii】
◎作業状況―写真による業務説明　【iii】

■調査の成果
Ａ．植生保全区域 35 保全モデル区域整備計画検討　【１】
ア）保全整備計画再検討　【１】
①植生保全区域 35 保全モデル区域図　【１】
②生物（植物）保全区域 35 の分類ワークシート　【２】
③Ｓ（宿主別川流域）保全区域の保全対策　【３】
④Ｎ（額平川流域）保全区の保全対策　【４】
⑤先行的整備についての協議　【５】
イ）保全モデル区域現地調査　【６】
①Ｓ-01・02・03 保全区の現地調査　【６】
②Ｓ-14 保全区の現地調査　【７】
③Ｓ-14 保全区アッニ（オヒョウ）の移植作業　【８】
④Ｓ-04・11 保全区の整備　【９】
⑤Ｎ-03・07・08・09 保全区現地調査　【10】
⑥Ｎ-10・16・18 保全区現地調査　【11】

Ｂ.S-05 保全区域移植と整備　【12】
ア）移植作業　【12】
①Ｓ-05 保全区での移植作業その 1　【12】
②Ｓ-05 保全区での移植作業その 2　【13】
イ）整備・管理作業　【14】
①剪定作業　【14】
②草刈り作業　【15】
③鹿柵整備　【16】
④間伐作業と馬搬　【17】
⑤木道高架橋の完成　【18】
ウ）モニタリング調査　【19】
①　【19】
②　【20】
エ）Ｓ-05 保全区（植物園）の整備計画　【21】
①整備予定位置図　【21】
②Ｓ-05 整備計画概要　【22】

Ｃ.生活用具政策に関するまとめ　【23】
ア）生活用具製作工程　【23】
イ）度製作した生活用具一覧　【24】

■別添資料：生物保全区域モデルイメージ　a～ｊ

■関連資料
〇貯水池内伝統工芸素材等植物分布図　【関連資料-①】
〇35 保全区域植生状況データベース　【関連資料-②】

②S-14 保全区の現地調査

《S-14 保全区》

《S-14 保全区》　草本類（ワサビ・ヤチブキ）群生地・アッニ自生

「カムイワッカ上部の平地に工事の進捗状況をみて湿性植物の植林を検討。川側斜面に自生するアッニを S-05 への移植（主に伐り株移植）を行う。移植ができないものは樹皮採取を行う。」

S-01・02・03 保全区の対岸に位置する斜面が S-14 保全区になります。こちらも対岸と同じように数多くの山菜類が自生しています。プクサキナ、プクサ、ｴｼｹﾘﾑﾘﾑ等の群落に加えて、プイ（エゾノリュウキンカ）や―（ワサビ）も自生しています。木本ではアッニ（オヒョウ）が十数本自生しているものがあります。今回現地を確認した結果、前回の調査時からアッニ数本が枯死しているものがみられ、早急な対策が必要となり移植を行う事となりました。次年度以降の移植に向けた協議を行い、アッニを数本今年度中に移植を試験的に行う事になりました。移植作業の詳細は７ページに記載していますが、１本はそのままＳ－05 の植物園オカ（暮らす）ゾーンのシンボル樹として移植し、そのほか２本は試験的に切り株での移植としました。今回の移植試験がうまくいけば残りのアッニ以外にもその他の有用植物も移植による保全を進めていきたいと思います。

ダム本体の工事箇所からすぐ上流の位置になります。

―（ワサビ）の群落が小さな沢沿いに広がっています。

―（ワサビ）と混じってプイ（エゾノリュウキンカ）の群落も沢沿いに広がっています。

斜面を降りて平地部にはプクサキナの群落があります。

今回の調査で今まで確認した沢とは別の沢にもワサビの群落が広がっているのが確認できました。

斜面にはプクサの群落が何箇所にも確認できます。

GPS を使い位置の確認も行いました。

切り株移植用に選定したアッニと S-05 のシンボル樹として選定したアッニ。
移植に向けた作業の時期や流れ等の協議も行いました。

③S-14 保全区　アッニ（オヒョウ）の移植作業

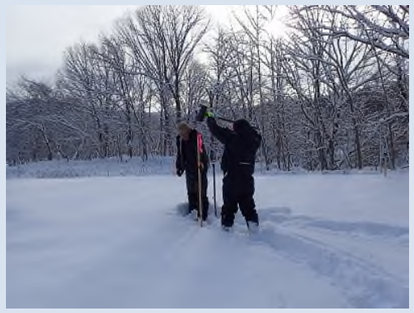
シンボル樹として選定したアッニ１本を含む３株をＳ-05 のオカ［イ］（暮らす）ゾーンに先行的に移植しました。活着、生育状況を観察しながら次年度以降も移植を行っていく予定になっています。

移植に向けて掘り出し後の運搬用の作業道路のルートを現地で確認しました。

今回試験的に移植を行うものを確認しました。

そのまま移植をするものと切り株移植を行うものを確認しました。

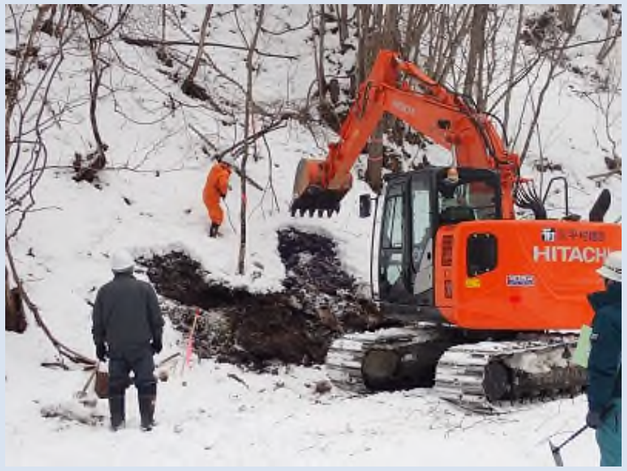
掘り出した木を植え付ける位置を選定しました。



陽当たりや他の木本との影響を考え位置を決定しました。

シンボル樹の移植予定箇所に目印の杭を打ちました。

移植運搬ルート



重機で慎重に掘り出し作業を行ないました。この後、掘り出したアッニは根をブルーシートで包んで保護し、S-05 に運搬しました。

Ｓ-05 での植え付けには木を傷つけないように慎重に作業を進め、無事に作業を終えました。あとは春になって無事に根が活着してくれることを期待したいと思います。

シンボル樹として移植したアッニ。両隣には 2 本の切り株移植も実施しました。

②草刈り作業

S-05 内の整備として、刈り払い機を使っての草刈り作業を定期的に行なっています。展示用の木本・草本類周辺は特に慎重に作業を行なっています。また、自生しているセタプクサ（すずらん）の半栽培としてシッタプ（ササ類）の刈取りも行いました。セタプクサと混在している箇所は１本１本剪定鋏でシッタプを刈り取っています。

S-05 草刈り

要所をチームのメンバーで分担して作業を行ないました。

Ｓ－05 入り口周辺

資材庫周辺

草刈り作業終了後の様子。

ササ群落のササ刈り

木本周辺

コロコニ群落周辺

スポット植物園周辺

シッタプの刈り取りによるセタプクサの再生

シッタプ群落に混生いるセタプクサ群落

刈り払い機でのササ刈り

すずらんを残して剪定鋏を使って手作業でのササ刈り

ササ刈り後の様子

ササ刈り後、セタプクサの葉が伸びてきています。

ササの間でセタプクサの花が咲いています。

当別町の北海道医療大学部付属薬用植物園&北方系生態観察園を見学してきました。ササを刈ることで植物の自然再生を目指す参考モデルとして、今後の整備作業に向けてとても勉強になりました。

③鹿柵整備

鹿柵が設置されてからしばらくは動物の食害などによる木本類の被害の発生は見られなくなりました。鹿柵の効果が出ていると思ったのですが、夏の後半位から少しずつ枝の破損や草本の食痕がみられるようになり、被害も拡大してきました。監視カメラで確認したところ、多数の鹿が侵入していることが分かり、侵入防止の対策方法を検討し実施しました。その結果冬期間での侵入は防止できました。

被害状況

コゥコニ（アキタブキ）が食い散らかされ、アッニ数本が折れているのを確認しました。
鹿の糞も数か所で確認されました。

ネットの隙間に通り道ができていました。

隙間をふさぎ経過を観察しました。

鹿柵の点検と新たな被害の発生

鹿柵沿いを見て回るとネット破損個所を数か所で確認できました。
ネットを飛び越えた痕跡も多数確認しました。

フェンスの下を潜って出入りしている痕跡を数か所で確認しました。
一度通れる事を覚えると常習的に行き来をするようです。

しかの侵入防止対策

夜間も記録ができる監視用カメラを設置して状況を確認しました。

鹿がネットを潜り侵入する現場も記録されていました。

日中にも多数の鹿が侵入している様子が記録されました。

剪定作業で出た枝等を積み重ねて障害物を設置しました。前年度に解体したガードフェンスの廃材も利用しました。

鹿が頻繁に潜って通り道になっている箇所では、特に念入りに丸太や枝を組み合わせて隙間をふさぎました。

イ）製作した生活用具一覧

今年度（H29 年度）製作した生活用具の一覧です。他の生活用具については材料等、準備が整い次第引き続き製作していきます。また製作途中の生活用具についても、次年度引き続き製作していきます。

◎今年度製作した民具の解説

メノコイタ / まな板

片方はまな板に、片方は鉢や皿になる。骨付きのものを切る場合にはイタタニ（肉切り台）を使い、山菜等を刻む場合にメノコイタを使った。小型のものは、お盆としても使われた。

（参考文献　萱野茂 1978『アイヌの民具』すずさわ書店）

チポロニナプ / 筋子つぶし

筋子をつぶすための道具。たくさんのじゃがいもを茹でてつぶし、それに塩をした筋子をチポロニナプで練りつぶして混ぜた食べ物がある。チポロタラシケプという。

（参考文献　萱野茂 1978『アイヌの民具』すずさわ書店）

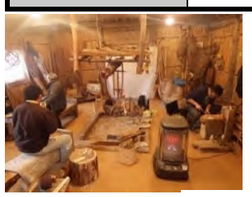
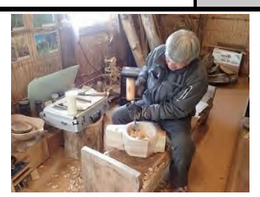
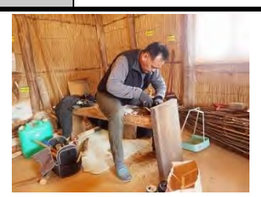
エトゥヌプ / 片口

酒宴のときの民具。シントコ（ほかい）からパッチ（鉢）類に酒を酌み、そこからそれぞれの杯に注いだ。そのあと、神々に捧げてから人々も飲んだ。大人数のときにパッチではなく、このエトゥヌプが使われた。

（参考文献　萱野茂 1978『アイヌの民具』すずさわ書店）

◎今年度製作した生活用具一覧

生活用具名	完成写真	生活用具名	完成写真	生活用具名	完成写真
メノコイタ（まな板）		ニマ		ニマ	
チポロニナプ（筋子つぶし）		ニマ		ニマ	
チポロニナプ		ニマ		ニマ	
エトゥヌプ（片口）		ニマ		ニマ	
ニマ（刳り鉢）		ニマ		ニマ	製作中
ニマ		ニマ		ニマ	製作中
ニマ		ニマ		ニマ	製作中

２生物の生存環境現地調査

２魚類の保全対策に関する調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

■調査の成果
Ａ．調査計画の検討 【１】
ア）伝統的漁法に係る作業の流れ 【１】
イ） 実証試験の実施概要 【２】
ウ）川漁実施のための手続きに関する情報収集と整理 【４】
① 特別採捕申請・許可・実施の流れ 【３】
②第一期（春期～夏期）特別採捕申請手続きの流れ 【５】
③第二期（秋期）特別採捕申請手続きの流れ 【６】
Ｂ．実証試験
ア）水生生物の生息区域調査 【７】
イ）水生生物の生息域の確認調査 【８】
①魚類生息調査のまとめ 【９】
① ﾎﾛｶﾚｲｪﾌﾟ/ニホンザリガニの生息調査のまとめ 【10】
ウ）第一期（春期）特別採捕試行 【11】
①伝統的漁法試行調査の概要 【11】
②伝統的漁法試行調査 【12】
③漁具（鹿角製釣針）の作成、試行調査 【13】
④フラルイチェﾌﾟ/キュウリウオ採捕試行 【14】
⑤スサム/シシャモ採捕情報収集 【15】
⑥シペ/シロザケの特別採捕実施状況概要 【16】
⑦シペ/シロザケの自然遡上特別採捕実施状況 【17】
⑧二風谷ダムを遡上する魚種データ 【18】
⑨シペ/シロザケ・サキペ/サクラマス遡上調査 【19】
⑩聴き取り調査と実証試験調査 【20】
⑪食文化再現調査 【21】
エ）特別採捕の結果 【22】
① Ｈ29 年度シペ/シロザケ・サキペ/サクラマスの採捕結果と今後の課題・計画 【22】
② Ｈ29 年度シペ/シロザケ・サキペ/サクラマス以外の採捕結果と今後の課題・計画 【23】
オ）①イオルー号チセの展示状況 【24】
②イオルー号チセ活用状況 【25】
カ）「親自然（多自然）工法」による水辺環境調査 【26】
① 工法試行に向けた現地調査と作業の流れ 【26】
②やな組工法・木流し工法・石組み工法モニタリング 【27】
Ｃ．平成 30 年度に向けた作業計画 【28】

Ｄ．まとめと今後に向けた課題の整理 【29】

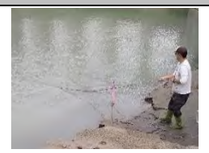
■別添資料：伝統的漁法に関するマニュアル Ver. 2017

■関連資料（電子データー版のみに所収）
○自然遡上動画＜シペ/シロザケ＞ 【関連資料-①】

②伝統的漁法試行調査

今年度も水生生物の生息域観測地を設定し、観測地にて伝統的漁具およびそれ以外の漁具（市販されている釣針）を試行しました。下記表は、各区域で行った試行調査をまとめたものです。

◎伝統的漁法試行調査一覧（※試行箇所は特別採捕試行箇所位置Ｐ７参照）

試　行　日	試　行　箇　所	調　査　の　様　子			使用した漁具名	調　査　結　果
2017/６/７	②アベツ川 （沙流川本流左岸） ※二風谷ダムより下流側				（－）／はえ縄	●スプン／ウグイ捕獲数１尾（約 14 ㎝）
2017/７/６	④、⑤沙流川右岸支流 （ニセウ川）				（－）／雑魚すくい	●スプン捕獲数１尾（約 30 ㎝）
2017/７/28	②アベツ川 （沙流川本流左岸） ※二風谷ダムより下流側				クトゥ／ど）	●スプン捕獲数 14 尾（約 10～20 ㎝） ●トチｪﾌﾟ／フナ捕獲数１尾　（約 23 ㎝）
2017/５/30	⑥額平川中流より下流 （岩内橋）				クトゥ	●捕獲数０尾
2017/７/６	⑥額平川中流より下流 （額平川）				たも網	●スプン捕獲数１尾
2017/７/21	④沙流川右岸支流 （ニセウ川）				ｱﾌﾟ/流し鈎	●捕獲数０尾
2017/７/21	④沙流川右岸支流 （ニセウ川）				たも網	●ウグイ捕獲数１尾
2017/８/10	⑥額平川中流より下流 （額平川）				はえ縄	●捕獲数０尾

～調査結果～

※各伝統的漁法を数回実施しましたが魚全体的に確認できた魚類の数はかなり少なく感じました。

⑥シペ（シロザケ）の特別採捕実施状況概要

・今年度さけ・ますふ化場からシペ/シロザケを 15 尾提供を受けアベツ川に、いけすを作り特別採捕を実施しました。

◇日時　平成 29 年 10 月 19 日（火）午前 9:00～午後 17：00

◇場所　沙流川支川水系アベツ川の沙流川合流点から道道平取門別線亜別橋までの区域

※採捕の調査位置図は、P７②アベツ川（沙流川本流左岸）特別採捕調査位置図に示しました。

1　作業の流れ

●採捕の準備（前日まで）
⇒①イサパキｸﾆ/たたき棒とやな組み用にスス／ヤナギ採取（看看沢）
⇒②イサパキｸﾆ作成は当日行いました。
杭 16 本ヤナギ 100 本土嚢袋 100 個

①

②

●事前作業
⇒③簗用杭打ち
⇒④水辺環境整備
※簗を組む前には、採捕時に川が濁らないように清掃（泥や枯れ葉の除去）を行った

③

④

●採捕区間へのさけ運搬、放流
⇒⑤シペの積み込み
⇒⑥採捕区域のアベツ川に到着
シペを一匹ずつ放流。

⑤

⑥

●シペ到着時の川の様子
⇒⑦川の流れる力が強くシペが流されてしまうので、やな組にネットを付けて土嚢を沈めて工夫をしました。
⇒⑧採捕前の儀式。

⑦

⑧

●シペの特別採捕開始
⇒⑨マレﾌﾟで捕れたシペ。
⇒⑩イサパキｸﾆでシペを送る。

⑨

⑩

●シペ運搬車から軽トラに移動
⇒⑪捕れたシペはその都度積み込んだ
⇒⑫すべて取り終えたら二風谷生活館に移動。

⑪

⑫

●シペの処理、加工
⇒⑬シペの解体
⇒⑭シペ皮の乾燥

⑬

⑭

2　伝統漁法の試行状況

●伝統的な漁具を用いて、図・写真 A～C の漁法を試行しました。その結果を【表１】にまとめました。

A　マレﾌﾟ/自在もり
B　アﾌﾟ　/流し鈎
C（－）/ 三本やす

【表１】採捕の方法、その尾数

A　マレﾌﾟ	7 尾
B　アﾌﾟ	7 尾
C 三本やす	6 尾
特別採捕用	20 尾

A

B

C

3　採捕後の利用状況

●採捕後は、主に伝統的な方法で調理・加工しました。その状況は写真 a～h を参照してください。また、採捕後の用途、その尾数については【表２】に示しました。

［a］

【表２】採捕後の用途、その匹数

イ　試食にともなう食用	17 尾
ロ　生活用具試作素材用皮製品等	3 尾
合計	20 尾

［b］

●伝統的な調理・加工法により、ほとんど余すところなく利用しています。

※今年度の鮭特別採捕は川の濁り増水もなく魚が見えやすくスムーズに終えることができた。

［c］

［d］

a シペオハウ／シロザケの味噌汁
b アハとキミメシ／土豆とクロミチトウキビのごはん
c シペトマトパッツア／シロザケのトマト煮
d プクサとシペのクリームパスタ
　／ギョウジャニンニクとシロザケのクリームパスタ
e シペホイル焼き／シロザケのホイル焼き
f エモグラタン／ジャガイモのグラタン
g プクサキムチ漬け/ギョウギャニンニクキムチ漬け
h 試食会の様子

［e］

［f］

［g］

［h］

⑦シペ／シロザケの自然遡上特別採捕実施状況

平成 27 年度～平成 28 年度、9 月～11 月間、マレプ/自在もり、アプ/流し鈎、(－) /三本やす等の事前準備後アイヌ伝統的漁法の再現試行を自然遡上の中で実施しました。

平成 27 年度

平成 28 年度

※今年度のシペ/シロザケ自然遡上の調査結果としまして、例年よりも沙流川に遡上するシペ/シロザケの匹数がかなり少なく、沙流川流域ダム用地内での自然遡上確認の調査 9 月～11 月と数回実施しましたがシペを目視する事が困難な状況となり自然遡上でのシペ特別採捕試行が出来ませんでした。その年によって遡上するシペの全体数が異なるという結果情報を得ることができたので次年からも調査を継続実施していきます。

去年のアベツ川の現況写真と、今年のアベツ川の現況写真を比較のため並べました

⑨ シペ／シロザケ・サキペ／サクラマス遡上調査

平成 27 年度～平成 28 年度のシペ・サキペ遡上確認箇所を地図に落としてまとめました。※今年度シペ・サキペ遡上調査結果 27 年度の調査結果としましては、宿主別川中流・上流側ではシペの確認はできましたが、今回の調査では確認できませんでした。台風後の大水の影響で確認できなかったと思われます。

・シペ（オス・メス）

・サキペ

……27 年度シペ・サキペ遡上箇所
……28 年度シペ・サキペ遡上箇所
……29 年度シペ・サキペ遡上箇所

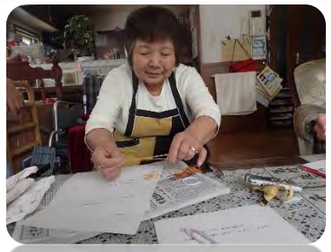
H29 年度シペ・サキペ遡上調査の様子

9 /20 二風谷ダム下流	10/ 2 オサツ河口	9 /27 貫気別せたない	10/16 二風谷ダム下流	10/17 二風谷ダム下流	10/ 5 /アベツ川
サキペ/サクラマス確認 ○	シペ確認 ×	シペ確認 ×	シペ確認 ○	シペ確認 ○	シペ確認 ○
産卵所確認 ○	産卵所確認 ×	産卵所確認 ×	産卵所確認 ○	産卵所確認 ×	産卵所確認 ×

⑩聴き取り調査と実証試験調査

今年度の特別採捕の実施にあたり、町内在住の協力者から昔の伝統的漁法などの聴き取りを行なうとともに、漁具制作の指導を頂き、伝統的漁法の試行、漁具作成試行実施しています。

◎聴き取り調査と実証試験　　＊報告内容は聴き取り筆耕データを記載しています。



情報センターでの聴き取り調査を実施

●　昔の肉料理・鹿肉等について

・鹿肉は、何回も茹でながらあく抜きをして、プクサキナ／ニリンソウと一緒に汁に入れて食べた。汁に使わない部分はサカンケ／煮干し肉にして、私はサカンケが一番好きだったなぁ、昔は死んだ馬も今は食べられないけど、新鮮なうちに周りで分け合って同じくサカンケにして食べてた。美味しかったよ。

・うどんが食べたくなったら、家で飼ってる鶏を、ハボ／お婆さんが、ナタと鶏を持ってきて首を切ると体だけの鶏が走り回って血は飛び散ってて本当に怖くて私にはできなかったわ。

●キミ／トウモロコシの料理について

・キミ／トウモロコシの乾燥させた実をばらばらに外して、ニス／ウスに入れてさっと熱湯をかけてからイュタニ／キネで突いてたら薄皮と種が外れてくるので、ヤラムイ／みで、やったら皮飛ぶんだわそやって何回か繰り返してやったら綺麗になるから、そしたら今度お湯で煮て、おかゆにして、子供のころは毎日キネで突かされていたよ。

●昔の魚料理・採り方について

・二風谷ダムができる前の川、堰堤とこにはおっきなエソッカ／カジカ２匹獲ってな、そのころには味噌あったから味噌汁にして食べても一家族分作れたんだ、２匹だけだけど大きなエソッカだったから手づかみで獲れたんだよ。川に釣りに行く時に塩持ってってな、ヤマメ、ウグイでも何でも釣れたらすぐ頭を持って皮剥いて腹とって塩まぶして、ヌメリ取って生のまま食べたりしたよ。

≪聴き取り調査の結果を踏まえ、今後の取り組み≫

聴き取り調査で得られた伝統的漁法や魚の食べ方、保存方法などポイントと注意点を基に次年度以降実施していく予定です。

◎聴き取り文献調査の情報を基に試行結果（二風谷ダムより下流の水生生物生息確認調査）

クトゥ／（ど）

使用漁具写真

※かつてアイヌが川漁を行う時に網などにカニが掛かった時は、カニに対して「サケやマスが捕れたらお前を川に帰してやる」、とカニに言って捕まえて置いて、川漁を始めていたそうです。次年度もエサを変えてみたりと、調査継続していきます。

１回目の試行

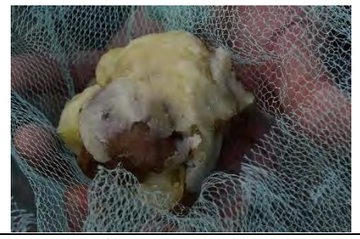
・スプン／ウグイを骨、内臓と身を一緒に切り出し餌として使用

・４匹分、５等分に切ったスプンの様子

・クトゥの中に身を入れて川に沈めた

・結果３日後クトゥの中を見ると身は無く骨だけになっていた

２回目の試行



・ふかし芋をネットに包み餌として使用

・クトゥの中にぶら下げるように縛り付け設置

・溜まりを見つけたら、川の流れが緩やかな所にクトゥを設置

・今年度初めてトチェプ／ギンブナの確認ができた

※１回目の試行は魚の身を餌として３日間川の中に仕掛けました。２回目の試行はふかし芋と、魚の身を餌にして一晩川の中に仕掛けました。

２−生物の生存環境現地調査

３　動物の保全対策に関する調査

■目次　【ｉ】

■概括

◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題　【ii】
◎作業状況―写真による業務説明　【iii】

■調査の成果

Ａ．沙流川流域で継承されているアイヌ文化に係る情報収集　【１】
ア）動物の保全にかかる口承文芸や踊りのデータベース化　【１】

Ｂ. 現地調査　【７】
ア）今年度行った現地調査の際に見かけた動物の記録と、口承文芸、踊りとの関わり　【７】
イ）定点カメラによる動物の記録　【９】

Ｃ. 動物保全に関する調査　【21】
ア）先行事例　【21】
イ）保全対策案　【22】

■関連資料（電子データ版のみに所収）

〇動物関連情報データベース　【関連資料ー①】

〇トレイルカム動画　【関連資料ー②】

Ａ．沙流川流域における動物に関する情報収集

ア）動物の保全にかかる口承文芸や踊りのデータベース化

昨年度行った動物の保全にかかる口承文芸等の文献調査結果及び、今年度新たに行った口承文芸及び踊りに関する文献調査結果をもとに、情報のデータベース化を行いました。

○　目的

・小学生が簡単に操作できること。　・動物（通称名）から口承文芸や踊りを検索できること。　＊今後、写真や報告書の聞き取り内容に拡充する。

○　収録数

・物語 237（昨年度 114）　・踊り 32（昨年度 0）　・文献数 28（昨年度 12）　＊今後拡充予定。

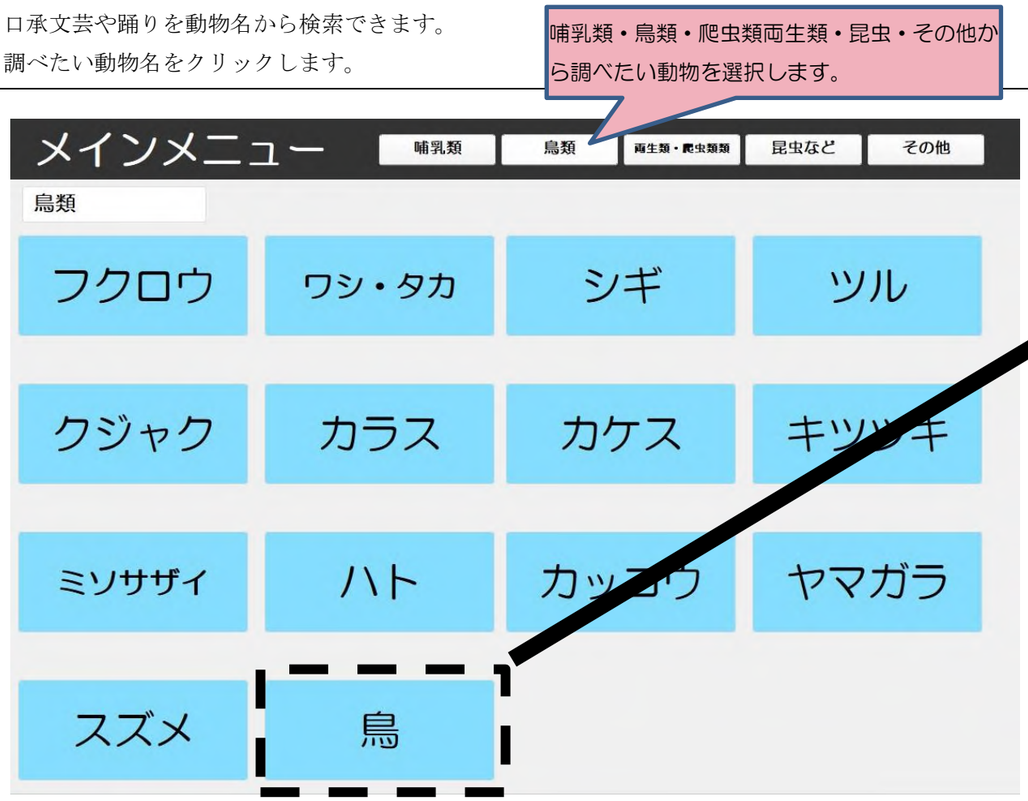
○　主な構成

（1）メインメニュー　（2）選択画面　（3）辞書画面　（4）口承文芸の説明　（5）口承文芸一覧　（6）口承文芸詳細画面　（7）踊りの説明　（8）踊り詳細画面　（9）踊り参考写真　（10）踊り参考文献　（11）印刷画面

（1）メインメニュー

口承文芸や踊りを動物名から検索できます。

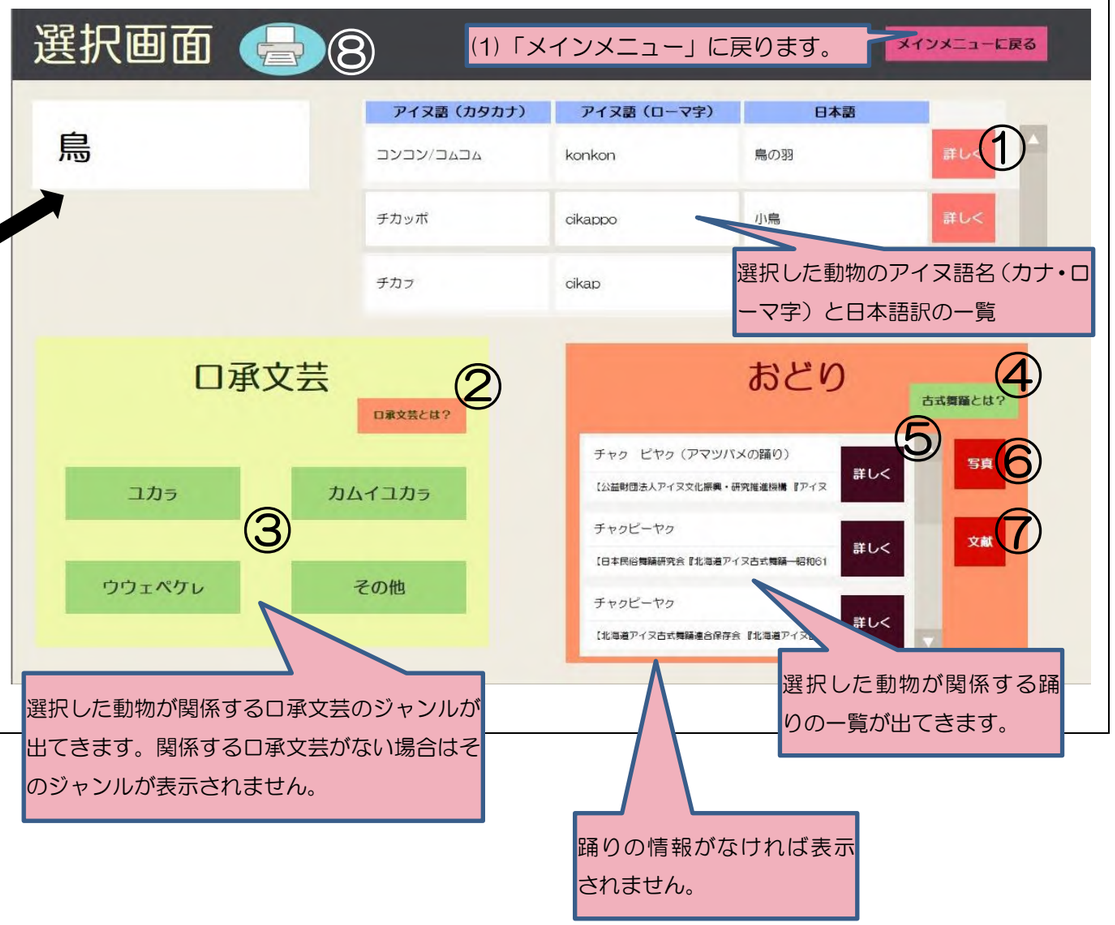
調べたい動物名をクリックします。



（2）選択画面

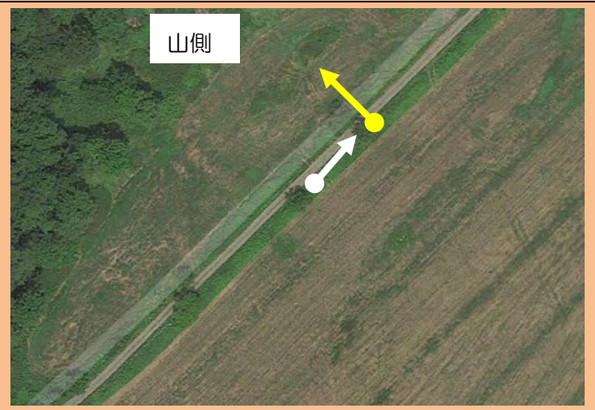
（1）のメインメニューで調べたい動物をクリックすると「選択画面」が出ます。

ここでは調べたい動物のアイヌ語名一覧と口承文芸のジャンル、踊りの一覧を見ることができます。



◎定点カメラの設置場所ごとにまとめた記録

※一回の動画の撮影時間＝30 秒、　天候＝夜間の場合、雨・雪が降っていなければ「晴れ」とした。

カメラ設置区域	カメラ設置箇所図	撮影方向写真	
A：N-09 保全区（豊糠）		黄色矢印	白矢印

撮影方向	日付	動物名（アイヌ語名/和名）	時間	個体数	天候	行動
黄色矢印	8月 15 日	キムンカムイ/ヒグマ	22：16	1	晴れ	カメラの方を気にするように振り返り、山の方へ駆け出す。
	8月 17 日	ﾕｸ/エゾシカ	3：46	3	晴れ	山の方へ歩いて行った。
白矢印	8月 17 日	キムンカムイ/ヒグマ	20：20～20：58	1	晴れ	15 日と同じ個体と思われる。木の下に落ちてるスモモを食べている。次にカメラが作動したのは約 30 分後で、その間、木の周辺にいたと思われる。その後カメラを振り返りながら道路を歩き、山側に行った。
	8月 20 日	ﾕｸ/エゾシカ	2：09～2：11	1		スモモの木の周辺で下を向き、何かを食べている。
						山側に歩いていった。
			18：00～18：03	1		鹿の子模様がある。スモモの木の周辺で下を向き、何かを食べている。
						山側に歩いていった。
			22：46～23：00	2		雄。スモモの木ほ方から現われ、カメラを気にしながら草を食べている。
						画面奥の方にも雄。草を食べている。山側に歩いて行った。
			23：36	1		じっと何かを見ている。
	8月 22 日	ﾕｸ/エゾシカ	18：53	1		雄。カメラを気にしてキョロキョロしている。
	8月 23 日		1：43	1		雄。カメラを横切り、山側に歩いて行った。
			19：42	1		カメラを横切り、山側に歩いて行った。
	8月 25 日		22：35	1	霧	雄。カメラを横切り、山側に早歩きで行った。
	8月 26 日		22：30	2	晴れ	カメラ前を川側へ走り去り(雄)、もう１頭は山側へ走り去った。
	8月 27 日		21：19	5	霧	道路の草を食べている。１頭は雄、もう１頭は暗くて同定できず。
			21：20			もう１頭雄が現われ、カメラに近づいて来た。
			21：29			最初にいた２頭の他に、もう２頭現われ、草を食べている。

◎モマニ周辺のキムンカムイの痕跡と自動撮影カメラに映ったキムンカムイ

木を１周するように、歩いた跡や寝転んだ跡がついていた。

下に落ちたスモモの実。

これまでにもいくつかの対策案を提示してきましたが、今年度は、口承文芸の世界観から実際に保全対策に繋がるのではないかと考えるものをあげてみました。また、2006 年に出された総括報告書でも取り上げている、野生動物の通路について、改めて検討をすべき事案として掲載しました。

◎川・魚類・哺乳類等の保全対策案

『キツネのチャランケ』より抜粋

（中略）
～村の近くには水のきれいな川が流れていて、秋になるとたくさんのサケが卵を産むために遡(のぼ)ってきます。冬の食糧にするため近くの村ばかりでなく遠くピラトリコタン（村）からもサケをとりにやってきます。サケを食べるのはアイヌばかりではありません。クマもキツネ、サケを食べることのできる生き物はすべて川を遡(のぼ)ってくるサケをとって食べ、お互い邪魔しあうこともなく暮らしていました。
～魚というものはアイヌだけが食べる権利があるのではなく、魚を食うことができるすべての動物が食べることができるよう神様が与えてくれた食糧なのです。
～だからこれからのアイヌよ。サケでもシカでもアイヌだけが食べるのではなく、生きている動物、サケやシカを食べるすべての動物がアイヌと同じように食べる権利を持っているのだから、決して人間だけのものと考えてはいけません

沙流川流域に伝わるウウェペケレ(伝説・おとぎ話)の一節です。魚が棲める環境づくり、魚を獲るルールなどを教えてくれています。今後の保全対策の一つに取り入れたい考え。

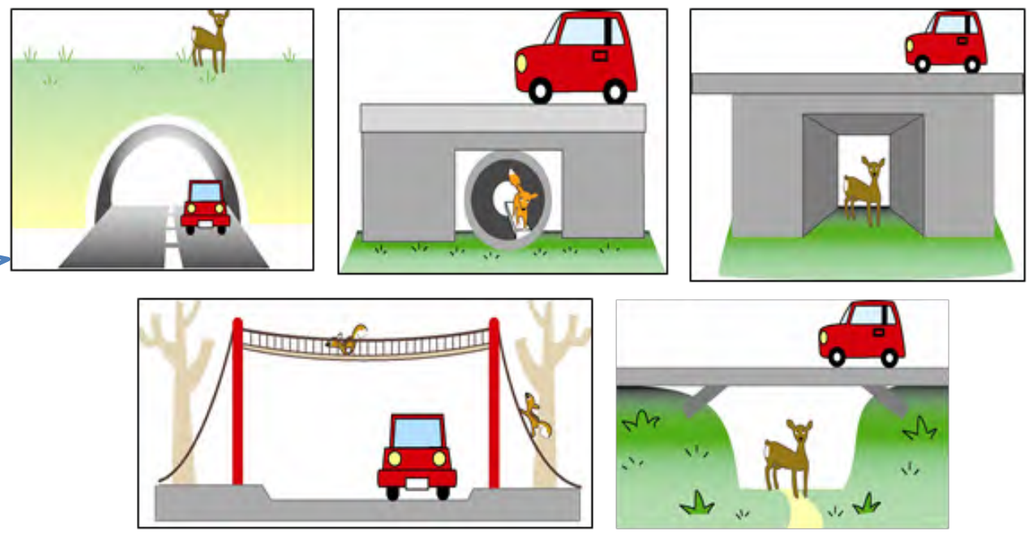
◎動物・魚類・川原、森林等の保全対策案

『オキクルミ　ト゜レシヒ（大空に描いたコタン）』より抜粋

（中略）
～沙流(さる)川(がわ)その流れの清らなかな様子
野原の所に子ジカの群れや大ジカの群れが追いかけ合い
沙流川の川の中には小さい魚や大きい魚がひしめき合い
水面(みなも)の魚は天日で背が焦げ大きい袋を奪い合い
ヤナギの林は川岸の方にハンノキの林は山の麓(ふもと)に
ヨシの原は川岸の方にオミ(まま)ガヤの原は山の麓に
水底(みなそこ)の魚は石で腹を擦(す)り剥(む)き魚を獲(と)る者回転銛(もり)を奪い合い
川原の方では大ジカの群れや子ジカの群れが追いかけ合いシカを獲る人走り回りウバユリを掘る人小さい袋を皆が嫌がり～

沙流川流域に伝わるカムイユカラ(神謡：神が自らのことを語る話)の一節です。聴き取りからもこのような情景が流域には現実にあったようです。今後の保全対策を考えるうえで、最終の姿がこれに近いものになるかと思われます。

図：総括報告書第８章より引用
コリドー（野生動物の通路）について、引き続き対策を検討すべき事例と考えます。



3

生活文化の保全対策に関する調査

■目次 【ⅰ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明 【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．調査計画の検討 【１】
ア）生活文化の保全対策に係るこれまでの検討状況 【１】
イ）生活文化の保全対策に関する調査の流れ 【２】

Ｂ．　現地調査 【３】
ア）川洲畑選定箇所の現地確認 【３】
イ）今年度（Ｈ29 年度）の川洲畑試験地 【４】
ウ）試験地の事前準備 【５】
①作付け計画の作成 【５】
②作付け種子の確保 【５】
③各試験地の整備 【５】
エ）川洲畑試験地における播種作業 【６】
①豊糠試験畑での播種作業 【６】
②紫雲古津試験畑での播種作業 【７】
オ）モニタリング調査 【８】
①生育状況の観察および記録作業の手順 【８】
②豊糠試験畑でのモニタリングと管理作業 【９】
③紫雲古津試験畑でのモニタリングと管理作業 【10】
カ）川洲畑試験地における収穫作業 【11】
①収穫にともなう準備作業 【11】
②豊糠試験畑での収穫作業 【12】
③紫雲古津試験畑での収穫作業 【13】
④収穫後の作業のまとめ 【14】

Ｃ.生活環境再現調査 【15】
ア）プロジェクト＜ＳＡＲ＞の観点から調査・研究と試行を深める取り組み 【15】
イ）＜ＳＡＲ＞10 の設問への回答（案） 【16】
ウ）生活文化に関する聴き取り調査 【21】

Ｄ．食文化再現調査 【22】
ア）今年度（Ｈ29 年度）実施した食文化試行 【22】
①試食会および試行状況 【22】
②試行後のアンケートの収集 【24】
③二風谷雑穀畑での収穫体験と食文化試行 【26】
イ）食文化再現試行レシピの更新と見方 【27】
ウ）食文化試行で使用する食材の確保 【28】
①今年度、採取した山菜・果実、保存処理した食材等 【28】
②今年度、二風谷雑穀畑で栽培した作物等 【29】
Ｅ．今後の課題 【30】
ア）川洲畑試験地における次年度の課題 【30】
①豊糠試験畑 【30】
②紫雲古津試験畑 【30】
イ）食文化試行における次年度の課題 【32】
①二風谷雑穀畑での雑穀・作物の確保 【32】
②現地での山菜採取 【32】
ウ）プロジェクト＜ＳＡＲ＞における次年度の課題 【32】

■別添資料：川洲畑再現マニュアル Ver. 2017

■関連資料（電子データ版のみに所収）
○川洲畑試験畑でのモニタリング記録 【関連資料-①】
○川洲畑での体験プログラムの配布資料 【関連資料-②】
○土壌分析結果と土の採取法 【関連資料-③】
○二風谷雑穀畑での雑穀・穀物の栽培 【関連資料-④】
○食文化試行レシピ Ver. 2017 【関連資料-⑤】

イ）生活文化の保全対策に関する調査の流れ

これまで行ってきた作業の流れを基本とし、今年度もこの分野に係る川洲畑実証試験ならびに食文化試行に関する調査を実施しました。

◆水辺の伝統的生活文化や環境に関する検証・分析を重視
◆全体として、プロジェクト SAR の観点・スタイル・方法に留意
◆伝統的農法の情報収集

調査計画検討

◇既存情報の収集・整理と内容確認
◇調査工程・方法などの概要検討
◇協力者との調整を経て実施計画策定

・昨年度の調査結果（調査報告書）を踏まえ、課題等の確認・検討を行う。
・川洲畑試験地の選定に伴う当面の作業計画を立てる。
・二風谷雑穀畑に伴う当面の作業計画を立てる。

現地調査

試験地選定

◇川洲畑選定箇所の現地確認
◇試験地の選定

・川洲畑の試験適地を選定するための事前の現地調査を実施する。
（事前にチームで現地状況を確認＝土質・日当たり・水はけ・風当たり等の確認、土壌の参考とする上での土採取、利用可能面積の計測、周辺の状況を把握）
・現地調査後は室内で協議し、協力者（川洲畑体験者）の指導をいただきながら試験地を決定する。
※二風谷雑穀畑についても育苗畑２の敷地内のため、６分野（栽培実験の継続に関する調査）と調整し、利用箇所を決定する。

現地調査事前準備

◇川洲畑試験地設営に向けた準備
◇作付計画作成
◇作付種子の確保
◇体験学習プログラムの作成

・選定した川洲畑試験地について沙流川ダム建設事業所に使用許可を確認する。（提出書類を作成）
・選定した川洲畑試験地の作付け図（面積と栽培種の配置）ならびに栽培する種子を準備する。
・沙流川ダム建設事業所から使用許可の確認後に試験地の整備を行う。
・川洲畑試験地での播種作業に向けて協力者や関係者との日程の調整を行い、播種作業の工程（体験プログラム）を作成する。儀礼については１分野（精神文化保全対策に関する調査）と調整する。
・播種作業に伴う用具・資材を確認する。
※二風谷雑穀畑についても同様、整備・作付け図・種子の準備・使用資材等を事前準備として行う。
（栽培する種、作付け面積については、食文化試行と調整する）

播種関連作業

◇播種作業（ともなう儀礼）
◇川洲畑や往時の環境などについての聴き取り調査

・協力者の方に指導をしてもらいながら、選定した試験地において畑起こし～播種作業を作成したプログラムで体験してもらう。（１分野の播種前の儀礼も含む）
（現在は開発局　沙流川ダム建設事業所・苫小牧河川事務所職員対象）
・協力者には川洲畑や往時の生活文化（食文化も含む）に係る聴き取りを行う。

モニタリング調査

◇生育状況の観察および記録
◇モニタリング経過のデータの分析
◇管理作業（動物対策も含む）

・各川洲畑試験地において播種後から収穫までの期間の生育状況を観察し、記録する。
・生育状況を把握しながら収穫までの期間、管理作業（草刈り・草取り・倒伏防止対策・動物対策等の整備）を行う。
・各栽培種の収穫時期の見極めも行う。
※二風谷雑穀畑についても同様、生育状況の観察・記録・管理作業を行う。

収穫関連作業

◇収穫準備
◇収穫作業（ともなう儀礼）
◇川洲畑や往時の環境などについての聴き取り調査
◇収穫後の処理・保管

・収穫作業に伴う保管場所（乾燥する場所・保存する場所）を確保する。
・川洲畑試験地での収穫作業に向けて協力者や関係者との日程の調整を行い、収穫作業の工程（体験プログラム）を作成する。儀礼については１分野（精神文化保全対策に関する調査）と調整する。
・協力者には川洲畑や往時の生活文化（食文化も含む）に係る聴き取りを行う。
・収穫作業に使用する用具・資材等を確認する。
・収穫した作物を保存するための処理（乾燥→脱穀→選別）を行ったのち保管する。
※収穫・保存・処理の過程での追加事項については、マニュアルを更新する。
・収穫物の保管後は随時、雑穀・山菜などの保存・管理リストを更新する。
※二風谷雑穀畑についても同様の収穫準備・収穫作業・収穫後の処理・保管を行う。

食文化再現調査

◇試食会開催　◇レシピ作成
◇試行に使用する食材（作物・山菜・果実等）の確保
◇食文化に関する情報収集（聴き取り・文献等）

・今年度の収穫物（作物・山菜）や保存している収穫物を利用した食文化の再現ならびに試行を行う。試行後は今後の参考となるよう感想を収集する。
・再現ならびに試行した新たな調理法については、マニュアル（レシピ集）を更新する。
・試行で使用する食材（作物・山菜・果実）等を確保し、保存する（乾燥・保管する場所を確保）。
※採取箇所等については２−１分野（植物の保全対策に関する調査）と調整する。
・作物（雑穀）等の確保は、二風谷雑穀畑で栽培する。
・協力者には川洲畑や往時の生活文化（食文化も含む）に係る聴き取りを行う。

エ）川洲畑試験地における播種作業

作付計画に基づき、事前準備として作成した体験学習プログラムをもとに選定した２か所の試験地において、川洲畑の体験者の指導のもと関係者（沙流川ダム建設事業所、苫小牧河川事務所職員）を対象に各試験畑において播種作業を行いました。以下に各試験畑で実施した内容を整理しました。

体験者とともに作業を行うことにより、的確なアドバイスやその理由を知ることができます。
また、作業を通じて当時の川洲畑の様子や生活文化、周辺の環境など把握することにも重点をおいています。

①豊糠試験畑での播種作業

◇体験プログラムの実施内容

３-生活文化の保全対策に関する調査　川洲畑現地調査
貝澤ユリ子さんの指導による「豊糠試験畑作業開始前の儀礼および播種体験」

実施予定日：平成 29 年５月 29 日（月）　※実施施予定日は 24 日（水）午後だったが雨天のため延期した
作業予定時間：10：00～11：30（少雨決行）
参加者：［協力者］貝澤ユリ子さん
［沙流川ダム建設事業所］９名
［対策室］　３分野：木村、黒川、及川、加藤、久保、貝澤（耕）
１分野：菊地、長野
記録補助作業として：　貝澤（朱）、藤川、吉原

時　間	実施内容	備考
9：00	アイヌ文化情報センター集合、出発	
9：05	貝澤ユリ子さん宅着	貝澤ユリ子さん合流
9：45	豊糠試験畑着	（※対策室到着後畝間の計測と杭立て）
10：00	挨拶と担当者による説明 儀礼準備 儀礼（儀礼の体験）	事業所の方々と合流 （※資料配布） 貝澤ユリ子さんの指導のもと体験
10：30	整地作業（畑起こし、畝作りの体験） 播種作業（播種、覆土の体験）	貝澤ユリ子さんの指導のもと体験
↓	ネット張り作業	担当者による説明
↓	片付け作業	（※用具・収穫物の運搬）
↓	参加者からの感想	
11：30	作業終了	

【備考】　※長靴、軍手、飲み物等は、各自ご準備ください。
※当日は、ＩＣ、ビデオ、カメラでの記録を行いますのでご理解ください。
※当日、天候等により実施できない場合のみ、ご連絡いたします。

【準備用具等】※記録機材（ＩＣ、ビデオ、カメラ）　※当日の配布資料等→関連資料－②を参照
※整地作業用：鍬、三本鍬、レーキ、熊手、スコップ、草削り
※播種作業用：種、水糸、巻き尺、栽培種名のプレート、ガンタッカー、平杭
※ネット張り作業用：防鳥ネット、トラロープ、コンテナ、かけや、カッター
スズランテープ、コンテナ

◇実施の様子

儀礼準備・儀礼 （儀礼の体験）	整地作業 （畑起こし、畝作りの体験）	播種作業 （播種、覆土の体験）	その他 （当日の作業）
体験者の指導のもと播種前に安全と豊作を願う儀礼を行いました。 ＊詳細は１-精神文化保全対策に関する調査を参照	体験者の指導のもと鍬による畑の荒起こし、草削りでの筋付けの体験をしてもらいました。	今年度は４種（シプシケプ/イナキビ、ムンチロ/アワ、ピヤパ/ヒエ、アントゥキ/アズキ）を播種しました。	集合前の畝間の計測と杭立て
体験者によるカムイノミ （神への祈り） 	鍬による畑起こしの体験 	体験者による播種の指導と参加者による体験 	播種前の水糸張り
↓ 参加者による所作の体験 	↓ 体験者による筋付けの指導 	体験者による覆土の指導と参加者による体験 	播種前のプレート付け
↓ 参加者による所作の体験 	↓ 参加者による筋付けの体験 	↓ 播種・覆土後の畝の様子 	播種後のネット張り

参加者からの感想〈IC20170529-001 豊糠試験畑作業開始前の儀礼及び播種体験（ＩＣ③)〉一部抜粋

- この豊糠でのこの川洲畑での３回目の参加になりますけど、今回は畑起こしからやるということで、儀礼もそうですし、我々こういう畑起こしとかですね、普段なかなかやる機会がないので非常に貴重な体験が出来たかなと思います。去年ちょっと大きな出水がありましたけど、今年は出水もなくですね、秋に立派な収穫が出来るとこを期待をしたいと思います。どうも今日は、ありがとうございました。
- 今日は、初めて参加させていただきました。畑起こしもなかなかすることがない体験でですね、無事に秋に育ってくれればいいなと思っております。今日は、どうもありがとうございました。
- 昨年から川洲畑いろいろ体験させていただいてまして、今年も紫雲古津の方からもやってきて、だいぶ板について来たのか、ちょっと農具の使い方が上手くなったねと褒められて、ちょっと嬉しく思っております。やっぱり、みなさんおっしゃってますけど、収穫するまでが一連の作業だと思ってますので、これから収穫に向けてまた頑張りたいと思いますので、これからもよろしくお願い致します。
- 今年から初めての参加となりました。今までの人生で畑仕事などの経験が全くなく、とても新鮮な体験となりました。秋の収穫祭の時にもまた来てお手伝いをしたいと思います。今日は、ありがとうございました。
- 去年、収穫は参加させていただいたんですけど、今日の畑起こしから種蒔き、初めての参加でして久しぶりに鍬を持ってですね、凄いいい汗をかいたかなと思っております。秋にまた収穫がありますんでその時は、張り切って参加しようと思います。

出典　①=〈ＩＣ20090428＝鍋沢保さん聞き取り調査〉
②=〈ＩＣ20170919-001 紫雲古津試験畑収穫体験および儀礼体験〉
③=〈ＩＣ20170529-001 豊糠試験畑作業開始前の儀礼及び播種体験〉
④=〈ＩＣ20170915-001 豊糠試験畑収穫体験〉

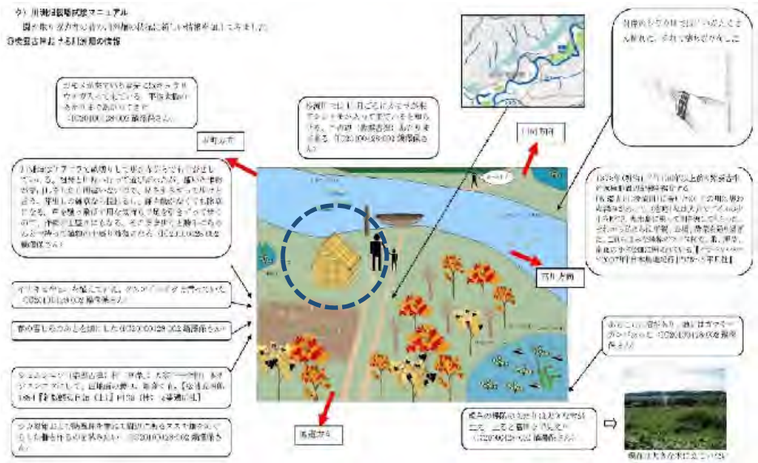
ウ）生活文化に関する聴き取り調査

今年度（H29 年度）は、川洲畑体験者の方々との畑作業（播種時や収穫時）の際にお聞きした新たな情報を整理しました。

※〔　〕は調査員の質問事項

●鍋澤　保さん

これまでの情報を図化したイメージ図
【2010（平成 22）年度の『アイヌ文化環境保全対策事業調査報告書』より】



これまでの小屋の大きさや外観に関する聴き取り内容

今行ったら昔の面影がないけども、その場所は分かるし。二風谷の博物館の前にクチャチセ（補：狩小屋）ってあるべ。まあそれよりはもっちょっと大きいけども、そうゆう様な状況でね、クチャチセみたいな所（確：高床のプ（補：足高倉）を下したようなもの）でな、祖母がいてよ。すぐ近くで。〈①=Ｐ３〉

平取町立二風谷アイヌ文化博物館敷地内のプ（足高倉）

お婆さんが沙流川で渡し守をしながら、川原で畑を作っていた場所付近の小屋の大きさや外観・中の様子に関してや食文化に関する新たなお話を聞くことが出来ました。今年度の追加情報は出典②より抜き出し作業を行いました。

今年度の小屋に関する聴き取り内容

それこそ本当に風どうにかしのぐだけの、ばらっくのチセ（家）だから。〈②=Ｐ９〉

収穫したヒエとかイナキビの藁小さく束にしてよ、その隙間隙間に使ったんだ。〈②=Ｐ９〉

人見えるぐらいの本当の最初の目的は、風とか何か防げればいいだけの目的。〈②=Ｐ９〉

こんな収穫の･･･今はぶん投げてるんだよ。こんな小さな束作って。干したやつもね、隙間隙間に挟めて使ったっちゅうもんだ。無駄なものひとっつもないのよ。〈②=Ｐ９～10〉

今年度の小屋に関する聴き取り内容

〔大きさで言えば何m何mぐらいのですか？〕２メーター（補：m）四方か。３メーター（補：m）までいったかな？３m未満の、このシートいっぱいにならんわ。〈②=Ｐ10〉

したから、こんなのさ、立ち上げたって低いしょ？人間の頭ぶつからなけりゃいい。そんなもんだし。〔吉原室長：それでも立っていられるぐらいの高さあったんですか？〕うん。だからやっぱりね、低いからさ、風にもつぶされるっちゅう事もないのよ。〈②=Ｐ10～11〉

〔日陰になって雨風避けて、ちょっと川洲畑の収穫、干すとか。〕うん。それで言えば、バラック状態だから、あまり、目が粗く開いてたっちゅうとこ補修に。〈②=Ｐ11〉

床の敷物は。まさか、板張りでもなんでもそこらの、今言った、イナキビの殻であったり。それから、トマ（ござ）編む時の。ガマの半端みたいなやつ。〈②=Ｐ11～12〉

〔婆ちゃんと二人いたらちょうどいい■。〕二人では、もうゴロゴロしながら。いられたんだ。〈②=Ｐ15〉

なんぼちょっとの家でもそれ使う時には、サキリ（長い棒：家を建てる時に使う材料）も使うよ。〈②=Ｐ15〉

〔あのチセ作る時のやり方を？〕うん、やり方同じだ。〈②=Ｐ16〉

本当は、秋になって、大きな霜でね、葉っぱを落ちるんでなく、一度か二度の霜で。要は、ヨシの葉がしなっと柔らかくなればいいの。折ってしまわんで。量も稼げるし、今言ったバラックであっても。気密性いいっしょ。竹ばっかりになると、風はボンボン通すけど、葉があるためにね。10 月の末か。〈②=Ｐ17～18〉

〔その辺り（補：現在の試験畑の周辺で）、使えそうなのありますか？〕うん、当分使えるのは使える。〔そんなにきれいに揃ってなくてもね〕うん。〈②=Ｐ18～19〉

このビニールシートに満たないだけの小さな三角の小屋を作りました。〈②=Ｐ26〉

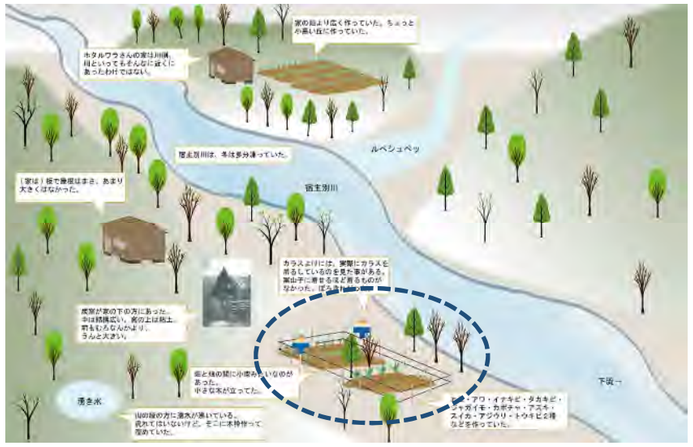
それで作っててですね、今二風谷のポロチセ（大きい家）なんて、民族のチセ（家）がありますが、大量に使うせいもあろうかと、知りませんが、本当は私たちの基本はですね、今の青い時はダメですよ、腐食してしまうから。だけど２～３度霜当たって、この枝っ葉が枯れた時期が最高の時期なんです。それと、使う原材料の使用量も三分の一ぐらい軽減されて、なおかつ中身は濃いものになる。それでやって。で、先程みなさんにご苦労かけたんだけど、ヒエとかイナキビを収穫します。実はもちろんいただく訳なんですが、その殻はちゅうと、さっき彼女が小さな小束を作っていました。あの小束をですね、その小屋の隙間隙間の風を覆いに更に利用します。ですから、穂でいただけるものはいただく、殻は殻とて風除けのために一つも無駄にしていません。〈②=Ｐ26〉

今年度の食文化に関する聴き取り内容

〔それでペカンペ（ヒシの実）そのものとか、なんか作った物をカムイノミ（神への祈り）の時に供えるみたいな事ありましたか？〕それまではいってない。〔ご飯に混ぜるんですか？やっぱり。〕いや団子にしたり。〈②=Ｐ13～14〉

●貝澤ユリ子さん

これまでの情報を図化したイメージ図
【2011（平成 23）年度の『アイヌ文化環境保全対策事業調査報告書』より】



ご両親が炭焼きを行いながら宿主別川の川原で畑を作っていた際に行っていた土の起こし方や蒔き方についてお話を聞くことが出来ました。今年度の追加情報は出典③④より抜き出し作業を行いました。

〔畝も立ち上げたりしてたんですかね〕畝って、削り蒔き･･･。
〔削って切るだけ〕うん。起こすんじゃなくこう削って･･･。だから、こう･･･こんもりする所あるの。こっちからとこっちからとこう削るから。寄せるでしょ？こやって（補：鍬で土を）耕してなかったような気がします。〈③=Ｐ23～24〉

〔そしたら、盛り上がってる所に蒔くんですか？〕盛り上がってない所にこう２列、２列蒔く。
〔２列も。〕うん。削った所にこう２列ずつ蒔く。〈③=Ｐ24〉

〔その幅どれくらいでした？〕あんまりね、はっきり･･･２列蒔くんですから、まぁこんくらいはあったです、この端っこ。蒔いたこっちがこう、寄せてあるからこんもりして。〈③=Ｐ25〉

また次の蒔いたら。〔今と同じぐらいの幅？〕はいはい。
〔その間に列を作る？〕はいはい。〈③=Ｐ25〉

〔ここの削ったところに蒔くの？〕その（補：削ったところの）端っこね。両端。それで、この真ん中、山なるしょ？その端々。〈④=Ｐ13～14〉

この山なったとこがね、凄い草出るのね。削ったとこは、そうでもなくて。〔じゃあ、まめにここ（補：削って山になった所）は草取りはして〕そうそうそう。よくツユクサとか凄かった記憶がある。〈④=Ｐ14〉

〔ずっと草引っ張ってっちゃうの？削った所は〕こう寄せるから。〈④=Ｐ15〉

〔植える所、草ある所交互にみたいで同じような幅なんだって〕うん。
〔その草は刈らないの？〕取る。この削った山とこの削られたとこの幅がだいたい似たようなもんだった。〈④=Ｐ16〉

エ）食文化試行レシピの更新と見方

今年度までに試行したメニューについて、レシピ（調理方法）を作成しました。

試行する際は、これまでの聴き取り調査や文献の情報での昔の方々の知恵や工夫されていた伝統的な食文化を再現するとともに、今日風な料理へのアレンジも多様に試行しました。

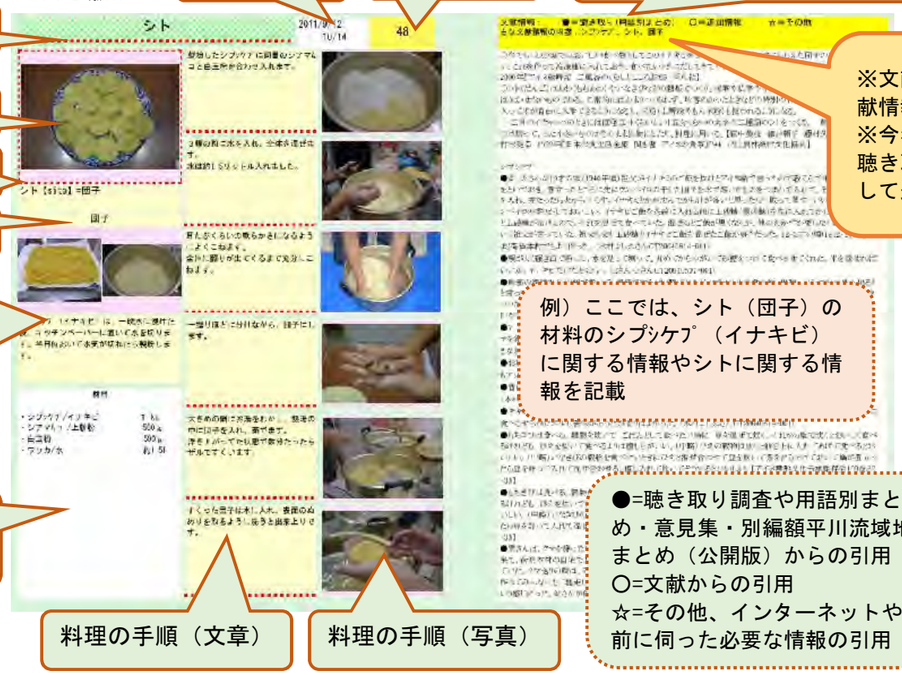
今後も地域やたくさんの方々に活用してもらえるよう、表紙や目次を作成し、聴き取り・文献情報入りのＡ３版と配布資料用のＡ４版を「食文化試行レシピ」としてとりまとめました。

◎食文化試行レシピの表紙と目次

今年度は、試行した 29 種類のレシピを更新、130 ページのレシピ集になりました。（更新したレシピは、Ｐ22、23、24 の★印）関連資料-⑤を参照してください。

◎食文化試行レシピの見方

≪Ａ３版≫



料理名

料理写真

アイヌ語訳

料理名和訳

使用した材料の下処理や特記事項など

使用した材料の分量

試行日

ページ番号

使用した材料や調理方法に関する聴き取りや文献からの情報

※文献情報の凡例の欄に「主な文献情報の内容」を追加しました。
※今年度は、用語別まとめからの聴き取り情報・文献情報を見直しして追加しました。

例）ここでは、シト（団子）の材料のシプシケプ（イナキビ）に関する情報やシトに関する情報を記載

●=聴き取り調査や用語別まとめ・意見集・別編額平川流域地名まとめ（公開版）からの引用
〇=文献からの引用
☆=その他、インターネットや事前に伺った必要な情報の引用

料理の手順（文章）

料理の手順（写真）

≪Ａ４版≫

実際に調理等を行う際に、手元に置きやすいようＡ４版で印刷し、使用できるように編集しました。

配布資料としても活用出来るようにＡ４版で編集しています。

ウ）食文化試行で使用する食材の確保

今年度も試行を行うために食材の確保として山菜や果実等の採取および二風谷地区の育苗畑２で雑穀畑を設営し、作物の栽培を行いました。

①今年度、採取した山菜・果実、保存処理した食材等

採取した山菜や果実等、その他保存処理を行った食材について一覧に整理しました。保存するための下処理についてはこれまで取りまとめた「山菜の保管・貯蔵の手順」を参考に行いました。

●採取した山菜・果実等一覧

月	日	採取した山菜・果実等	保存処理等
4	25	プクサ（ギョウジャニンニク）採取	生のまま冷凍保存（520ｇ） ４/25
	26	プクサ採取	生のまま冷凍保存（4.8kg） ４/26
5	8	ｿﾛﾏ（クサソテツ）採取	乾燥保存（250g） ５/17 保存
	9	ｿﾛﾏ（ヤチゼンマイ）採取	茹でてから乾燥（60g） ５/17 保存
	10	ｿﾛﾏ（クサソテツ）採取	茹でてからキムチ漬けで冷凍（３kg） ５/12 保存
		ｱﾕｼﾆ（タラノキ）たらの芽採取	天ぷらにして冷凍保存５/11、たまり漬けで保存５/12
		ﾌﾟｸｻｷﾅ（ニリンソウ）採取	茹でてから冷凍（790g） ５/10 保存
		ミチパ（ミツバ）採取	茹でてから冷凍（ジップロック小１袋） ５/12 保存
		プクサ採取	生のままキムチ漬けで冷凍（ジップロック大１） ５/11 保存
	12	プクサキナ採取	茹でてから冷凍（ジップロック小 11 袋：6.55kg） ５/13 保存
		（ー）葉ワサビ採取	茹でてから葉と茎に分けて冷凍（ジップロック小１袋ずつ） ５/12 保存
		ミチパ（ミツバ）採取	茹でてから冷凍（ジップロック小１袋：470g）
		（ー）モミジガサ採取	茹でてからキムチ漬けで冷凍（ジップロック大１袋） ５/13 保存
			茹でてからめんみ漬けで冷凍（ジップロック大１袋） ５/13 保存
	24	ｺﾛｺﾆ（アキタブキ）採取	茹でてから塩漬け（樽に少し） ５/25
6	20	ｺﾛｺﾆ（アキタブキ）採取	茹でてから塩漬け（１樽分） ６/20→水投げ・塩漬け６/21
			茹でてから塩漬け（１樽分） ６/21
11	13	シケレペ（キハダの実）採取	枝から実を外して乾燥　11/29 保存
	14	シケレペ採取	枝から実を外して乾燥（580g） １/10 保存
	15	シケレペ採取	枝から実を外して乾燥（13 日と合わせて 15.4kg）11/29 保存
	20	シケレペ採取	枝から実を外して乾燥（2.55kg）12/18 保存

プクサ採取

プクサキナ採取

ｺﾛｺﾆ採取

シケレペ採取

●保存処理した食材等

月	日	保存処理した食材
4	10	レタッタッニ（シラカバ）樹液採取
	13	ペネエモ皮むき（水交換）
	↓	（水交換）
	21	ペネエモ団子づくりと乾燥
	↓	（乾燥）
5	12	カエデ樹液煮詰め
	15	レタッタッニ（シラカバ）樹液煮詰め
10	6	サッカボチャ（干しかぼちゃ）づくり
	↓	（乾燥）
	17	サッカボチャ保存

レタッタッニ樹液採取

ペネエモ団子づくり

サッカボチャづくり

カエデ樹液煮詰め

山菜の保管・貯蔵の手順

■山菜の保管・貯蔵の手順にとりまとめている山菜等■

ｺﾛｺﾆ（アキタブキ）
ｿﾛﾏ（クサソテツ）
ｿﾛﾏ（ヤマドリゼンマイ）
チマキナ（ウド）
プクサ（ギョウジャニンニク）
ﾌﾟｸｻｷﾅ（ニリンソウ）
ペロカルｼ（シイタケ）
ミチパ（ミツバ）
（ー）モミジガサ
ワラﾑビ（ワラビ）
ﾄｩﾚﾌﾟ（オオウバユリ）
オントゥレﾌﾟ（発酵するオオウバユリ）
ペカンペ（ヒシ）
エフルペシキナ（コタニワタリ）

保存している山菜・食材については種類ごとに整理して保存年月日、保存状態、保存量、保管場所を記録しています。

使用する場合は、使用年月日、使用方法、使用量とその残量を記録しています。

■現在保管している山菜・果実等■

プクサ、プクサキナ、ｺﾛｺﾆ、ｿﾛﾏ（クサソテツ、ヤチゼンマイ）、ワラﾑビ、エフルペシキナ、シケレペ
トゥレﾌﾟ（オントゥレﾌﾟ、澱粉）、（ー）モミジガサ、エシケリﾑリﾑ（カタクリ澱粉）、チマキナ（ウド）
アハ（ヤブマメ）、ヤﾑニ（クリの実）、エマウリ（イチゴ類）、アユシニ（たらの芽）

4

文化景観の保全対策に関する調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

■調査の成果 【１】
Ａ．文化景観に関する地形・事物・事象に関わる保全対策の検討状況 【１】

Ｂ. パンフレットの構成と活用 【２】

Ｃ. ブックレット（冊子）の構成と活用 【３】

Ｄ. アイヌ語地名体験プログラムの実施 【６】
ア）体験プログラムの内容 【６】
イ）当日の配布資料 【６】
ウ）実施箇所と実施内容の概要 【７】
エ）体験後の意見・感想 【８】

Ｅ. 今後の課題 【９】
ア）パンフレット、ブックレットの活用の検討 【９】
イ）アイヌ語地名のデータベースの構成の検討 【10】
ウ）文化景観の保全対策に関する取り組みでの課題 【11】

■関連資料（電子データ版のみに所収）
〇アイヌ語地名体験プログラムでの配布資料 【関連資料－①】
〇アイヌ語地名にふれてみようパンフレット 【関連資料－②】
〇額平川流域のアイヌ語地名ブックレット（冊子） 【関連資料－③】
〇アイヌ語地名データベース額平川流域編：2016 年度版 【関連資料－④】

A．文化景観に関する地形・事物・事象に関わる保全対策の検討状況

文化景観に関する地形・事物・事象に関わる保全対策について、これまで平取ダム地域文化保全対策検討会で確認されてきた検討状況ならびに、これまでの調査状況について、今年度の文化景観の保全対策に関する調査を行う上で再確認しました。

【第７回地域文化保全対策検討会　資料－８】より

（１）保全対策の基本的考え方

平取ダム事業用地周辺におけるアイヌの伝統文化に関わる文化景観としての地形・事物・事象の保全対策について、具体的な保全対策を整理するにあたり、以下のようなことに留意することが必要と考えられる。

○ 文化景観としての地形・事物・事象に関わる対象は、「アイヌ文化環境保全対策調査総括報告書」に記載されている該当分野を基本とする。

○ 地形からくる景観やその場所の特性をカムイ（神）と結びつけてとらえることが、アイヌ民族の古くからの自然観としてあることから、景観や地形・地名等を地域文化保全の対象としてとらえることとする。

○ なかでもアイヌ語地名は、土地・空間に関する貴重な情報を含むことから、地形及びその周囲の自然環境と結びついた文化事象とみなされ、さらに地域とアイヌ民族との歴史的な関わりを現代に伝える歴史遺産でもあることから、次世代に継承していく取り組みを行っていく。例えば、現地におけるアイヌ語地名の表示解説設備や沙流川流域アイヌ語地名データベースの構築・公開などの方法が考えられる。

○ また、川自体が神性を有する生き物のように考えていたアイヌ民族伝統の精神性に留意して、道路面からの景観だけでなく、川面からの視線に関しても景観上の配慮をすることが望ましい。

○ そのほか、人工物のデザインについてはできるだけ自然景観との親和性に留意し、ダム湖周辺の森林植生については、美しく豊かな景観形成に配慮していくことが必要である。

（２）保全対策案の内容

■アイヌ語地名

○現地におけるアイヌ語地名の標示解説の設備や沙流川流域アイヌ語地名データベースの構築・公開などを行い、次世代に継承していく。

○手近なところでは、額平川流域のアイヌ語地名など、平取町内の地域毎にアイヌ語地名を紹介する印刷物等を作成し、普及啓発を図るところから実践していくことが望ましいと考えられる。

○例えば、アイヌ語地名マップを持って、沙流川流域のバス探検ツアーを行う。

○アイヌ語地名の紹介のほか、アイヌ文化に関わりの深い動物が登場する口承文芸の発表なども織り交ぜたプログラムを実施する。

＜アイヌ語地名に関する印刷物イメージ実例紹介（平取町調査班）＞

アイヌ語地名のデータベースを活かして、地元ならびに来訪する一般の人々を対象にアイヌ語地名ならびにアイヌ文化を周知していくことを目的として、わかりやすい説明資料の作成を目指す。

＜アイヌ語地名を訪ねる現地説明会の事例紹介＞

「平取町重要文化的景観現地説明会～冬季編～」（平取町主催）
2008 年 1 月 19 日（土）13：30～16：30
アイヌ語地名の景勝地等をバスで訪ねて、現地で有識者から説明を聞いた。

オキクルミのチャシ跡付近で説明を聞く

ウカエロシキの前で説明を聞く

オプシヌプリの説明看板

■これまでのアイヌ語地名に関する調査や関わる分野での調査状況■
2006（Ｈ18）年度　アイヌ語地名踏査―額平川流域 204 か所のアイヌ語地名踏査―　（現地調査）
2007（Ｈ19）年度　アイヌ語地名保全対策実践　（現地調査・データベース作成）
2008（Ｈ20）年度　地域文化保全対策調査　（冊子/ブックレット作成）
2009（Ｈ21）年度　地域文化保全対策普及調査　（冊子/ブックレット作成・試行、データベース=試行）
2010（Ｈ22）年度～2015（Ｈ27）年度　地域文化保全対策調査　（プログラム試行・実施）
2018（Ｈ28）年度　文化景観の保全対策に関する調査（冊子/ブックレット更新・パンフレット作成・データベース更新）

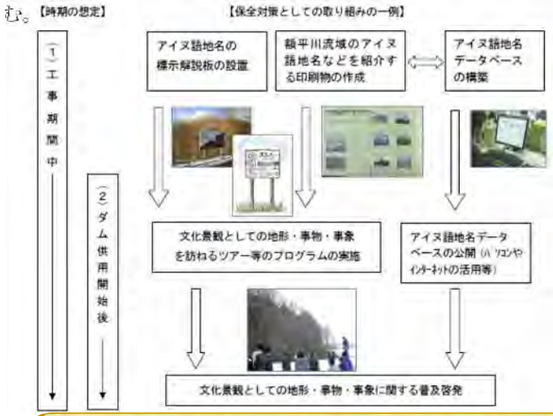
（４）文化景観としての地形・事物・事象に係る保全対策取り組みイメージの例

◆実施時期と実施方法の想定

○工事期間中(1)に保全対策が段階的に進展していくものと、工事期間中の準備的期間を経て、ダム供用開始後(2)に継続的に取り組みが行われていくものが考えられる。

○工事期間中は、ダム事業者による調査活動を基本に、アイヌ語地名等の額平川流域を中心とした沙流川流域の文化景観としての地形・事物・事象に関する情報収集と整理・とりまとめをもとに、順次、印刷物の制作やデータベースの公開を行うとともに、標示板等を設置して、体験プログラムに役立てる。

○工事期間中ならびにダム供用開始後は、普及啓発資料の作成や体験プログラム等の実施において、アイヌ文化の担い手の参画を得ながら、文化景観としての地形・事物・事象の普及啓発を通じた保全に取り組む。



【第 17 回地域文化保全対策検討会　資料－２】より

（３）文化景観に関する地形・事物・事象に係る保全対策についての実施イメージ案

記録による保全

・報告書への掲載
・アイヌ語地名データベースの構築

報告書への掲載

アイヌ語地名データベースの構築

行為による保全

・アイヌ語地名データベースの公開
・額平川流域のアイヌ語地名などを紹介する印刷物
・額平川流域のアイヌ地名などを紹介する映像資料の作成
・文化景観を訪ねるツアー等のプログラムの作成
・文化景観を訪ねるツアー等のプログラムの実施

アイヌ語地名の冊子

アイヌ語地名の名勝地の解説付き見学ツアー

場による保全

・アイヌ語による河川名の表示看板の設置
・アイヌ語地名の表示解説版の設置

現存のアイヌ語地の標示解説板

河川名の標示看板イメージ

B．パンフレットの構成と活用

アイヌ語地名について興味や関心をもってもらうとともにブックレットの活用を意識して昨年度（H28）作成したパンフレットを今年度（H29 年度）は、主に一般の方々に配布しました。ここでは、作成したパンフレットの内容と見方について解説し、今年度の活用状況について整理しました。

Ａ３サイズ表面（点線で山折りしてＡ４サイズで使用）左側：表、右側：裏になります

タイトルのアイヌ語については、平取町教育員会平取町立アイヌ文化博物館勤務の関根さんにアドバイスをいただきました。

パンフレットのタイトル

■アイヌ語地名とは
ここでは既存の文献を参考にアイヌ語地名について、地図を引用しながら分かりやすく紹介しています。

■身近にあるアイヌ語地名
ここではアイヌ語地名が由来となっている地名が身近にあることを知ってもらうために「別」「内」「平」を例に地名の紹介しています。

■額平川流域のアイヌ語地名について
ここでは、額平川流域にはアイヌ語が由来となっている地名が 200 か所以上あるということを紹介し、ブックレットに注目してもらえるように内容を記載しています。

◇アイヌ語地名に関する関連情報◇
ここでは、アイヌ語地名に興味や関心をもってもらえるよう「北海道遺産」や「名勝：ピリカノカ（美しい・形）」にアイヌ語地名やその場所が選定されていることを紹介しています。

【参考文献】
パンフレットを作る際に参考にした文献を記載しています。

A3サイズ裏面（山折りした中面）

■額平川流域のアイヌ語地名にふれてみよう
ここでは、額平川流域のアイヌ語地名に興味や関心をもってもらえるよう、また、ブックレットに注目してもらうことを意識して、これまでの調査で記録した写真を活用して、現地に行ってみたくなるような写真を記載しています。

◆今年度の配布状況◆

アイヌ文化情報センターでの設置

平取地域イオル再生事業１号チセでの設置

使用状況（合計 234 部）	
アイヌ文化情報センター	その他
５月　（40 部）	
６月　（30 部）	
７月　（20 部）	
８月　（20 部）	１号チセ　（50 部）
９月　（20 部）	
10 月　（20 部）	
12 月　（10 部）	
１月　（10 部）	
３月	現地見学　（14 部）

D. アイヌ語地名体験プログラムの実施

今年度は、パンフレット、ブックレット（冊子）を活用して額平川流域のアイヌ語地名を巡る約２時間の体験プログラムを２-３動物の保全対策に関する調査と合同で試行しました。試行したプログラムの内容とともに活用した資料、体験内容の概要を以下に整理しました。また、参加していただいた方々から収集した意見や感想も今後の参考となるよう整理しています。

ア）体験プログラムの内容

額平川流域のアイヌ語地名・伝説・伝承のスポットめぐりと動物にかかわる口承文芸

実施予定日：平成 30 年３月 12 日（月）　　※予備日は 14 日（水）の同じ時間帯
作業予定時間：９：30～11：30（小雪決行）
参加者：10～15 名程度
［沙流川ダム建設事業所］５名
［アイヌ施策推進課］　２名　　［ノーザンクロス］　２名
［対策室］４分野、２-３分野（５名）

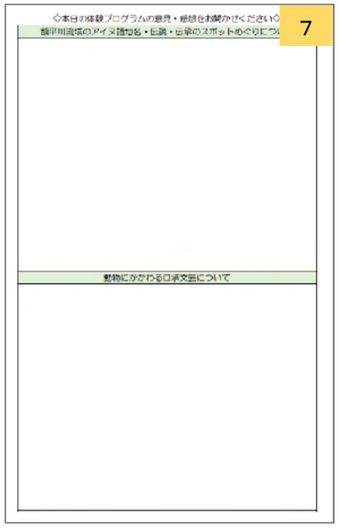
時　間	実施内容	視点場
９：30	アイヌ文化情報センター付近の駐車場で集合、出発	
（15 分）	移動（アイヌ文化情報センター～荷負最終処分場）	
９：45～ 10：05	ムイノカ（箕の形像）、オキクルミチャシ（オキクルミの城址）現地見学 動物にかかわる口承文芸（車中：音声あり）　（※意見・感想）	①
（10 分）	移動（荷負最終処分場～荷負本村神社付近）	
10：15～ 10：30	ポロシリ（幌尻岳）方向車中見学 動物にかかわる口承文芸　（※意見・感想）	②
（５分）	移動（荷負本村神社付近～エサンピラ手前）	
10：35～ 10：40	エサンピラ車中見学 動物にかかわる口承文芸	③
（10 分）	移動（エサンピラ手前～上貫気別旭更生線入口で方向転換）	
10：50～ 11：00	ペンケチトゥカンピラ、トゥラシチャシ現地見学	④
（30 分）	移動（上貫気別付近～貫気別支所：トイレ休憩） （貫気別支所～アイヌ文化情報センター付近の駐車場） （※意見・感想）	
11：30	アイヌ文化情報センター付近の駐車場に到着・解散	

【備考】
※防寒着・防寒用具・飲み物等は、各自ご準備ください。
※当日は、ＩＣ、カメラでの記録を行いますのでご理解ください。
※当日、天候等により実施できない場合のみ、ご連絡を致します。
※当日、天候等により実施できない場合は、予備日にて同じ時間帯で行います。

イ）当日の配布資料（活用した資料については、関連資料-に収めています）

◆当日の配布資料◆

1. プログラム（左枠参照）
2. 額平川流域のアイヌ語地名ブックレット（冊子）
3. アイヌ語地名にふれてみようパンフレット
4. 見学地と移動ルート図
5. 調査業務紹介リーフレット
6. ②④から見るアイヌ語地名箇所
7. 体験プログラムの意見・感想用紙
8. オキクルミ　ト゛レシヒ（大空に描いたコタン）
9. 子どもと遊んだ神
10. オキクルミのぼうけん



動物にかかわる口承文芸で当日配布した資料（８、９、10）については、２-３動物の保全対策に関する調査を参照してください。

ウ）実施箇所と実施内容の概要

エ）体験後の意見・感想の収集

①ムイノカ（箕の形像）、オキクルミチャシ（オキクルミの城址）現地見学後の意見・感想	試行後の意見・感想（用紙に記入分）
・多分、今（補：冬）だと見やすいが、木が生い茂っている夏の時はどうやって場所を示すのか。もしかしたら夏は、場所を示すものが無いと分からないような気がする。 ・説明の仕方としてオキクルミのチャシを先にやった方が伝承とつながっていくと思う。ブックレットの６ページの話を 10 ページを見ながらしていたので、今どこを読んでいるのかなと思った。まずはオキクルミの話をして、オキクルミチャシの話をして、伝承としてムイノカに移った方がいい。先にオキクルミの話の方が分かりやすいかなと思った。	・視点場での説明はとてもわかりやすかったです。対策室の皆さんが熱心に調査しまとめておられるのが良くわかりました。すごいなと思いました。「額平川流域のアイヌ語地名」ブックレットもわかりやすく作られていました。今後のツアーでの活用をさせていただきたいと思います。可能でしたら、ブックレットの掲載の順番を道順になっているともっとわかりやすくなるのかなと思いました。その際は最後の方でカテゴリ（川や山、チャシなど）に分けた一覧表になっていれば良いのかなと勝手ながら思いました。個人的には葉が落ちている季節での説明が一番わかってもらえる季節なのかなと思っていますが･･･なかなか（山の形とか）難しいですね。今回はとても有意義な時間をありがとうございました。 ・額平川流域のアイヌ語地名のブックレットについてはＰ２のマップの順に解説が並んでいた方が見やすいと思います。データベースを活用してとのことでしたが、この体験プログラムも保全のためにプログラム化をしてデータベースに含めるのかが、よくわかりませんでした。体験プログラム（ツアー）として行うのならばアイヌ語地名の資料などはプログラムに特化したものがいいのかと思います。四季に応じたプログラムがあるといいかと思います。 ・伝説・伝承地をめぐる機会は無いに等しいと思いますし、「それって何だろう？」と自ら興味を持たなければ訪れません。景観を見ていても何か語りかけてくるわけでもなく、やはり説明があって初めて地名の意味や由来、伝説、伝承が理解できます。私も含め、多くの町民は文化的景観や伝説、伝承地を知らないので、まずは町民が知る機会が大切だと思います。そして、町民のほとんどが平取町にこんな伝説、伝承地があるんだよと、町外の方々あるいは後世に伝えていける様になると良いなと感じます。ですので、これからも調査を頑張って下さい。そして、またこの様な機械が増える事を期待しております。お疲れ様でした。 （全体を通して･･･車内マイクが後ろまで届いていない。下車し外での説明時もマイクが必要。資料が多数に分かれているのでできれば流れに合わせてコンパクト化されていると見やすい。写真、晴れの日の写真が見やすい） ・ペンケチトゥカンピラの伝説・伝承のお話を聞き、はるか昔に実際にそういうことがあったらおもしろいなと思った。ポろしり、タプコプの山をもう少し、近くで見たかった。 ・額平川流域のアイヌ語地名・伝説・伝承のスポットめぐりについて、前段で何か説明があったほうが理解が早いと感じた。バスで移動しながらなので難しいとは思うが、説明順に一連のストーリーがあるとより良いかと。 ・オキクルミが多く登場するので、「オキクルミとは」をまず説明したほうが良いと思いました。 ・ブックレット１４頁の豆知識を先に説明したほうが、より理解できると思いました。 ・チャシは地名を表すアイヌ語ではないので、「チャシとは」をまず説明したほうが良いと思いました。 ・伝説伝承をからめての説明は、興味深く聞けると思いました。 ・見学箇所②のバス内でも話題になったていたニオイチャシが木で　見えづらいのではないかという件で、貫気別市街に入る手前か、貫気別橋を渡ってすぐのあたりから良く見えました（添付ファイル）。見学箇所の候補地としてはいかがでしょうか。 ・「額平川流域のアイヌ語地名」ブックレットにおいて、P10～13 のチャシの説明の中で、オキクルミチャシ（P10）、ウンチャシ（P11）の分類（丘頂式等）の記載がありませんでした（複合式のため分類できないのでしょうか）。 ・アイヌ文化の事をあまり分からない人に向けて、アイヌの歴史や、色々な物に神様が宿っていると言うアイヌの精神、物語などについてバスの中で事前に解説があると、より伝わりやすいのでは無いかと感じた。 ・ノーザンの方が話してたと思いますが、アイヌ語地名のブックレットは　たくさんの内容が書いてあり、後から振り返って見るのにとても素晴らしい物だと思います。ただ、情報が多すぎてスポットで話している内容よりもブックレットをずっと見てしまうことが考えられるので、ブックレットの他に、回った場所だけの簡単な内容が書いてある用紙があれば、スポットをより分かりやすく見ることが出来るのではないかなと思いました。 ・アイヌの事について知らない町民もいると思われるので、観光客だけではなく、町民の方々にも知ってもらえる機会が増えればいいなと思いました。 ・最初に全道にアイヌ語が由来となっている地名がたくさんあるという掴みが良かったです。その中でも平取(額平川流域？)ではこれだけ多くのアイヌ語由来のスポットがあると解説をつなげると平取の売りにつながるのではないでしょうか。 ・現地でも今回は冬なのでわかりやすいが、夏だと木が生い茂ってわかりづらくなるのではという話題が上がっていました。夏だと見える見えない、秋だと紅葉も合わさって見応えが～など、各季節での見え方を確認し、時季に応じたコース設定をしてはどうでしょうか。 ・町民向けで行う場合は、最初はほぼ分かっていなかったが、対策室の調査で判明したと明確に伝えた方がよいのでは ・口承文芸の情景と保全対策の話を結びつけて解説されたのが良かったです。シンプルなツアーや体験は他でもやられていると思うので、実際に取り組んでいることを交え踏み込んだ話があるとおもしろいと思います。
②ポロシリ（幌尻岳）方向車中見学後の意見・感想	
・先程のオキクルミのチャシで行った所は、文化財課が文化的景観ということで看板を設置していろいろな解説をしている。そのような所は眺望も確保するために木なども伐ったりしている。ここからの眺望が素晴らしいということであれば、何か考えた方がいいとか役場の中でも言ってもらえるといいかと思う。 ・解説する時は、ここ（補：荷負本村の神社より少し下の方）に停まる時もあるが、季節がいい時はだいたい木の葉が生い茂っていて見えない。見える時はポロシリの話はするが、道路の一番下の道道とぶつかる所で停まってニオイチャシとウンチャシの説明をする。あとは走って向こうに（補：芽生方面）向かいながらポロシリの説明とかをする。今回、説明のあったﾀﾌﾟｺﾌﾟについては、あまり調べていないというか、説明はしていない。	
帰りの車中での意見・感想	
・苦労している点としては、バスとかで入れる道のこともあるが景色が緑になってしまうと本当に見えないということでパネルを用意するとか、写真を大きくしたものを見せながらしている。今回のアイヌ語地名で言うとオキクルミカムイの話でシンタに乗って降りて来たという説明があったので、前段にオキクルミカムイはもっと下流の方で降臨して実際に住まわれたみたいな話があって、次にオキクルミのチャシを見たあとに、ペンケチトゥカンピラも見たように、オキクルミカムイに係るような流れがあるとアイヌ語地名とか知らない人にとってもそういう説明が最初にあると分かりやすいのではないかと思った。 ・みなさん感じたと思うが、せっかくオキクルミが住んでいたという土地なのでオキクルミをまず全面に出して、そのあとに地名や伝承があればいいと思う。そのような視点でやると面白いのかなと思う。 ・資料の方は、良くまとめられていて内容としては十分いいと思うが、説明の時ページが飛んでいる時があるので、お客さんは慣れていないので混乱すると思う。今、Ａ４サイズだが、それをＡ５にするとかも考えられる。 あまり詳しく説明するとお客さんは資料ばかりを見て話しを聞いてくれない時もある。ある程度のところで説明は完結に終えて、お客さんが分かりやすくなればいいのかなと思った。使っていいのであれば、これからツアーにも活用したい。 ・何を目的としたガイドなのか分からなくていたが、対策室として調査した内容とか資料を平取町やノーザンのツアーで活用してもらいたいということが分かった。対策室がいろいろ伝承地とか調査しているというのは、分かっていたが、町民がここでは何をしているのかという意見を聞くことが多く、今日のツアーに参加してもっと対策室の方から町民に対して、こういうことをやっているということを発表できる場になるのではないかと思った。町外からはノーザンが連れて来ているが、町民に対してもっと普及・啓発できるような場になれるのではないかと思ったので、こういう機会が増えればいいなというふうに感じた。ノーザンや町もそうだが、もっとその横のつながりが密になっていくといいと感じた。	

５

アイヌ文化の普及方策に関する調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

■調査の成果
Ａ．試行調査 【１】
ア）貫気別小学校での試行 【１】
①今年度の試行に関する経緯のまとめ 【１】
②５・６年生で試行したアイヌ文化学習の内容 【２】
③今年度の振り返りと来年度の試行にむけて 【６】
イ）平取アイヌ協会青年部主催の活動での試行 【７】
ウ）一般の方々を対象としたチセ（家）での試行 【８】
エ）シシリムカアイヌ文化祭での試行 【９】
オ）調査成果を活用したその他の試行 【９】
カ）アイヌ文化環境保全対策事業についての広報・普及の試行 【10】

Ｂ．意向調査 【10】
ア）平取アイヌ協会青年部長への意向調査 【10】

Ｃ.事例調査 【11】
ア）地域で行われたアイヌ文化関連の講座についての事例調査 【11】

Ｄ.今度の試行に向けた取り組みのまとめ 【15】
ア）貫気別小学校で取り組んできた試行のまとめ 【15】
イ）調査成果を活用した各分野での取り組みのまとめ 【17】
ウ）イオル１号チセ内にある展示物の一覧 【20】

Ｅ．今後に向けた課題 【21】
ア）今後に向けた調査業務の広報やアイヌ文化の普及の方策 【21】

■関連資料（電子データ版のみに所収）
○貫気別小学校での試行において使用した資料 【関連資料-①】
○調査業務の紹介リーフレット（日本語版・英語版） 【関連資料-②】
○アイヌの昔の子どもの遊びと利用植物 【関連資料-③】
○シシリムカ文化大学第６回講座で使用した対策室の報告資料 【関連資料-④】

②５・６年生で試行したアイヌ文化学習の内容

今年度（H29 年度）試行したアイヌ文化学習の状況を提示します。

●博物館周辺の見学：５・６年生が、「衣」「食」「住」の３グループに分かれ、二風谷でアイヌ文化学習を行いました。対策室スタッフはそれぞれのグループに付いて解説を行いました。

生徒の質問事項

（生徒が事前の授業の中で、「衣」「食」「住」の各グループに分かれ、二風谷訪問に向けて質問をまとめました）

「衣」グループ

（着るもの）　・模様の種類　・その材料　・アイヌ語の名前　・模様のでき方　・服の作り方　・地域ごとの違い　・装飾品　・普段の時の服装と儀式の服

（道具）　・服を作るための道具　・アイヌ語名前　・儀式の時に使う道具

「食」グループ

（食べ物）　・病気になった時の薬はあったのか　・食べ物の保管の仕方はどうしているのか　・どのような食べ物を食べていたのか

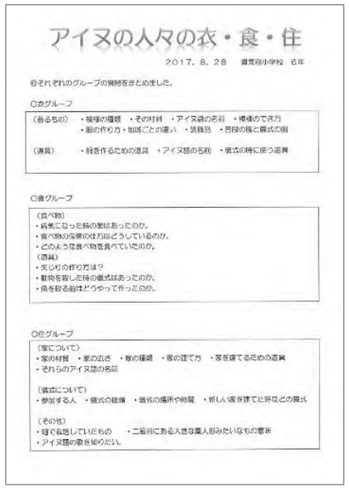
（道具）　・矢じりの作りかた　・動物を殺した時の儀式はあったのか　・魚を取る船はどうやって作ったのか

「住」グループ

（家について）　・家の材質、広さ、種類、建てかた、建てるための道具　・それらのアイヌ語名

（儀式について）　・参加する人　・儀式の種類　・儀式の場所や時間　・新しい家を建てた時などの儀式

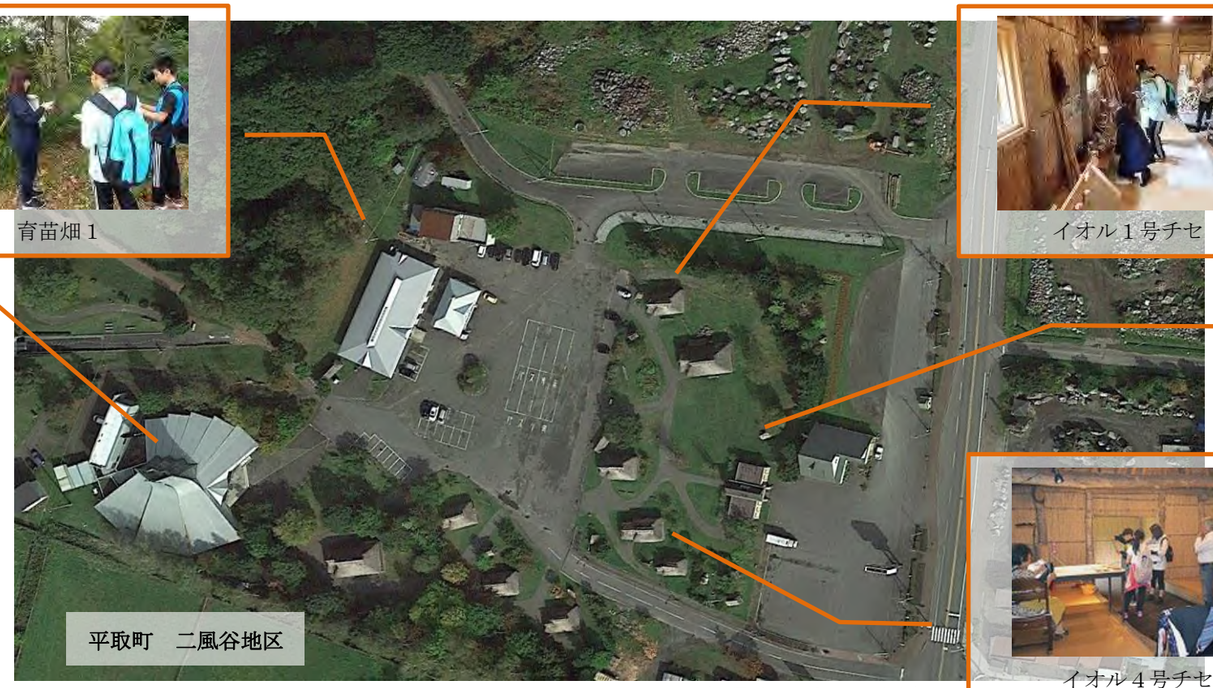
（その他）　・畑で栽培していたもの　・二風谷にある大きな藁人形みたいなものの意味　・アイヌ語の歌を知りたい



8 月 28 日（月）　二風谷でのアイヌ文化学習（主な訪問場所と実施状況の写真）

二風谷アイヌ文化博物館

育苗畑 1



（地図は googlemap より）

イオル 1 号チセ

イオル 4 号チセ

プ（高床倉）

●アイヌ文化学習の授業の協力：貫気別小学校へ出向き、総合学習（アイヌ文化学習）の時間において、対策室スタッフが各グループについて、生徒と一緒に発表に向けて調べ学習を行いました。

実施日時：11 月 17 日（金）６時間目（14：20～15：05）　実施場所：貫気別小学校

「衣」グループ
生徒３名+対策室２名

○　進捗状況の確認

・材料の違う衣服の絵を３枚書き、それについて解説をする。

・クイズを３つ行う。

○　学習協力・アドバイス

・生徒が考えた文様に関するクイズについて、より正確になるように指導。

・アットゥシアミプ（オヒョウの木の皮の着物）、カパリミプ（白布を切り伏せし切抜文様を貼り付けた木綿衣）、アッ（オヒョウの木の皮）の実物を見せ、また実際に着てもらい、肌さわりや重さなどを実感してもらった。

・鮭の皮やチェプケリ（鮭皮靴）の実物を見せながら、鮭皮衣について説明をした。

・文献の図を見せ、また実物のサパンペ（冠）を見せながら、儀礼の時に着る服について、説明をした。

○　主な利用資料

・アットゥシアミプ（調査員私物）

・カパリミプ（調査員私物）

・サパンペ（調査員私物）

・対策室で保管しているアッ

・公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2016『イカラカラ－アイヌの刺繍の世界』公益財団法人アイヌ文化研究推進機構

・Ａ４配布資料－基本のアイヌ文様リスト

「食」グループ
生徒２名+対策室２名

○　進捗状況の確認

・１匹のシペ（シロザケ）の各部位の利用法について解説をする

・クイズを３つ行う（問題は口頭で出題する）。

○　学習協力・アドバイス

・シケレペニ（キハダの木）について、薬として使用する内皮と果実について説明した。

・シペの利用法について、対策室で作成してきた「食文化試行レシピ」や「伝統漁法に関するマニュアル」を基にしながら、実物のシペの皮やチェプケリ（鮭皮靴）を見せて説明した。

・クイズに関して、アイヌ語の間違いを修正した。

○　主な利用資料

・栽培試験マニュアル 2016（特にシケレペニの部分）

・対策室で保存しているシケレペニの内皮・果実

・萱野茂 2002『萱野茂のアイヌ語辞典　増補版』三省堂

・調査報告書 2010-2011 【関連資料４－②】貫気別中学校１年生 P.39（貫気別中学校１年生）

・食文化試行レシピ 2016

・伝統的漁法に関するマニュアル 2016

・対策室で保管しているシペの皮、チェプケリ

「住」グループ
生徒２名+対策室２名

○　進捗状況の確認

・チセの外観と内部、オッカヨルなどの絵を書き、それについて解説をする。

・ノヤイモシカムイ（ヨモギ神）についてのクイズを行う。

○　学習協力・アドバイス

・８月の二風谷での見学の際に、正確にメモできなかったアイヌ語について、アイヌ語の辞書を一緒に確認をしながら、修正を行った。

・チセの柱などの名前とその材料の名前が混在していたので、確認をしながら修正した。

・生徒が書いたアペオイ（炉）とトゥナ（火棚）の絵がそれぞれ別の方向を向いていた。入口から撮った写真と、上窓側から撮った写真を基にして絵を書いたため。図や写真を見せて修正点を教えた。

○　主な利用資料

・萱野茂 1978『アイヌの民具』すずさわ書店

・萱野茂 2002『萱野茂のアイヌ語辞典　増補版』三省堂

・萱野茂 1976『アイヌ民具の復原　チセ・ア・カラ　われら家をつくる』未来社

・対策室で保管しているカヤ（10 本ほど）

・イオル１号チセの内部の写真データ

イ）平取アイヌ協会青年部主催の活動での試行

平取アイヌ協会青年部（以下、青年部）が主催した「ウレㄅレク～風の谷の響～」という活動において、昨年度（H28 年度）に引き続き、今年度（H29 年度）も青年部より「アイヌのこどもの遊び体験」と当日の記録作業の依頼を受け、補佐として参加しました。この青年部の活動は、地域の方々や一般の方々を対象にアイヌ文化の普及として行われているもので、今年度で７年目となります。

青年部から提示された当日の各担当者・タイムテーブル

平成 29 年度　第７回　ウレㄅレク　当日の動きについて（対策室用）

- 日時：平成 28 年６月 25 日（土）10：00 ～ 16：00
- 場所：二風谷生活館
- 対策室出動時間：

・各担当者

平取協会青年部担当者氏名		対策室担当氏名	
遊び責任者（全般）	加藤 拓夫	・山本 雄（ビデオ・カメラ１）	
シノッポンク（遊びの弓矢）	中島　三博	久保　拓史	（カメラ２、全体的に記録）
イコクッタラ（オオイタドリの笛）	中島　亜梨沙	山本　雄	
カリㄗペカㄗ（輪差し）ウコ・カリ・カチュ（けん玉）	加藤 拓夫（青年部として参加）	木村 真奈美	
切り絵	菊池　みづき	藤川　涼子	長野 環（カメラ３）

記録用機材・・ビデオ（三脚・延長コード）
　　カメラ３台（1．新ニコン　　2．オリンパス　　3．オリンパス）

備考１・・・・対策室としては、主に５チームが各アイヌの遊び体験に張り付き、各担当青年部の補佐的な形をとる。

備考２・・・・子供の様子を見て流動的に対応する。記録は互いに協力しながら行う。

・当日全体的なタイムテーブル

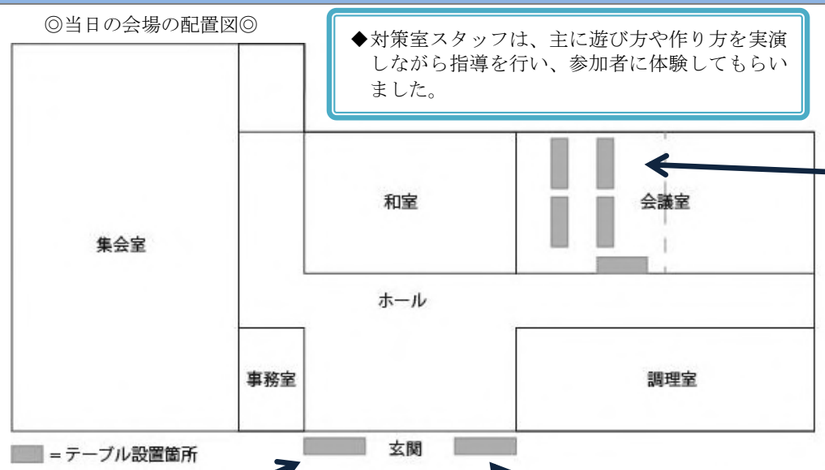
時間	動き	記録
9：50	部員集合・対策室集合	
10：00	会場準備・遊び体験準備	
	遊び体験等準備開始・イタドリ採取・看板設置	
13：00～	アイヌアート到着～宿泊先～リハーサル	
14：00～	アイヌの遊び体験開始（15：50～後片付け）	
15：00～	出店の準備～販売開始	
16：10～	ヒップホップダンス（16：40 まで）	
16：45～	二風谷アイヌ語教室こどもの部（17：15 まで）	
17：20～	平取アイヌ文化保存会舞踊（17：50 まで）	
17：55～	フンベシスターズ（18：25 まで）	
18：35～	アイヌアートプロジェクトＬＩＶＥ（19：05 まで）	
19：05～	交流会及び後片付け準備	
19：55～	意見交換（二風谷生活館）	
21：00	全行程終了	

・ヒップホップダンス：30 名　・アイヌ語教室：16 名　・　平取保存会：21 名
・フンベシスターズ：４名　　・アイヌアートプロジェクト：19 名

アイヌのこどもの遊び体験：会場の様子

青年部が作成した広報用ポスター

◎当日の会場の配置図◎



◆対策室スタッフは、主に遊び方や作り方を実演しながら指導を行い、参加者に体験してもらいました。

【切り絵体験の様子】

【ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び）体験の様子】

【カリㄗペカㄗ（輪差し）・カリㄗ（つる輪）の体験の様子】

【イコクッタラ（オオイタドリ）の笛体験の様子】

的

【シノッポンク（遊びの小弓）体験の様子】

アイヌのこどもの遊びに使用した用具一覧

用具名		数量	準備	配置人数 遊び指導	配置人数 記録	
シノッポンク（遊びの小弓）	ク（弓）	８本	アイヌ文化保全対策室	青年部：１名／対策室：１名	カメラ２台	ビデオ１台
	アイ（矢）	30 本				
	ヤリカヨㄗ（矢筒）	１個				
カリㄗペカㄗ（輪差し）	カリㄗ（つる輪）	20 本		青年部：１名／対策室：１名		
	カリㄗペカㄗ（輪差し）	８本				
ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び）	ウコ・カリ・カチュ	８本				
イコクッタラ（オオイタドリ）の笛	イコクッタラの茎	10 本	前日採取	青年部：１名／対策室：１名		
切り絵	下絵した色付コピー用紙	５種：各 100 枚	平取アイヌ協会青年部	青年部：１名／対策室：１名	カメラ１台	
	はさみ	10 個				
	クリアファイル	100 枚				

当日までの主な準備作業

カリㄗペカㄗの作成

的の作成（シノッポンク用）

ウ）一般の方々を対象としたチセ（家）での試行

昨年度（H28 年度）に引き続き、今年度（H29 年度）も各分野で製作した生活用具や採取した素材等を展示している平取地域イオル再生事業１号チセ（家）を開放して、一般の方々を対象に試行調査を行いました。試行の際には、アイヌの昔の子どもの遊びの体験やチセ内の展示物を見学してもらい、来訪者へ対応しました。

◆主に遊び方や作り方の指導を実践し、体験してもらいながら素材（植物）などを、学んでもらいました。

アイヌの昔の子どもの遊び体験の様子

イコクッタラ（オオイタドリ）の笛

シノッポンク（遊びの小弓）

カリプ（つる輪）・カリプペカプ（輪差し）

ウコ・カリ・カチュ（ケン玉遊び）

◆主に展示物の利用法や使用法を説明しながら素材（植物）などを、学んでもらいました。

展示物の見学の様子

調査員による展示物の解説

今年度、新たに体験できるものを付け加えました

○イユタ（搗き物）体験

イユタニ（杵）、ニス（臼）、シプシケプ（イナキビ）を用意し、イユタ体験をできるようにしました。

○文様描き体験

囲炉裏の灰で文様を書く体験をできるようにしました。

チセ開放日	来場者数（人）				
	午前		午後		計
	大人	子供	大人	子供	
８/10（木）　10:00-11:00, 13:00-15:00	2	1	8	4	15
８/11（金）　９:30-16:00	15	11	11	6	44
８/12（土）　８:30-15:45	14	10	19	14	57
８/14（月）　９:30-15:45	20	10	29	15	74
８/15（火）　９:00-16:00	26	42	32	12	112
８/16（水）　10:30-16:00	9	1	22	14	46
計　６日間	86	75	121	65	347

・二風谷アイヌ文化博物館、沙流川歴史館、情報センターなどにも開放をする旨のポスターの掲示をお願いし、広報に努めました。

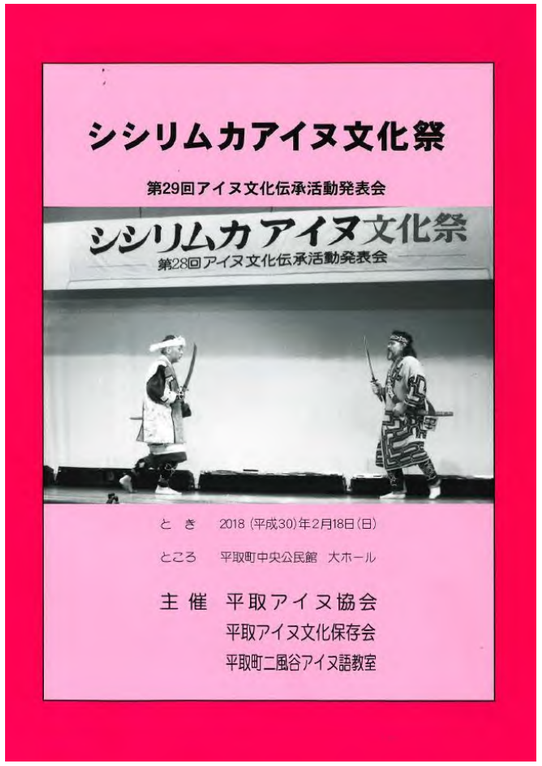
・過去データ：平成 27 年度　計８日間　計 293 人　、　平成 28 年度　計５日間　計 272 人

試行の際に展示・配布した配布資料等
アイヌ文化環境保全対策事業紹介パンフレット
Ａ４プリント　アイヌ語に触れてみよう Ａ４プリント　アイヌ語の名詞・動詞　　二風谷アイヌ文化博物館作成
『アイヌ民族：歴史と現在　－未来を共に生きるために－〈改訂版〉小学生用/中学生用』 （公財）アイヌ文化振興・研究推進機構編集
額平川流域のアイヌ語地名　パンフレット
アイヌ語地名にふれてみよう！　ブックレット
カムイノミ所作パンフレット　（閲覧用）
食文化試行レシピ　（閲覧用）
伝統的漁法に関するマニュアル　（閲覧用）
Ａ４プリント　基本文様　（閲覧用）
Ａ４プリント　アッツシアミプ、マタンプシ（萱野茂『アイヌの民具』より抜粋）（閲覧用）

エ）シシリムカアイヌ文化祭での試行

今年度（H29 年度）、第 29 回シシリムカアイヌ文化祭において、アイヌ文化保全対策室の展示を行い、取り組みについて紹介しました。

シシリムカアイヌ文化祭プログラム



ロビーでの展示配置と展示の様子

準備作業の様子

来場者の見学の様子

対策室のリーフレットを拡大して掲示しました。各分野の写真もキャプション付きで展示し、取り組みについて紹介しました。また今年度、芽生にて執り行われたチセコッエイノンノタイタｹ（地神祭）の写真、そして今年度再現製作した民具を展示しました。

展示物、閲覧・配布資料一覧

展示した再現製作民具		調査業務の紹介リーフレット（Ａ２片面刷り）	表１部　裏１部
イタ（盆）	１個	各分野の写真（計 10 の分野×１枚　Ａ３）	展示用 10 枚
チポﾛﾆナﾌﾟ（筋子つぶし）	１個	民具の再現製作の様子の写真（Ａ４）	展示用４枚
ニマ（抉り鉢）	５個	チセコッエイノンノイタｹ（地神祭）に関する写真（Ａ４）	展示用４枚
マキリ（小刀）	１個	「額平川流域のアイヌ語地名」パンフレット（Ａ４両面刷り）	配布用 100 部
メノコイタ（まな板）	１個	調査業務の紹介リーフレット（Ａ４両面刷り）	配布用 100 部

実施日／場所／テーマ	講師・演題	調査状況・内容	
■シシﾘﾑカ文化大学　第６回講座 ３月４日（日）13:15～17:00 沙流川歴史館（レクチャーホール） テーマ：沙流川における 文化環境保全のこれから	報告： アイヌ文化保全対策室 － アイヌ文化環境保全対策事業について － 自然・社会環境分野の取組の経緯、現状と展望 コメント： 三木　昇 氏 （北ノ森自然伝習所主宰/植物生態学） 地域住民の参画により自らが伝統文化を学び活かす試みとして 岡村　俊邦 氏 （北海道科学大学名誉教授/緑化工学・近自然学） アイヌ文化を重視した「近自然」の可能性をさぐる試みとして 常本　照樹 氏 （北海道大学アイヌ・先住民研究センター/憲法学） 二風谷ダム裁判後の地域活動としての評価と意義をふまえて 吉田　憲司 氏 （国立民族学博物館館長/文化人類学・博物館学） 先住民文化とミュージアムをめぐる世界各地の動向をふまえて	 	アイヌ文化保全対策室からは、15 年間をふりかえり、これまでの経緯と現状、またこれからの展望について各分野ごとに報告が行われた。 （対策室の資料については、関連資料に所収しています） 三木氏からは、アイヌ文化環境保全対策事業が、地元のアイヌの人々が中心となり、アイヌがアイヌのことを学びなおす、という点において、とても意義があるというコメントであった。 岡村氏からのコメントでは、ご自身の経歴や近自然について説明をされた。また、二風谷ダム管理所の国道付近で実践している植樹や、平取ダム管理等予定地付近、そして植物保全地区 S-05 で対策室と協力して行っている防草シートの設置などを紹介された。将来の目指す姿を明確にしながらアイヌ文化を重視した森づくりをしていくことが大切であると話された。 常本氏は、まず保全対策事業の背景にふれた（河川法の改修、二風谷ダム裁判の判決、アイヌ文化振興法の制定）。その上で、この取組は、地域のアイヌ民族が中心となっていることから、文化継承にも多いに役立っていることをあげ、そのような取組は、アイヌ文化復興の平取モデルということができる、とコメントされた。 吉田氏のコメントでは、館長として率いておられる民族学博物館の紹介とご自身の研究フィールドであるアフリカの事例、世界の動向などを紹介された。そうした動向を見てみても、保全対策事業として進められてきたものは、先進的といえるものである、とコメントされた。

6

栽培実験の継続に関する調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

■調査の成果
Ａ．Ｈ29 年度調査計画検討 【１】
ア）Ｈ29 年度調査計画の検討 【１】
イ）栽培試験の育成概念 【３】
ウ）栽培試験地と周辺環境の点検・整備 【４】

Ｂ．移植試験事前準備 【５】
ア）Ｈ29 年度栽培試験状況 【５】

Ｃ．栽培試験地整備作業 【６】
ア）育成を促進させるために行った作業 【６】
イ）各栽培試験地で行った整備作業 【６】
①育苗畑１で行った整備 【６】
②育苗畑２で行った整備 【８】
③Ｓ-05 で行った整備 【８】

Ｄ．有用植物移植試験 【９】
ア）Ｈ29 年度に行った移植栽培試験概要 【９】
①各栽培試験地で行っている試験種 【９】
イ）各栽培試験地における栽培試験 【11】
①育苗畑１での草本移植栽培試験 【11】
②Ｓ-05 での移植栽培試験 【13】
③その他の試験地での栽培試験 【15】
〈ａ〉沙流川流域での有用植物保全に関する栽培試験に関して 【15】
〈ｂ〉有用植物保全に関する栽培試験地Ⅱでの各試験栽培に関して 【16】

Ｅ．木本・草本播種栽培試験 【18】
ア）Ｈ29 年度に行った播種栽培試験概要 【18】
イ）種子の事前確認、採種 【18】

Ｆ．植物栽培マニュアル（案） 【19】
ア）植物栽培マニュアル（案）の更新

Ｇ．モニタリング調査 【20】
ア）モニタリング調査概要 【20】
イ）モニタリング調査 【21】
①苗木・稚樹の成長記録 【21】
②調査結果のまとめ 【23】

Ｈ．Ｈ30 年度以降の課題 【24】

■別添資料：植物栽培マニュアル Ver.2017（試作版）

■関連資料
○Ｈ29 年度植物園パンフレット 【関連資料-①】
○「有用植物」資源量の把握と保全計画策定に向けた作業の考え方と植物資源量の必要算出に関する考え方 【関連資料-②】

C．栽培試験地整備作業

ア）生育を促進させるために行った作業

今年度は、育苗畑１の稚樹への散水や雑草取りなどの生育を促進するための作業を行い、育苗畑２では、苗木間の草取りを行いました。

雑草対策の為に除草を行いました。	生育が２年以上確認出来ないトレーを撤去しました。	雑草対策の為に、苗木間を手で丁寧に草取り作業を行いました。	育苗畑１の苗木を二風谷地区再整備事業に伴い苗木トレーの移動作業を行いました。	二風谷地区再整備事業に伴い、育苗苗の移植作業を行いました。	育成管理として水まき作業を行いました。

イ）各栽培試験地で行った整備作業

①育苗畑１で行った整備

今年度は、平取町が行う二風谷地区再整備計画に伴った整備を主に行いました。ここでは、主に木本の種子試験栽培を行っており、雑草駆除や周辺の自然木からの落種を防ぐ対策を行っています。今まで行っていた草本の展示を目的とした整備といたしましては、展示箇所の草刈りを始め、ゾーンごとに区切っていた草本の中でも枯れてしまった物を保全対象地より採取して移植しました。今後は、育苗畑の土壌整備等を行って、アイヌ文化に必要な有用植物の展示を行っていきたいと思います。

毎年行っている恒例の作業として下記にまとめました。

草刈作業を行いました。	育苗トレー内外の除草を行いました。	雑草対策のための防草シートはり、播種後のトレーに毎日水まきをしました。	プクサ（ギョウジャニンニク）の試験栽培地周辺のクマザサを一本ずつ手刈りしました。

左の図は、二風谷地区再整備事業の整備完成予定（案）です。拡大した図は次頁にまとめましたので、そちらをご覧ください。

二風谷地区再整備事業に伴った整備として下記にまとめました。

二風谷地区整備事業が行われる範囲に育苗していた苗木を移動する為の準備として、展示用育苗畑に防草シートをはり、育苗トレーを移動させました。		

二風谷地区整備事業が行われる範囲に育苗していた苗木を移動する為の準備として、重機で苗木を掘り起こして移動させました。		

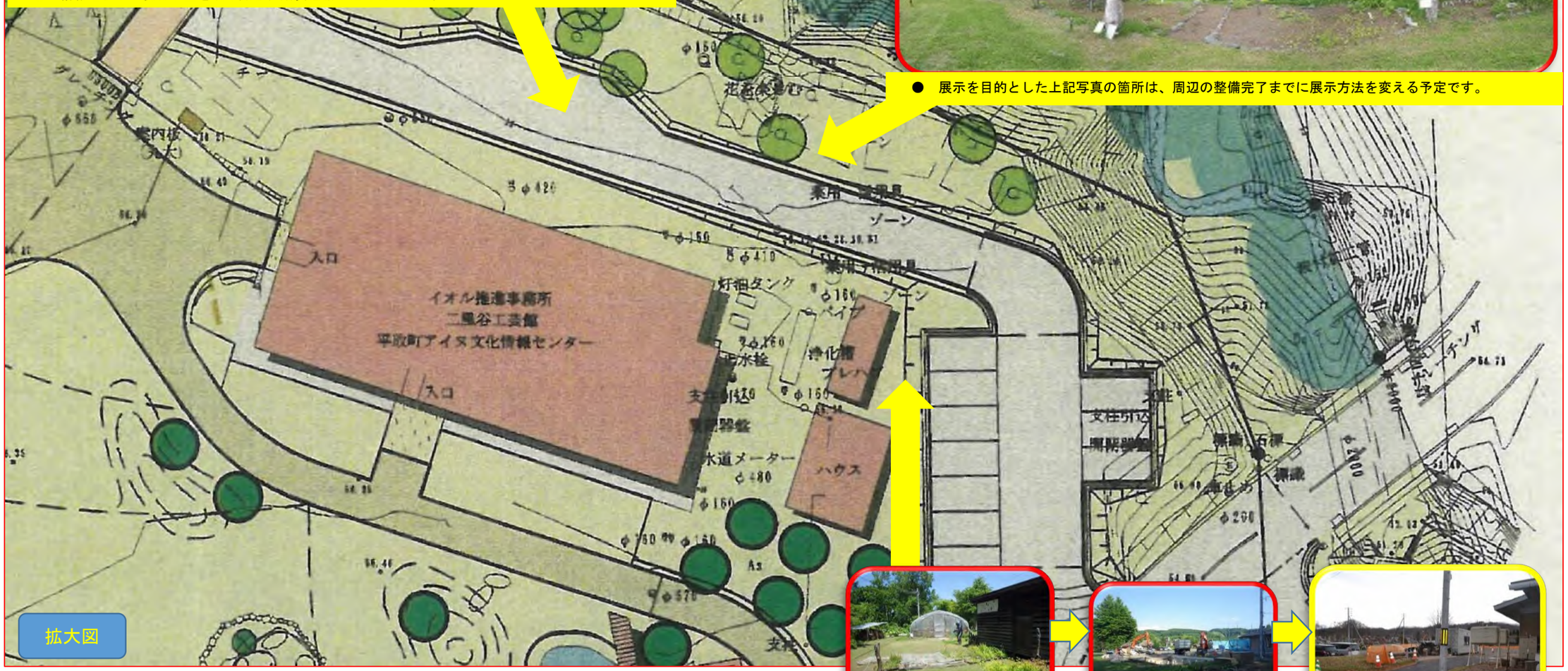
二風谷地区再整備事業に伴う育苗畑１の整備について、下記にまとめました。

二風谷地区再整備完成予定図（案）

二風谷地区再整備事業
育苗畑１の整備として例年行っている展示用草本移植作業、除草作業などは、工事作業の為に殆ど行うことができませんでした。次年度以降保全作業が行えるよう今後検討したいと思います。

● 情報センター裏の芝生を取り除き、舗装道路が造られました。

● 展示を目的とした上記写真の箇所は、周辺の整備完了までに展示方法を変える予定です。



● 情報センター裏の建物は全て撤去され、対策室で利用するプレハブやビニールハウスの場所が確保されました。

イ）各栽培試験地における栽培試験

①育苗畑１での木本移植試験栽培

近年、上段に野外展示している草本の生育が、年々悪くなってきているように見えるので（個体や株が小さくなってきている等）、一度土壌改良も視野にいれ、現在平取町まちづくり課が主体となり進められている「二風谷地区再整備基本計画」に基づき、育苗畑１周辺の整備が終了するまでの間、一部の草本展示を中断し防草シートを被せ、次年度以降、再度草本移植を行う事を目的とした準備作業を進めました。

育苗畑１の様子

◎　昨年までの苗木ポット移植作業工程

トレーにポットを並べます。

ポット一杯に土を入れます。

根を差し込む様に植ます。

移植完了

散水

遮光ネット取り付け

◎　今年度からの苗木ポット移植作業工程

今年度の播種は、岡村俊邦先生の指導の基、下記行程で播種作業を行いました。

■　播種に使用する土造り

- 火山礫･･･３袋
- 腐葉土･･･１袋
- 赤玉･･･１袋
- 中粒の砂利･･･適量
- 水藻･･･小さい種の播種時に利用します。
- 発砲容器

■　土の準備

火山礫３袋に対して、腐葉土１袋、赤玉１袋の割合でかき混ぜます。

■　水藻の準備

水藻は、袋から取り出し、細かく崩しておきます。

＊種の大きさによっては使わない場合もあります。

■　播種の順序

土をトレーの八文目程度の分量で入れます。

種を土の上に置きます。

＊今回の場合、アッニ/オヒョウの播種をばら撒きしました。

種の上に軽く土を乗せます。

土を乗せた上に、砂利を乗せます。

播種作業が終わったら、散水を行います。

ガマ増殖計画に伴って、ポット苗の生育保全を行いました。

ガマのポット苗を提供して頂きました。

日陰に置き、生育環境を整えました。

毎日、水かけを行いました。

S-05 入口付近の池に 70 株を移植しました。

対策室裏のピパウシ沢２か所に 35 株を移植しました。

シキナ/ガマの移植後経過観察調査を行いましたが、水害の為に生息域が崩壊されてしまったので、次年度以降の対策案を検討していきたいと思います。

試験地・・・看々川シキナ栽培試験地

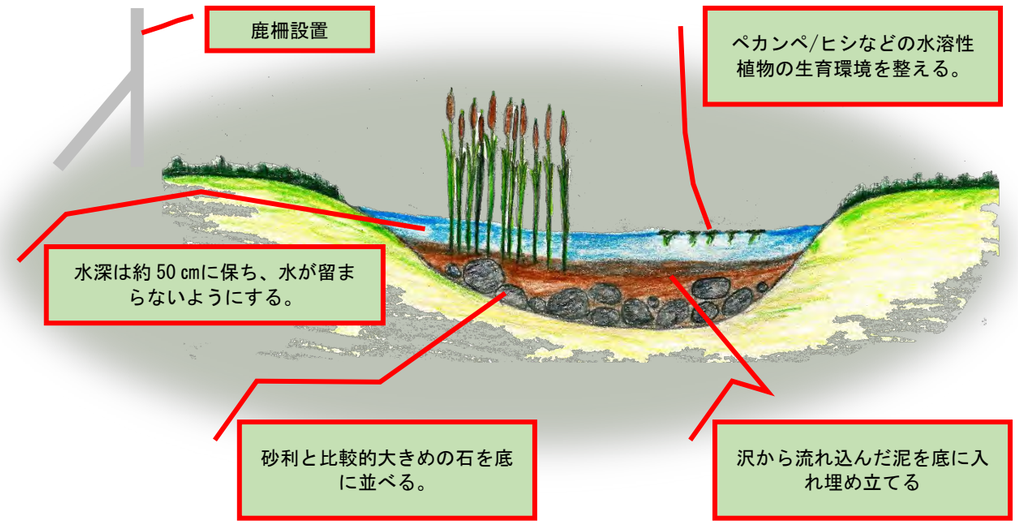
平成 28 年４月の状況

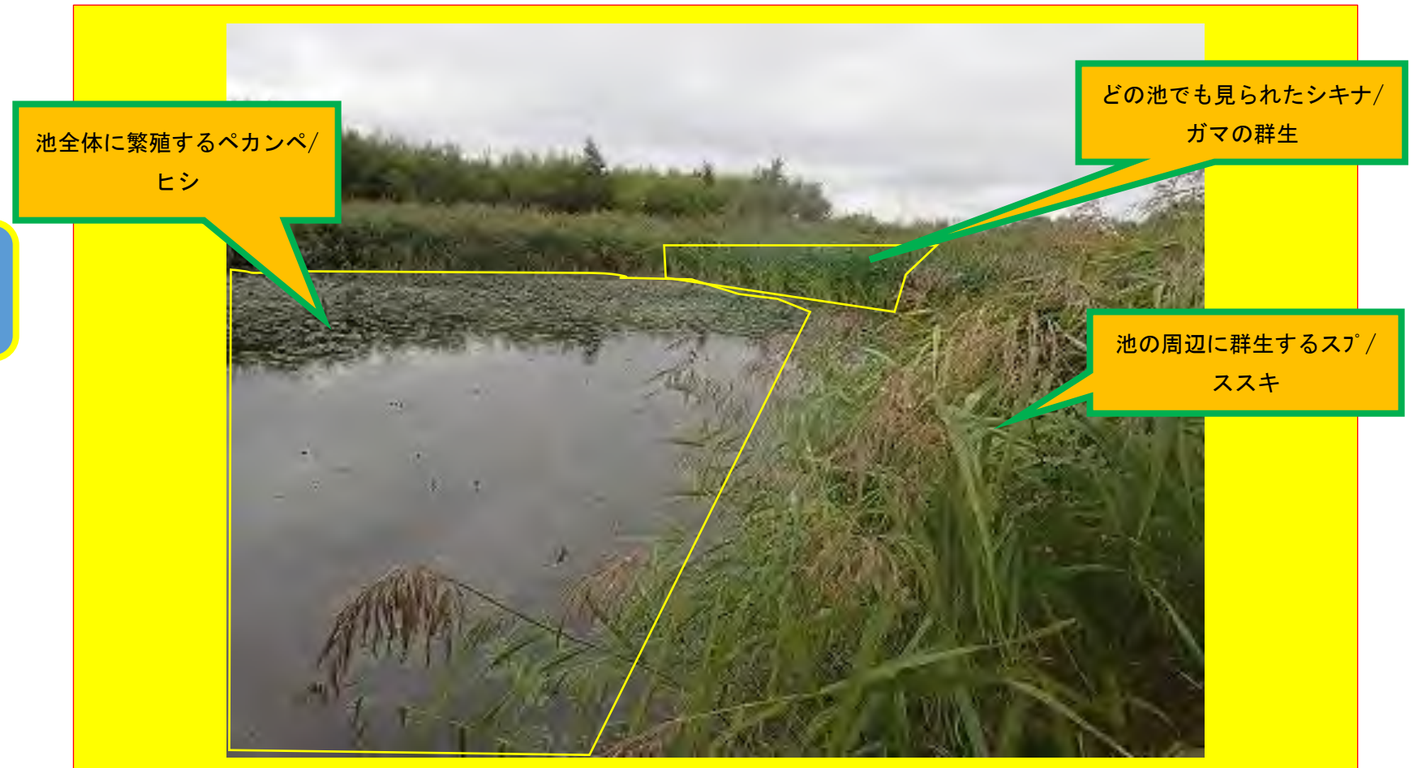
平成 28 年９月 20 日　台風被害現地の状況

平成 29 年 11 月 16 日撮影
昨年の台風被害後の整備工事で、看々の池が上記写真のように中州ができたままにされていました。

平成 29 年 11 月 16 日撮影
看々の池と同様に台風被害後の整備工事で、看々川には高めの堤防のようなもので仕切られていました。

H28 年度　看々の池の今後に向けた整備（案）



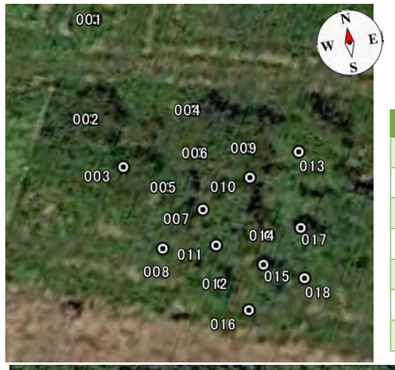


平成 29 年９月 14 日
石狩当別地区再整備計画の現地打ち合わせに行った際、記録した写真です。理想としては、この様な水生植物が生息できる水辺空間を看々の池での整備に結びつけたいと思います。

イ）モニタリング調査

①苗木・稚樹の成長記録

今年度は、新しく導入したGPS（位置情報取得機械）を利用して苗木の位置を地図に落としながらモニタリング調査を行いました。下図は、圃場エリアのモニタリング当時の木本配置図になります。



GPS 番号	管理プレート番号	樹種名（アイヌ語名・和名）	GPS 番号	管理プレート番号	樹種名（アイヌ語名・和名）	GPS 番号	管理プレート番号	樹種名（アイヌ語名・和名）
001	C74	チキサニ/アオダモ	008	◇１	チクペニ/イヌエンジュ	015	◇13	チクペニ/イヌエンジュ
002	◇７	チクペニ/イヌエンジュ	009	◇16	チクペニ/イヌエンジュ	016	◇５	チクペニ/イヌエンジュ
003	◇６	チクペニ/イヌエンジュ	010	◇18	チクペニ/イヌエンジュ	017	◇17	チクペニ/イヌエンジュ
004	－	チクペニ/イヌエンジュ	011	◇20	チクペニ/イヌエンジュ	018	◇15	チクペニ/イヌエンジュ
005	◇11	チクペニ/イヌエンジュ	012	◇８	チクペニ/イヌエンジュ			
006	◇10	チクペニ/イヌエンジュ	013	◇14	チクペニ/イヌエンジュ			
007	◇12	チクペニ/イヌエンジュ	014	◇19	チクペニ/イヌエンジュ			

019	◇T９	チクペニ/イヌエンジュ	035	◆14	チキサニ/ハルニレ	051	C54	トペニ/イタヤ類	067	C79	トペニ/ミツデカエデ
020	◇T42	チクペニ/イヌエンジュ	036	◇９	チクペニ/イヌエンジュ	052	◆22	チキサニ/ハルニレ	068	C76	トペニ/ミツデカエデ
021	◇T43	チクペニ/イヌエンジュ	037	T22	ネシコ/オニグルミ	053	C82	ニタットペニ/クロビイタヤ	069	C93	チキサニ/ハルニレ
022	◇T４	チクペニ/イヌエンジュ	038	T20	カスﾌﾟニ/ツリバナ	054	◆25	チキサニ/ハルニレ	070	C61	チクペニ/イヌエンジュ
023	◇T２	チクペニ/イヌエンジュ	039	△T57	ﾎﾛｶｱﾕｼﾆ/ケヤマウコギ	055	C98	チキサニ/ハルニレ	071	C77	トペニ/ミツデカエデ
024	◇T７	チクペニ/イヌエンジュ	040	△T56	カスﾌﾟニ/ツリバナ	056	C95	チキサニ/ハルニレ	072	C61	チクペニ/イヌエンジュ
025	◇T８	チクペニ/イヌエンジュ	041	Ｔ19	カスﾌﾟニ/ツリバナ	057	C102	ニタットペニ/クロビイタヤ	073	C63	チクペニ/イヌエンジュ
026	◇T５	チクペニ/イヌエンジュ	042	◆17	カスﾌﾟニ/マユミ	058	C93	イワニ/アオダモ	074	◆15	チキサニ/ハルニレ
027	◇T１	チクペニ/イヌエンジュ	043	△Ｔ59	ﾎﾛｶｱﾕｼﾆ/ケヤマウコギ	059	C94	チキサニ/ハルニレ	075	◆12	チキサニ/ハルニレ
028	◇T６	チクペニ/イヌエンジュ	044	△Ｔ58	ﾎﾛｶｱﾕｼﾆ/ケヤマウコギ	060	C99	イワニ/アオダモ	076	◆11	チキサニ/ハルニレ
029	◇T16	チクペニ/イヌエンジュ	045	◆18	チキサニ/ハルニレ	061	C83	ニタットペニ/クロビイタヤ	077	◆16	チキサニ/ハルニレ
030	◈T48	チクペニ/イヌエンジュ	046	◆４	チクペニ/イヌエンジュ	062	C96	チキサニ/ハルニレ	078	◆10	チキサニ/ハルニレ
031	□T22	チクペニ/イヌエンジュ	047	◆29	チクペニ/イヌエンジュ	063	C84	ニタットペニ/クロビイタヤ	079	◆13	チキサニ/ハルニレ
032	◇T10	チクペニ/イヌエンジュ	048	◇Ｔ25	チクペニ/イヌエンジュ	064	C80	トペニ/ミツデカエデ	080	◆21	チキサニ/ハルニレ
033	◇T４	チクペニ/イヌエンジュ	049	◆23	チキサニ/ハルニレ	065	C103	トペニ/ミツデカエデ	081	◆３	チキサニ/ハルニレ
034	◇T11	チクペニ/イヌエンジュ	050	◆２	チキサニ/ハルニレ	066	C78	ニタットペニ/クロビイタヤ			

7

沙流川河道掘削における事前調査

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ⅱ】
◎作業状況―写真による業務説明 【ⅲ】

■調査の成果
Ａ．沙流川河道掘削における事前調査について 【１】
ア）３年目の事前調査に至る経緯と作業経過 【１】
イ）調査の範囲・対象・方法 【２】
①地域文化保全に関する調査に関して 【２】
②河道掘削箇所現地調査に関して 【３】
ウ）調査成果の概要・所見／特徴／意義・課題 【６】

Ｂ.地域文化保全に関する調査 【８】
ア）調査による基本データ 【８】
イ）聴き取り調査の成果 【　】

Ｃ.沙流川河道掘削予定箇所現地調査 【11】
ア）調査事前検討 【11】
イ）現地状況の概要 【12】
ウ）沙流川右岸 kp15.2～15.5、左岸 kp15.4～16.0 区間の植生分布状況 【13】
エ）これまでに行ってきた調査箇所図 【14】
オ）2017 年度における現地調査 【15】
①春期調査 【16】
ａ〉右岸 kp15.2-15.4 の植生調査のまとめⅠ 【16】
ｂ〉右岸 kp15.2-15.4 の植生調査のまとめⅡ 【17】
ｃ〉右岸 kp15.4-15.5 の植生調査のまとめ 【18】
ｄ〉右岸 kp15.5 の植生調査のまとめ 【19】
ｅ〉左岸 kp15.4-15.6 の植生調査のまとめ 【20】
ｆ〉左岸 kp15.6-16.0 の植生調査のまとめ 【21】
②夏期調査 【23】
ａ〉植生断面調査事前準備 【23】
ｂ〉右岸の植生断面調査状況 【24】
ｃ〉右岸の植生断面図 【26】
ｄ〉左岸の植生断面調査状況 【27】
ｅ〉左岸の植生断面図 【29】
③秋期調査 【30】
ａ〉右岸断面調査箇所周辺の様子 【30】
ｂ〉左岸断面調査箇所周辺の様子 【31】
④冬期調査 【33】
カ）四季を通した現地状況の記録 【35】
キ）川とアイヌ文化の関わり 【36】
ク）調査のまとめ 【37】

■別添資料：沙流川流域アイヌ語地名データベース Ver.2017

■関連資料（電子データ版のみに所収）
〇生物名（植物・動物）一覧 【関連資料ー①】

番号	007-①	29年度		岸・源	
地形分類	集落	地域･川筋		漢字	

アイヌ語地名　オ　バ　ウシュ　ナイ

ローマ字表記　o pa ush nay

調査室調べアイヌ語表記

【o】=（の）尻,沢尻,陰茎.　【萱野】
【pa】=頭.　【萱野】
【usi】=場所,所.　【萱野】　【us】=ついている,生えている.　【萱野】
【nay】=沢,小沢.　【萱野】

出典・由来①　オパウシュナイ・オバウスナイ・オバウシナイ・ヲバウスナイ・ヲバウシナイ・ウバウスナイ【字名地番整理調書　昭和48年４月１日施行　「新旧地番整理調書　平取P.334-335　沙流郡平取町】

出典・由来②　＜ＩＣ20150303-002：伊藤義美さん聴き取り＞

出典・由来③　【永田方正　1984年発行「北海道蝦夷語地名解」P257　株式会社草風社」瓦斯(ガス)多キ川

出典・由来④　【2003年発行「平取町百年史」P329-344　第一法規出版株式会社】第二編　通史　第三章　近代の平取とアイヌ社会　第三節　平取における外国人

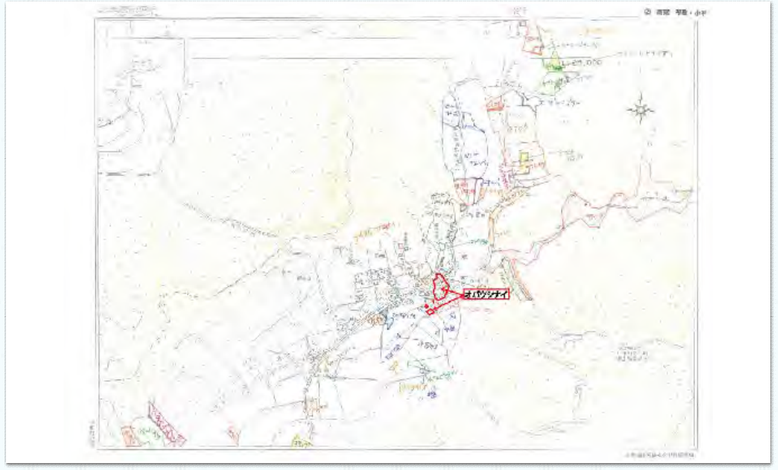
出典・由来⑤　【2003年発行「平取町百年史」P1069-1070第一法規出版株式会社】第３編　部門史　第七章　社会福祉と保健衛生　第三説　児童福祉

出典・由来⑥

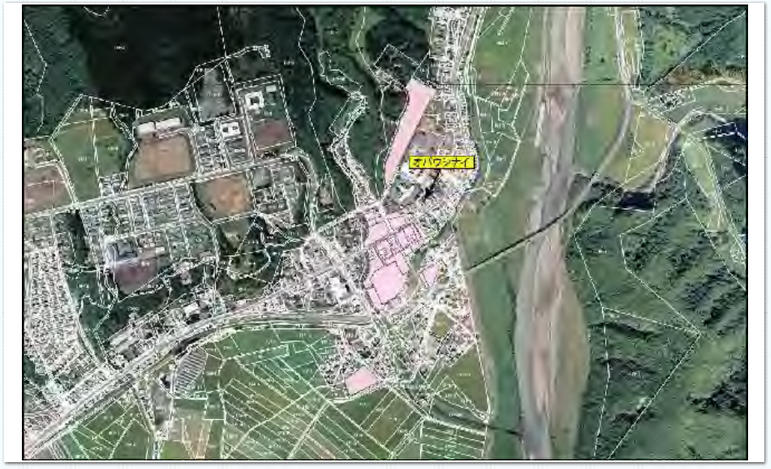
関連情報　●ウウェペケレ　■ウパシクマ　◆カムイユカラ　▲聞き取り情報（文献も含む）

▲オバウシナイの沢は別名、中道の沢と呼んでいる。正式には、オバウスナイだが意味はわからない。昔のオバウシナイは、今の場所ではなく、公民館の方へ流れていた。
▲公民館からモータースさんのある辺りが湿地帯で水脈があったが、現在は、真っ直ぐ切り替えられてしまった。
▲神社の関係のあの、公営住宅の横の沢とか、神社の階段のとこもあれがナイで出て来てる。＜ＩＣ20150303-002：伊藤義美さん聴き取り＞

昭和48年平取町各地番整理調書



「新旧地番整理書」位置図（航空写真版）



現地の状況

現地撮影写真１

現地撮影写真２

現地撮影写真３

現地撮影写真４

文化的所産

第二編　通史
第三章　近代の平取とアイヌ社会
第三節　平取における外国人
平取の歴史には忘れてならない三人の外国人がいる。それは、ジョン・バチラー氏、エディス・メアリー・ブライアント、ニール・ゴードン・マンローの三人である。キリスト教の伝道活動や社会教育活動、そして医療活動、あるいはアイヌ民族研究など、平取へのかかわり方は異なっていても、異国の地から平取に来、そして平取とともに生きたという点では三人は同じといってよいであろう。
一　アイヌとともに歩んだジョン・バチラー
バチラーの来日
ジョン・バチラー（一八五四～一九四四）は「アイヌの父」と通称された宣教師であり、言語・民俗学者かつ社会事業家である。
一八五四年、ロンドン南方のサセックス郡アックフィールドで生まれ、その後、宣教師になるべく神学校に学ぶ。そして東洋での伝道のために、英国聖公会のCMS（海外伝道協会）給費生として香港セント・ポーロ大学で学びはじめたところ、マラリアにかかり、転地療養という医者の勧めで来道したという。
バチラーは、明治十年（一八七七）、伝道のため函館に派遣されていたW・デニング司祭のもとで学生宣教師として働き、そこで日本語とアイヌ

現地状況・見解

2017年3月15日,16日、目視と写真撮影による調査を実施（＊現地の状況写真は、バチェラー保育園）。

番号	007	H27年度		岸・源	右岸
地形分類	川	地域･川筋	平取地区	漢字	

アイヌ語地名 オ　パ　ウシ　ナイ（通称名：中道の沢）

ローマ字表記 o pa usi nay

調査室調べアイヌ語表記

【o】=（の）尻,沢尻,陰茎.　【萱野】
【pa】=頭.　【萱野】
【usi】=場所,所.　【萱野】　【us】=ついている,生えている.　【萱野】
【nay】=沢,小沢.　【萱野】

出典・由来① 【明治29年陸地測量部・五万分の一地図】

出典・由来② 【国土地理院25000分の1】

出典・由来③ ＜ＩＣ20150303-002：伊藤義美さん聴き取り＞

出典・由来④ オバウシナイ【字名地番整理調書　昭和48年４月１日施行「新旧地番整理調書」沙流郡平取町】

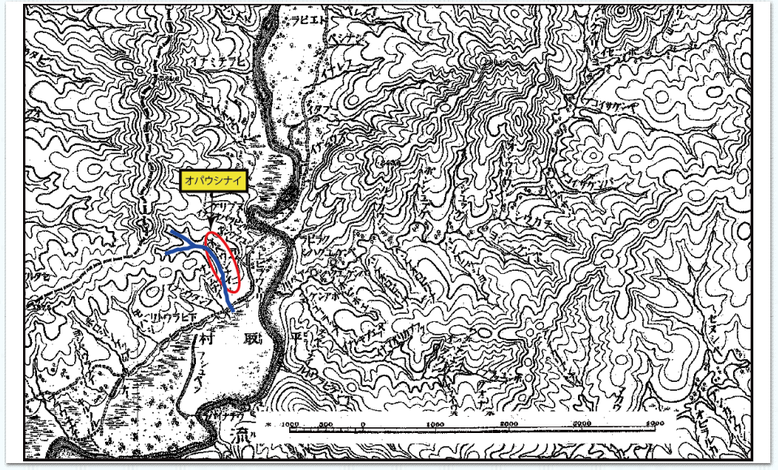
出典・由来⑤ カシミール『国土地理院地図（新版）』レベル1.6

出典・由来⑥

関連情報　●ウウェペケレ　■ウパシクマ　◆カムイユカラ　▲聞き取り情報（文献も含む）

▲オバウシナイの沢は別名、中道の沢と呼んでいる。正式には、オバウスナイだが意味はわからない。昔のオバウシナイは、今の場所ではなく、公民館の方へ流れていた。
▲公民館からモータースさんのある辺りが湿地帯で水脈があったが、現在は、真っ直ぐ切り替えられてしまった。
▲神社の関係のあの、公営住宅の横の沢とか、神社の階段のとこもあれがナイで出て来てる。＜ＩＣ20150303-002：伊藤義美さん聴き取り＞

明治29年陸地測量部・五万分の一地図



カシミール『国土地理院地図（新版）』レベル1.6

現地の状況

現地撮影写真１

現地撮影写真２

現地撮影写真３

現地撮影写真４

文化的所産

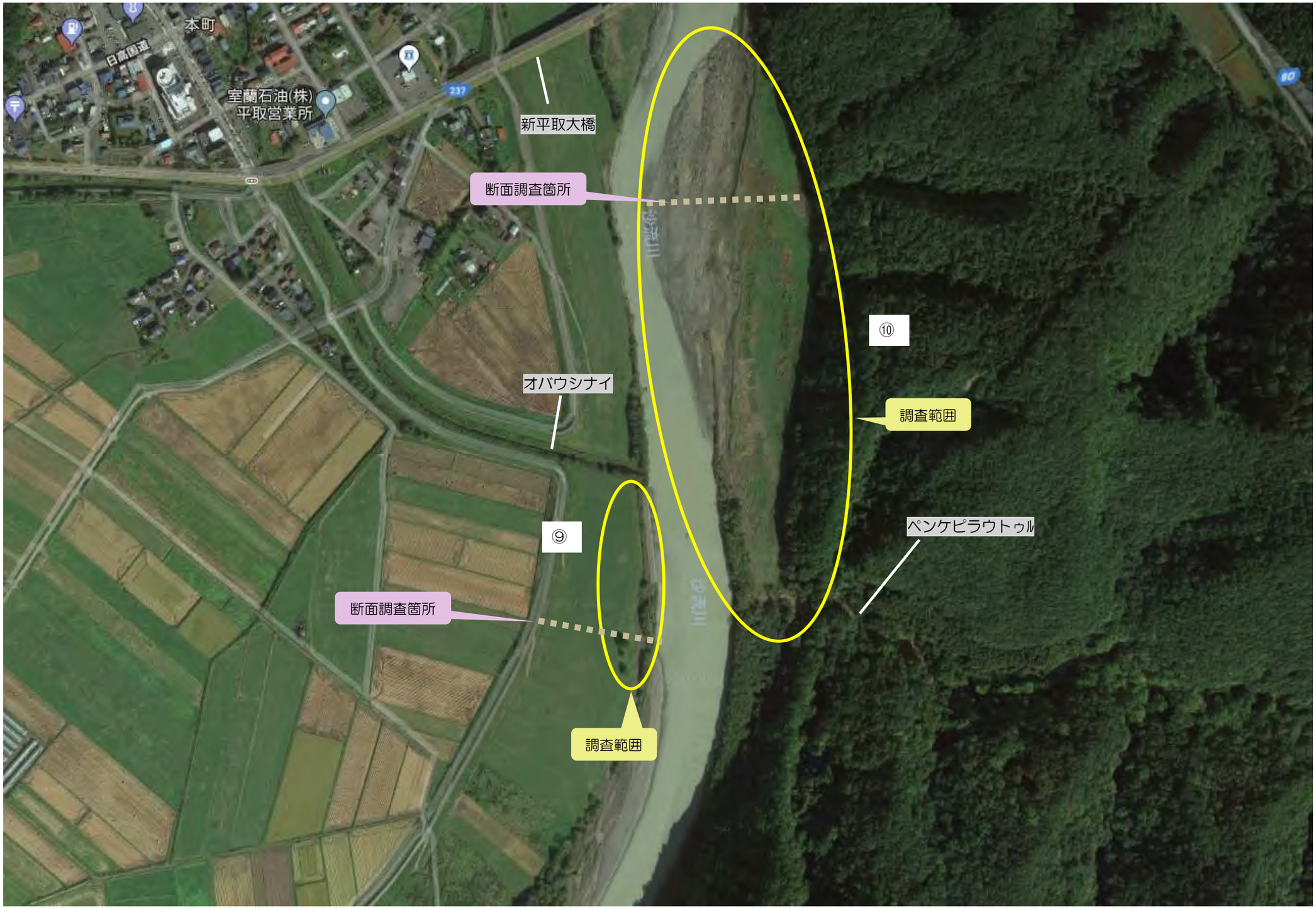
本町地区の遺跡
旧平取小学校植物園遺跡
明徳寺遺跡
平取桜井遺跡
平取中学校校庭遺跡
みどりが丘１遺跡
№102オパウシナイ１遺跡
遺跡は本町市街地の南側、沙流川が市街地側に蛇行する右岸の低位段丘上、標高三〇メートル前後に立地する。市街地の北側には、標高一五〇～二〇〇メートル級の底位山脈が連なっており、そこを源とするオバウシナイ川が遺跡を貫通して沙流川へと流出している。この遺跡は、平取バイパスの新設工事に伴って事前協議書が北海道開発局室蘭開発部から提出され、所在確認調査、試掘調査を経て平成六年に周知化された。同時に、同工事に伴い平成六年に四二〇平方メートル、平成七年に二二八〇平方㍍、平成八年に六〇〇平方メートルの述べ三三〇〇平方メートルが発掘調査された。調査の結果、樽前ｂ降下火山灰上位の層からアイヌ文化期の墳墓五基と六万一〇〇〇点あまりの動物遺存体、一〇七店の金属製品のほか、ガラス玉、古銭、漆塗椀、陶磁器片などが出土した。アイヌ墓はいずれも頭位を南東にした仰臥伸転葬（ぎょうがしんてんそう）で埋葬されていたが、５号墓のみ下半部がのちの水道管理工事で破損されていた。副葬品は

現地状況・見解

オパウシナイ右岸は、2017年度河道掘削における事前調査の調査範囲となっています。聴き取り情報＜ＩＣ20150303-002：伊藤義美さん聴き取り＞によると、この沢（オパウシナイ沢）は、通称「中道の沢」（＊元平取町町長（中道善光氏）が住んでいるからか？）とも呼ばれているようです（＊2017年度追記）。
この沢には、都橋（現地撮影写真３）、都２号橋、オパウシナイ橋、ほくとはしなどが架けられている。
ほくとはし付近に設置されている看板（現地撮影写真４）には、川尻にガスの多い川。合流点付近に小沢がくっついている所と記載されていました。

オ）2017 年度における現地調査

◎調査範囲と断面調査箇所図



b〉右岸 kp15.2-15.4 の植生調査のまとめⅡ

右岸 kp15.2～15.4 の状況　　調査日：2017 年５月 17 日		
調査箇所と全体概要 ※Ｐ15 の図の⑨箇所		【調査範囲 kp15.2-15.5 の内、kp15.2～kp15.4 付近（黄実線囲み）の状況】 河畔林の中にチキサニの稚樹を多数確認。（最大樹高約 70 ㎝、平均樹高 5～60 ㎝。）河畔林の側に大きなチキサニが３本あり、母樹としても景観的にも重要な木である。踏査時は一番大きなチキサニ（樹高 17.5m、樹径 75 ㎝）には枝一杯に種子が付いていた。草の少ない砂地に足で筋を付け、自然に種が飛んでくる事を期待し、経過を見る。（２か月後の状況　Ｐ●、表参照）

植生状況写真

チキサニ/ハルニレ

チキサニと川原の間の様子

砂地の所に筋を付け、自然播種の植生経過を見る

エマウリ/ナワシロイチゴ

チキサニの種子

チキサニの幼木（林内）

確認された有用な植物	コロコニ/アキタブキ	ノヤ/オオヨモギ	エマウリ/ナワシロイチゴ	シブシブ/トクサ
	スス/タチヤナギ	スス/オノエヤナギ	スス/キヌヤナギ	チキサニ/ハルニレ
確認された動物	アマメチカッポ/ニュウナイスズメ〈囀り〉	チカブ/オシドリ　〈飛翔〉	チカブ/イソシギ　〈囀り〉	

b〉右岸の植生断面調査状況

※Ｐ23 の図と対応

■確認した生物

鳥類：ホホチリ/ウグイス（囀り）、シエパシクル/ハシブトガラス（囀り）、ワトッタカムイ/トビ（飛翔）、チャランケチカプ/ヒバリ（目視）、チカプ/ホオアカ（囀り）、

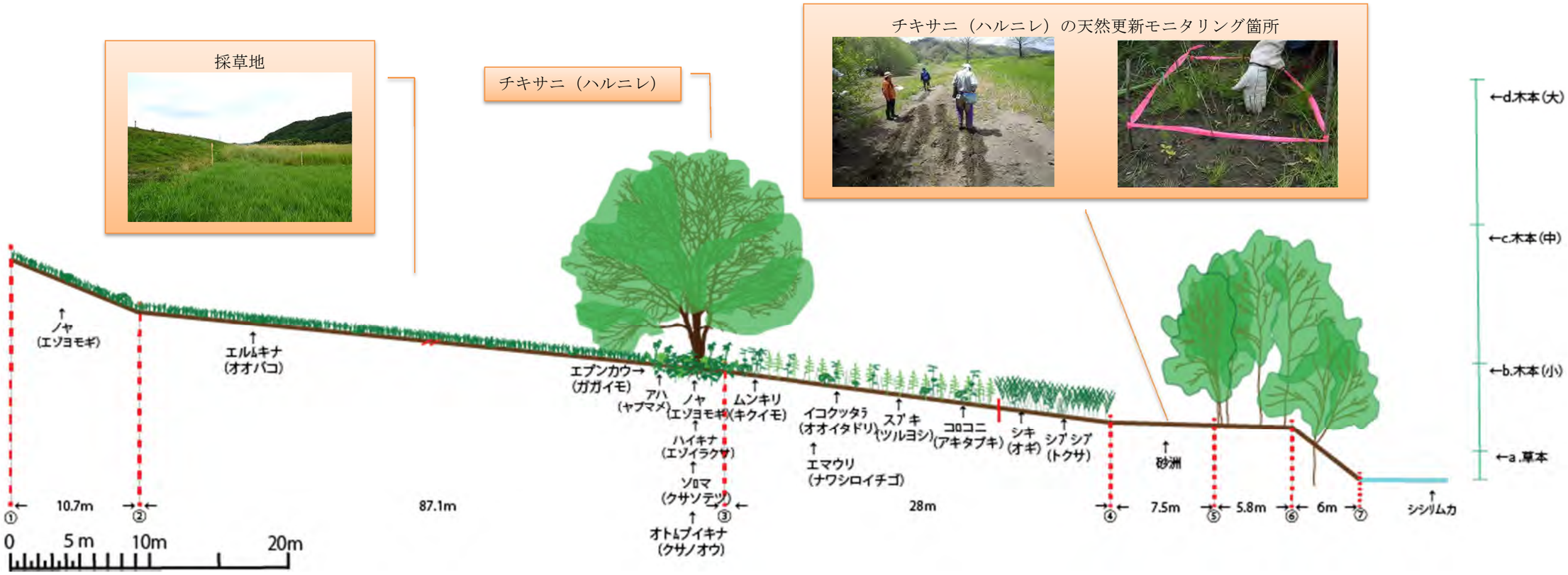
哺乳類：チロンヌプ/キツネ（巣穴？）、ユク/エゾシカ（足跡）

（調査日：７月 20 日/曇り）

杭番号	距離/傾斜	各区間の様子			確認された有用植物（樹高/樹径）
①～②	10.7m /22° 堤防/土手	 ①～②を上流から下流方向に見た状況	 ①～②を下流から上流方向に見た状況	 ノヤ/オオヨモギ（高さ約 30 ㎝）	ノヤ/オオヨモギ（高さ 30 ㎝） コロコニ/アキタブキ
②～③	87.1m/ 2° 牧草地	 刈取り後（手前）と刈取り前の牧草の様子。	 エルムキナ/オオバコ（牧草地）	 ③の杭から約 18.3m 下流側に離れた所にあるチキサニ。根本の植生は右記の通り。	【チキサニ周辺の植生】 ハイキナ/エゾイラクサ コロコニ/アキタブキ ソロマ/クサソテツ アハ/ヤブマメ ノヤ/オオヨモギ エプンカウ/ガガイモ オトンプイキナ/クサノオウ エマウリ/ナワシロイチゴ ムンキリ/キクイモ イコクッタラ/オオイタドリ エルムキナ/オオバコ

c〉右岸の植生断面図

夏期調査として、沙流川右岸 kp15.3 付近において植生断面図を作成するための調査を実施しました。築堤から、川原までの距離は 145.1mにおよびました。調査の詳細につきましては、b〉右岸の植生断面調査状況を参照してください。また、アイヌ文化に関わる有用性については下段の表を参照して下さい。



◎アイヌ文化に関わる有用性

a（草本）	b・c・d・f（低木・中木・準高木・小高木）	その他
①アハ（ヤブマメ）-食用として利用。 ②イコクッタラ（オオイタドリ）-遊具として利用（チレクテトプ（笛））、保存用コロコニの変色防止として利用。釣りの餌（中に入っている虫）として利用。薬用として利用（クッタラハム（オオイタドリの葉）は吸い出しの代わり。食用（若芽や若い茎）として利用。 **③コロコニ（アキタブキ）-食・生活用具（＊コロチセの屋根材）として利用。** ④シプシプ（トクサ）-生活用具（木の表面を磨くヤスリ）として利用。 ⑤スプキ（ツルヨシ）-チセ建築材料（＊屋根及び壁材）として利用。 **⑥ソロマ（クサソテツ）-食用として利用。** ⑦ノヤ（ヨモギ類）-食・薬用・信仰（タクサの材料）、生活用具（染料）として利用。 ⑧ハイキナ（エゾイラクサ）-食用として利用。 ⑨エマウリ（ナワシロイチゴ） ⑩エルムキナ（オオバコ） ⑪エプンカウ（ガガイモ） ⑫オトムプイキナ（クサノオウ） ⑬シキ（オニガヤ） ⑭ムンキリ（キクイモ）	①チキサニ（ハルニレ） ②スス（ヤナギ類）-進行の道具（＊イナウネニ）として利用。他に漁具（ラウォマプ（簗）クトゥ（ど）等の材料）として利用。スクシチセ（日除け）＊葉のままの柳の木などで作る日除けの家）として利用。	

8

アイヌ文化保全対策の実施に向けた調整・整理

■目次 【ｉ】

■概括
◎目的／課題、調査方法、年間作業工程、経過、成果、課題 【ii】
◎作業状況―写真による業務説明 【iii】

■調査の成果
Ａ．ワーキンググループの運営と資料作成 【１】
ア）ワーキンググループの経緯・方針・構成（メンバーリスト） 【１】
イ）ワーキンググループの各回の議題・資料 【３】

Ｂ．ミッションの運営と協議 【６】
ア）ミッション MUSE 【６】
① 展示の特徴 【６】
② 主な協議・作業内容 【６】
③ 今後の課題 【11】
イ）ミッション植物保全 【12】
① 主な協議・作業内容 【12】
② 今後の課題 【12】
ウ）ミッション PIPAUSI 【13】
① 主な協議・作業内容 【13】
② 今後の課題 【13】
エ）ミッション SUMA 【14】
① 主な協議・作業内容 【14】
② 今後の課題 【14】

Ｃ．Ａ・Ｂの作業のほか保全対策の具現化のための調整・整理作業 【15】
ア）対策室の活動 【15】
① 対策室の活動一覧 【15】
② 石狩川当別地区におけるシキナ（ガマ）試験採取についての協議と実施 【17】
③ どさんこ馬特別試乗会・馬による伐採木搬出の試行 【21】
イ）平取町行政内ほか関連団体などとの協議・調整 【22】
① アイヌ文化振興基本計画推進プロジェクトチーム内での協議・調整 【22】
② 平取アイヌ協会との協議・調整 【26】

Ｄ．総括 【26】
ア）平成 29 年度の総括と今後の課題 【26】
イ）【補足】アイヌ文化環境保全対策事業の特徴について 【27】

■関連資料（電子データ版のみに所収）
○保全対策ワーキンググループの各回資料 【関連資料－①】
○ミッションの各回資料 【関連資料－②】
○アイヌ文化保全対策室全体協議の各回資料 【関連資料－③】
○平取アイヌ協会の要望関係資料 【関連資料－④】
○沙流川水系河川整備計画（関係部分にマーカーなどを付した改編版） 【関連資料－⑤】
○＜各作業分野における取組・成果の概況＞集約版 【関連資料－⑥】

保全対策ワーキンググループの様子			
（７/31）　眺望・祈りの場における展示パネルについての協議	（８/１）　植物保全地区についての協議	（９/27）　チセコッツエイノンノイタク（地神祭）についての勉強会	(11/29)　眺望・祈りの場の施設の外壁についての協議
保全対策現地ワーキンググループの様子（10/30）			
Ｓ－０５とすずらん群生地とのつながりについての協議	眺望・祈りの場における築山についての協議	記憶の場の設置場所についての協議	工事事務所での振り返りとまとめの様子

B. ミッションの運営と協議

沙流川ダム建設事業所との月１回の打合せをミッションとし、MUSE、植物保全、PIPAUSI、SUMA の４つについて、意見交換を行いながら保全対策の実施に向けて取り組みました。
各ミッションでの主な作業内容は以下の通りです。

◇ ミッション MUSE　→　主に、眺望・祈りの場の屋内展示について（MUSE は MUSEUM の語源でもあることから、このミッションはこの名前で作業をしています）

◇ ミッション植物保全　→　主に、35 地区にエリア分けしている植物保全区についての整備と民族植物園構築について

◇ ミッション PIPAUSI　→　主に、平取町二風谷にあるピパウシ沢、特に下流域についての整備とピパ（カワシンジュガイ）の生息環境の回復について

◇ ミッション SUMA　→　主に、眺望・祈りの場における野外展示と石資源の保全・活用について　（SUMA は、アイヌ語で「石」を意味します）

ア）ミッション MUSE

今年度行ったミッション MUSE の作業内容についてまとめました。

①展示の特徴

◆「私たち」（三者）→　平取アイヌ協会、平取町（自治体）、開発局（国機関）の三者。三者の協力による取組の成果を展示構成の基調としている。

◆今日性・現代性　→　一般的なアイヌ文化の紹介ではなく、「私たち」が、いま現在、どのようにアイヌ文化と伝統に向き合い、引き継いでいこうとしているのか表象することを重視している。

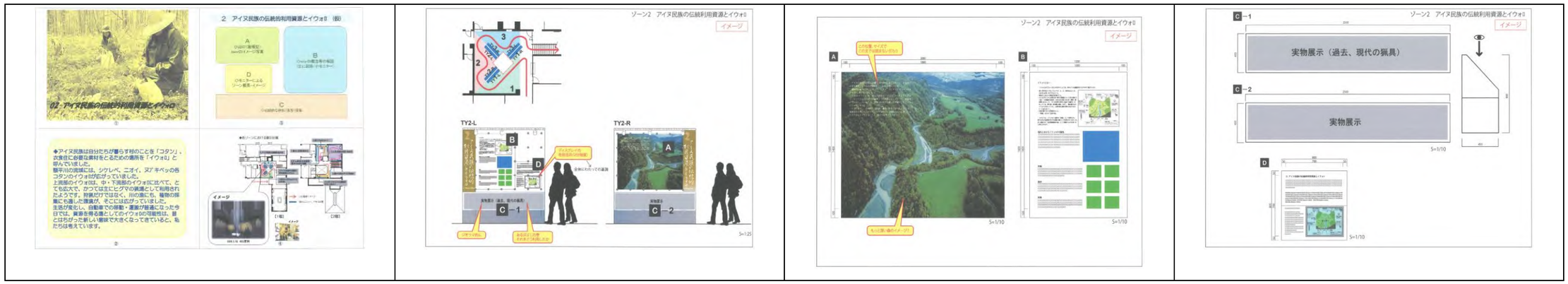
◆アイヌ語の重視　→　展示においては、アイヌ語と和語を基本としながら多言語対応を行う。

②主な協議・作業内容

全部で９ゾーンある展示スペースにおいて、各ゾーンの基調となる展示内容や展示の方法、今後必要になる写真や資料などについても協議をしました。

【展示原案】

＜例として、ゾーン２　アイヌ民族の伝統的利用植物とイウォロ＞



【作業風景】　＜実物大の展示物などを用意してもらい、意見交換を行いながら作業しました＞

③今後の課題

◆現在の検討・作業体制の持続と強化拡充。

◆「三者」による協働を重視し、展示制作工程において強く留意、具現していくこと。

◆基本設計にもとづく詳細設計、これらにもとづく個々の展示資料、展示具等の設計、制作工程の明確化、それにもとづく作業遂行。

＜協議・打合せの流れ＞

日　付	内　容	参加者
４月～	岡村俊邦先生と石狩川下流当別地区自然再生計画実施地への見学等に関する打合せを始める。この時点では試験採取を念頭にしておらず、先進事例への研修を想定。	
４月 19 日	岡村先生の生態学的混播・混植法の実践地、石狩川当別地区自然再生計画実施地の見学。	岡村先生 アイヌ文化保全対策室 平取町イオル事務所
７月 18 日	平取町イオル事業の第３回水辺空間検討部会と合同で、石狩川当別地区自然再生の計画地を見学、自然再生地の考え方などを勉強。 （管理者のご案内・解説）（あわせて、北海道医療大学の薬用植物園・北方系生態観察園を見学） →　その後、管理者よりガマの試験採取についての前向きな返答をいただく。	イオル水辺部会員 アイヌ文化保全対策室 平取ダム建設事業所
８月～	管理者、岡村先生、札幌アイヌ協会と試験採取の可能性について協議・検討を始める。	
９月 14 日	石狩川当別地区自然再生地にて、実際のガマ採取作業に向けた打合せ。	岡村先生 アイヌ文化保全対策室 平取ダム建設事業
９月 21 日	石狩川当別地区自然再生地でのガマ採取作業。 →　平取町へ戻り、沙流川とシケレベ川の合流点にて採取したガマの洗い作業。	岡村先生 平取アイヌ文化保存会 アイヌ文化保全対策室 平取ダム建設事業所

＜９月 21 日当日作業のスケジュールと持ち物＞　（シキナの採取から処理・保存までの一連の作業の流れは、次ページにまとめています。）

〇作業スケジュール

7：30	対策室集合		対策室職員・保存会役員
7：45	対策室出発		乗用車３台＋２ｔトラック１台
10：00 ～ 12：00	現地到着　→　作業内容説明・採取方法などを確認		沙流ダム、岡村先生合流
	草刈り作業		シキナを搬出しやすいように、水際の草を刈り倒し
	採取	＜イメージＡ＞　→　５ｍ×５ｍ（全面刈り） ＜イメージＣ＞　→　間伐（間引く）	＊イメージＡ・Ｃは、前ページのイメージ図を参照
12：00	現地出発		（現地でガマ洗いをする予定であったが、川の状態等を鑑みて、平取町に戻って作業を行うこととし移動を開始）
15：00 ～16：20	平取町到着 →　沙流川とシケレベ沢の合流点でガマ洗い作業		ガマ洗い作業は翌日も継続して作業を行った。

〇持ち物

①刈払機（＋燃料）：２台（対策室）
②ガマ刈鎌：６本（対策室、保存会、イオル事務所）
③ビニール紐：対策室および保存会で準備
④カッター、軍手
⑤胴付き長靴：10 個（対策室、イオル、個人所有物）
⑥安全対策用具

＜今後について＞

・自然再生計画に関わってきた関係者の意向を継続的に尊重し、管理者との調整窓口は平取町アイヌ施策推進課アイヌ文化保全対策室が担当する。
・平取アイヌ文化保存会、平取アイヌ協会、札幌アイヌ協会との調整・協働をさらに進める。
・今年度採取した箇所の経過を確認し、持続可能な方法を検討する。また石狩川での事例を参考に、沙流川流域でシキナを増やす方法を検討する。

③どさんこ馬特別試乗会・馬による伐採木搬出の試行

シシリムカ文化大学野外実習講座として、どさんこ馬特別試乗会を行った。また馬による伐採木の搬出の試行を行った。保全対策を考えるうえで、馬と地域のアイヌの人々の関わりも考慮に入れるため、今年度の取組についてまとめました。

○どさんこ馬試乗会（10 月 13 日　芽生地区　S-04）

Ｓ－０４のフットパスルートの活用に関する試行として、どさんこ馬の試乗会を行った。アイヌ文化環境保全対策事業の各種調査に協力をしていただいている岡村俊邦先生（北海道大学名誉教授）から、北海道和種馬保存協会道央支部を紹介していただいた。

試乗会に向けた準備

・岡村先生、和種馬保存協会との調整。
・沙流川ダム建設事業所との調整。（ルートの場所、工事現場への連絡など）
・馬房などの受入態勢の準備　→　昨年度と今年度は、旭地区に在住の方の馬房を借用した。（今後は、受入態勢の整備が課題）
・試乗会会場・ルートの整備　→　平取町高齢者事業団へ依頼。

当日のスケジュール

８：45	二風谷（対策室事務所）を出発。　→　９：15　試乗会会場（芽生）到着。
９：30	和種馬保存協会の方々（協会員７名、馬５頭）が会場に到着。
９：35	馬を車から降ろし、鞍などをつける。（保存協会員による指導）
10：10　～　12：00 13：00　～　15：00	試乗会　（引き馬のやり方などについて、保存協会員による指導）
15：00	鞍などをはずし、馬を車に入れる。（保存協会員による指導）
15：30	馬房のある旭へ移動。
15：50	旭に到着。馬房に馬を入れる。
16：15	旭を出発。　→　16：45　二風谷（対策室事務所）に帰着。

＜馬と地域のアイヌの人々との関わり＞

（例１）
荷負本村の男性が、宿主別橋たもとに番兵小屋をもっており、そこで馬の世話をしていた。そして、その小屋から外に出てチノミシリ（我ら祭る所）に向かって、カムイノミ（神への祈り）をしていた。　【『総括報告書』P222/440】

（例２）
私の家は祖父の代からの農家で、馬とは切っても切れない縁があった。明治四十年（一九〇七年）頃祖父は四十頭あまりの馬を所有していたようで、私が少年の頃、秋の夜長に祖父がストーブに背中あぶりをしながら、馬の話をいろいろとしてくれた事を記憶している。
祖父は沙流川の上流シュクシュベツの牧野や、振内の西側にそびえるキフルという高い山の頂上の姫笹の高原地帯に、馬を放牧していた。
【川上勇治 2003『増補版　サルウンクル物語』すずさわ書店 P. 194】

鞍の設置方法の指導

引馬の指導

フットパスルートにおける試乗

鞍の外し方の指導

○馬による伐採木の搬出の試行（12 月 18 日-19 日　芽生地区　N-16、S-05）

35 の植物保全区の中から、馬による伐採木の搬出の試行を行った。重機による搬出に比べ馬による搬出では、地面に与える影響が少ない。岡村先生の紹介で、厚真町で活動されている西埜馬搬の西埜将世氏にご協力をいただいた。保全区における搬出に関しては、2-1 植物の保全対策に関する調査の報告書もご覧ください。